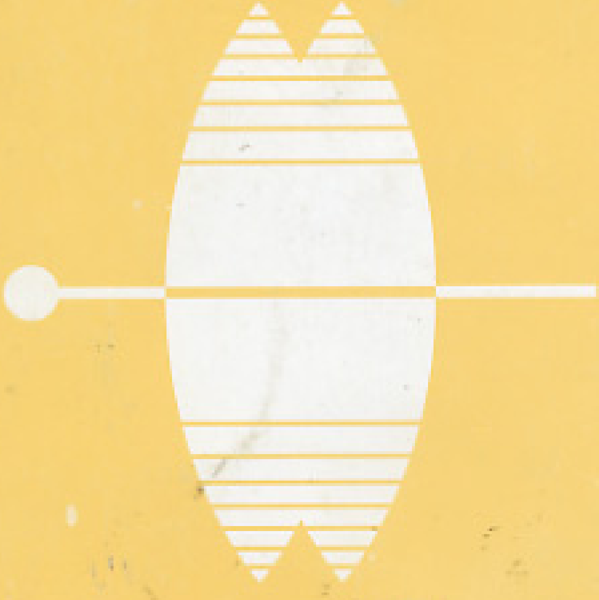
CAPAカメラシリーズ ㊴

2週間でマスターする風景写真の基本構図

完璧な構図決定

山口高志



GAKKEN CAMERA MOOK

VISIT…

LANZAROTE Caliente.COM

目次
CONTENTS

Gallery 風景の構図 4

構図を知るための基礎知識 11

approach 1 風景の中の線、形、面に着目する 12

approach 2 構図を成功させるためのポイント 20

絵画も線、形、面で構成されている 26

approach 3 写真には絵画にはない独自の表現がある 28

集中講座 2週間でマスターする

風景写真の基本構図 31

1日目 水平線構図 画面に広がりを出す 32

2日目 垂直線構図 上下への伸張感を出す 36

3日目 斜線構図 生き生きとした動感を出す 40

4日目 対角線構図 画面を2等分割して、安定感を出す 44

5日目 放射線構図 躍動感を表現する 48

6日目 曲線構図 優美さを引き出す 52

7日目 三角形構図 安定感が得られる 56

8日目 逆三角形構図 開放感を生み出す 62

9日目 三角形の変形構図 にぎやかさを引き出す 66

ENTS

カバー写真●山口高志

デザイン・レイアウト●赤井晴美
風間久子
森村直美

※本書の撮影データ中、RVPはフジクロームベルビア、KRはコダクローム64。ニコンF3は中央部重点測光、ニコンF4s、ニコンF5は多分割測光。すべて三脚使用です。

10日目 中央1点構図 被写体の存在感を高める 70

11日目 対比・対称構図 わき役が主役を引き立たせる 74

12日目 遠近法構図 距離感や奥行き感を出す 80

13日目 パターン構図 繰り返しでリズム感を出す 86

14日目 トンネル構図 視線を集中させる 90

応用上級篇
被写体をいかす基本構図の組み合わせ 97

山並み 98　木々 100　木の幹 102
紅葉 104　海と岩 106　空と太陽 108
花 110　川と滝 112　草原 114

フィールド実践篇
フレーミングから構図の決定まで 115

春●サクラ 116　夏●滝 118　湿原 120　海 122
秋●紅葉 123　田園 124　冬●樹氷 126　雪 128

中判カメラ&大判カメラのフォーマット別構図の決め方 129

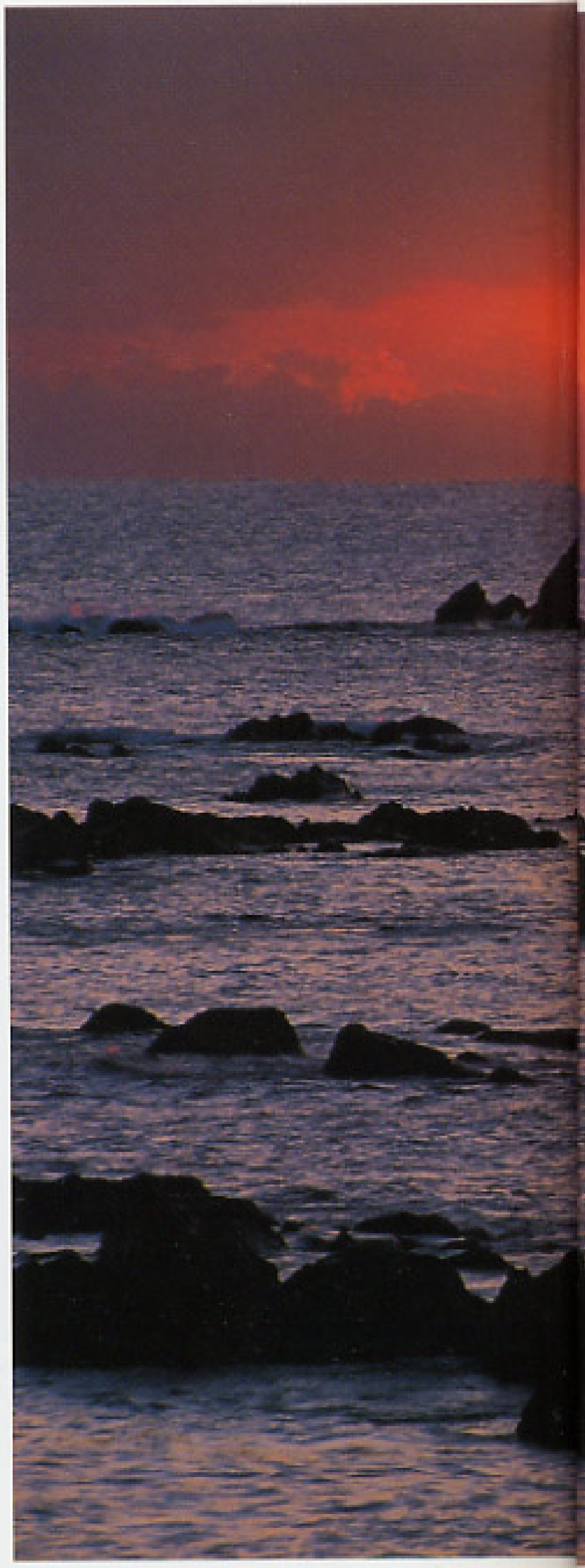
本書掲載写真の撮影地インデックス 140
筆者紹介／奥付 144

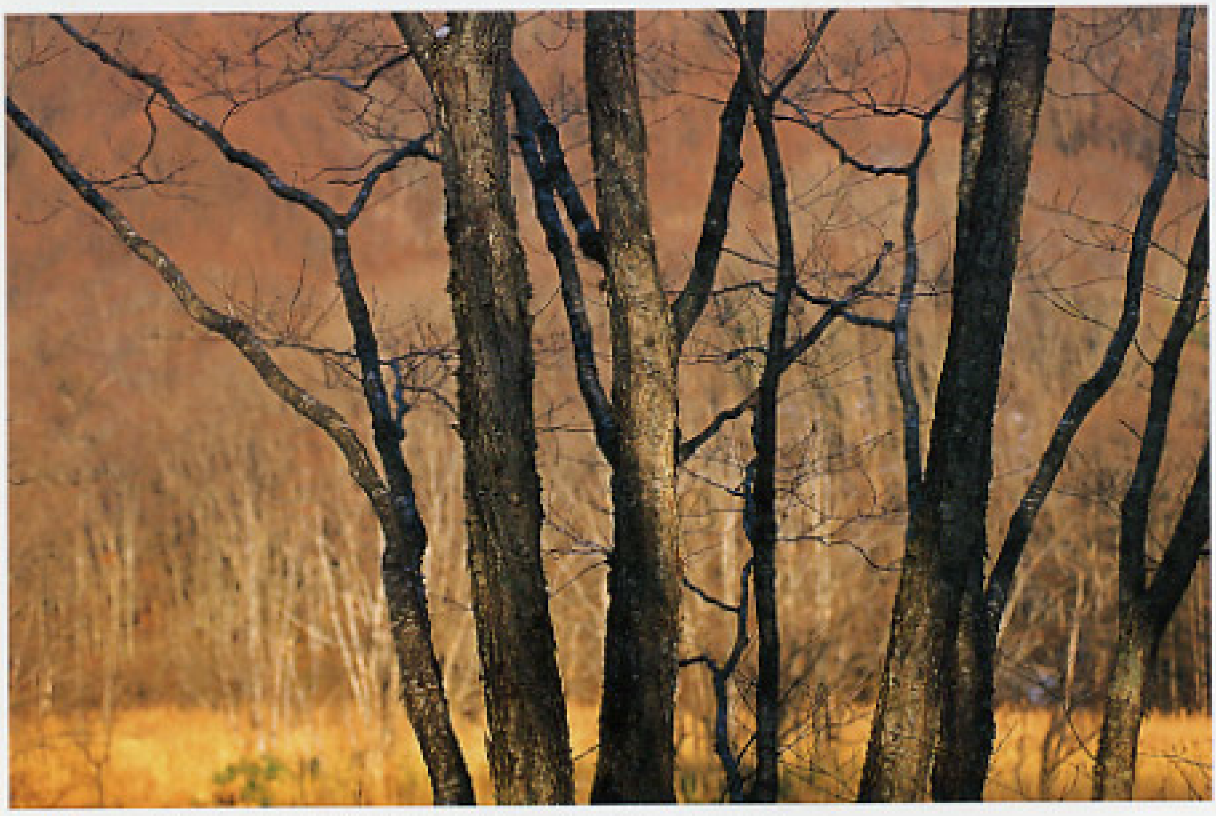
CONT

風景の構図

Gallery

箱根火山の溶岩が海中に点在する真鶴の海に、空をオレンジ色に染めた朝日が昇りはじめた。海面にのぞく岩の重なりで、平面的な画面に立体感と奥行き感を生み出した。水平線をいかした構図形成は、画面全体に広がりをもたせる。
ニコンＦ５　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ16　オート　＋1／3補正　RVP　神奈川県・真鶴岬



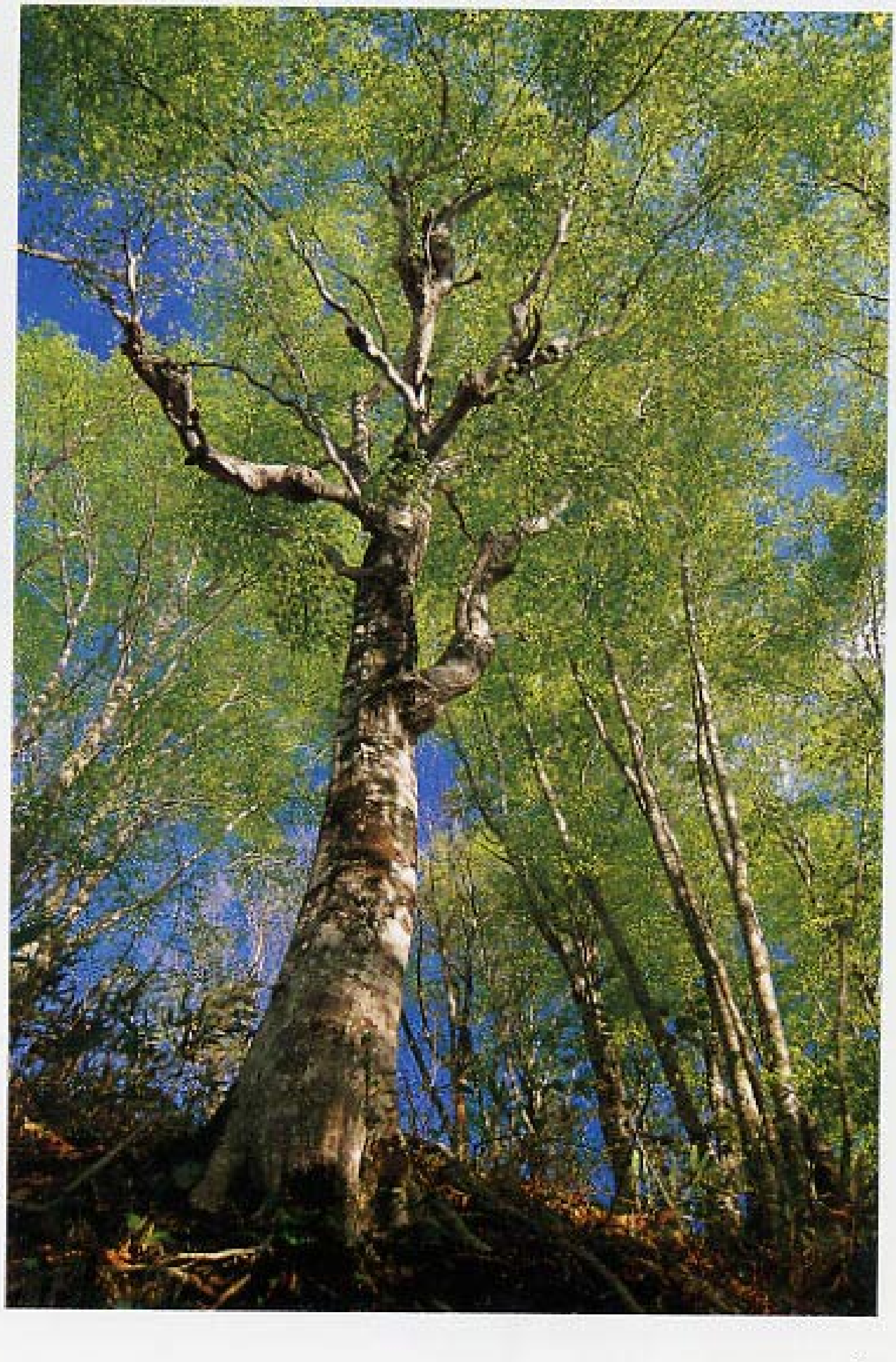


山の端に隠れんとする夕照が、沼畔の雑木林を染めている。ハンノキの幹の形状をいかし、やわらいだ垂直線構図として画面をまとめる。冬枯れの撮影では、木の幹や枝の形をいかして構図を決めるとおもしろい。
ニコンＦ５　AIAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　オート　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯大沢沼

早春の四万十川の傾斜面で、ナノハナが明るく輝いている。斜面の傾きをいかし、対角線構図をつくり出した。ただし、画面を均等に2分割してしまうと、写真のイメージも分割されてしまうため、ヤナギの幹と背景の緑で画面に変化をつけた。
ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F2.8　オート　＋1／3補正
RVP　PLフィルター使用　高知県・西土佐村

海霧が岬の先端を乗り越えるように流れている。その霧の流れに呼応するような、夏草の生い茂るなだらかな岬の傾斜面が特徴的だった。その変化に富んだ地形を巧みに組み合わせて、リズム感を生む斜線構図をつくり上げた。

ニコンＦ５　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　オート　＋1／3補正　RVP
PLフィルター使用　北海道・礼文島桃岩歩道



芽吹いて間もないブナのみずみずしさと、上昇していくような生命感の勢いを表現するために、木の根もとに接近して空を仰ぎ、広角レンズで撮影した。主となるブナの幹の垂直線と若木がつくり出す三角形が、写真の印象を高めている。

ニコンＦ５　AIAFズームニッコールＥＤ18〜35ミリＦ3.5〜4.5Ｄ　Ｆ16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯

紅葉の名所が多い大和路の中でも、常に人気の高い談山神社の紅葉風景。画面中央部に配したメインのヤマモミジを、両端の枝が優しく包み込むようにするために、枝ぶりが三角形をつくり出すような構図にまとめ上げた。
ニコンF５　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　奈良県・桜井市談山神社

厚い雲の裂け目から、冬の日差しが日本海の青黒い海面を鈍く輝かせている。その海面を受け止めるように、シルエットの岩陰を逆三角形になるように配置して、緊張感の感じられる画面構成にした。
ニコンＦ５　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　オート　−1／3補正　ＲＶＰ
島根県・大社町日御碕

構図を知るための基礎知識

構図とは？

上・東海道五拾三次之内　庄野（広重／太田記念美術館所蔵）下・津別峠（北海道）

多くの人が風景写真を撮るとき、最初に悩むのが構図の決め方でしょう。せっかくすばらしい風景にめぐり会っても、構図しだいで、作品の出来は大きく違ってきます。ここでは、まず、構図とは何か、その基礎的な考え方について詳しく解説しましょう。

構図とは？

approach 1

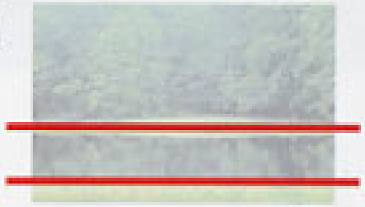
風景の中の線、形、面に着目する

水平線

ニコンF4s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　2秒　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯桧原湖

水平線にはのびやかさ
垂直線には緊張感がある

ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1/2秒　RVP　PLフィルター使用　青森県・八甲田蔦七沼



ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1/2秒　+1/2補正　RVP　北海道・支笏湖

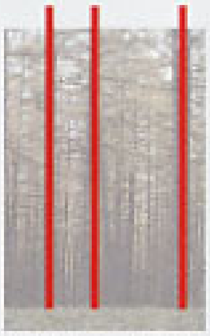
縦・横のまっすぐな線やおもしろい曲線を探してみる

自然風景をよく見ると、さまざまな線によって構成されていることがわかる。風景写真の構図を考えるとき、このような線にまず注目してみてほしい。

水平線は海岸や湖、河川で見られる線で、風景の基本となる線だ。画面のどこにこの水平線をもってくるかによって、写真のねらいが異なってくる。垂直線はまっすぐのびる樹木の幹や滝などに見られ、上下方向に緊張感を与える。画面を垂直線1本で構成するか、複数の線で構成するかによって、緊張感の度合いが変わってくる。曲線にはなだらかな山の稜線や高原の斜面、海岸に打ち寄せる波などがある。直線とは対照的にゆったりとした雰囲気の画面を構成することができる。

ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D
F2.8　1／30秒　RVP　PLフィルター使用　新潟県・秋山郷

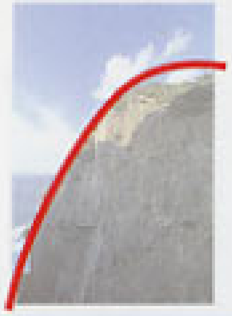
垂直線



ニコンF３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／2秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・戸隠

曲線には穏やかで優しいイメージがある

曲線



ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　1／4秒　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・大月町

ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16
1／4秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・弓ヶ浜

斜線

斜線をいかすと画面に運動性が生まれる

ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1/8秒　+1/2補正　RVP　PLフィルター使用　富山県・北アルプス

ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F16　1/2秒　−1/2補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・上高地

ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1/2秒　+1/3補正　RVP　福島県・裏磐梯

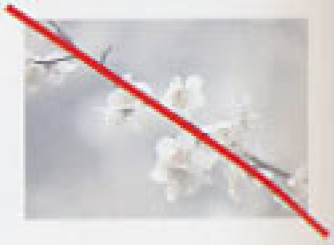
ファインダー内に斜めの線をバランスよく取り込む

斜線はのびる方向に運動性が生まれるという特徴がある。傾きの度合いや画面内の斜線の本数によって印象が大きく変わる。主要被写体を画面の対角線にそって斜めに配するのが対角線構図。のびやかで広がりのある画面になる。放射線は四方八方にのびる線だが、直線的な放射線は視線を集め、かたいイメージになり、曲線的な放射線は広がりを感じさせ、やわらかいイメージになる。

ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　1／15秒＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・湯河原梅林

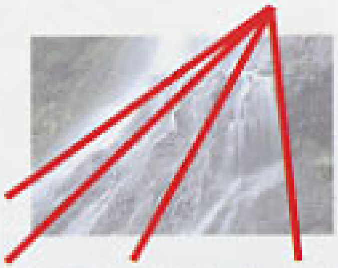
対角線

ニコンF4s　タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ　F2.8　1／30秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　愛知県・鳳来町



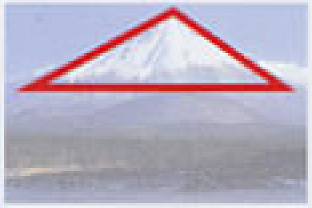
直線的な放射線は視線を集め
曲線的な放射線は視線を広げる

放射線

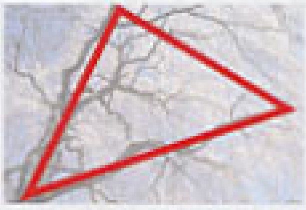


ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・函南町

ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　2秒＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　兵庫県・大屋町天滝

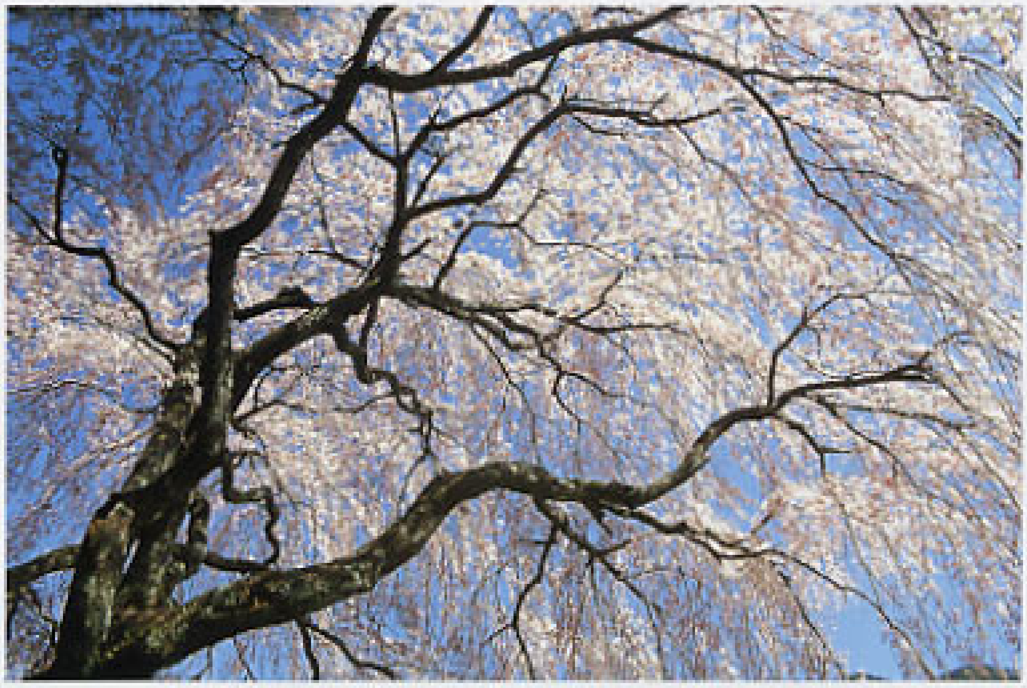


三角形



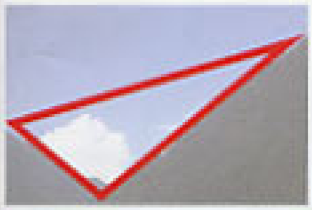
底辺が広い富士山のような三角形にはどっしりとした安定感がある。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／4秒
＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・精進湖

三角形は安定していて静的
逆三角形は不安定だが動的



シダレザクラの幹と枝で構成されている三角形。枝の線のやわらかさをいかしている。
ニコンF４s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　オート
＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・仁淀村

逆三角形



山の稜線が逆三角形を構成するような位置から撮影。右の稜線を長くして変化をもたせている。
ニコンF４s　Aiニッコール35ミリF２S　F16　1／4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・春野町

三角形や円形などの形や色の面に注目してみる

線だけでなく形や色にも注目してみよう。例えば三角形。富士山のような山もそうだが、木々を下から見上げたときにも三角形を見つけることができる。三角形の頂角が鋭角的か鈍角的かによって印象が違う。山の稜線や木の枝などでは逆三角形が見られる。逆三角形は不安なイメージを与えるが、バランスを考えて画面に取り込むと運動性が生まれる。円形の代表例は太陽や月。しかし樹木や花も円形に近い。また、小さくなれば多くの被写体は円形と考えることができる。円形は視線を集める効果があるが、その度合いは画面内での大きさや位置によって異なる。

被写体の色に着目し、色の組み合わせで画面を構成することもできる。配色や色面の大小によって画面への効果は違ってくる。

円形

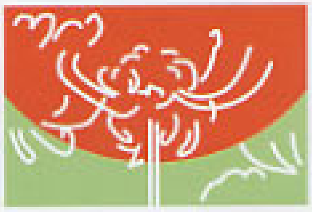
丸みのあるヤマザクラを画面左に大きく配し、視線をそこに集めて存在感を強調した。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・西土佐村

日陰の暗い山肌を映す湖面とレンゲツツジの花を対比させ、花の赤の色調を強めている。
ニコンF４s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　1／2秒　－2／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯大沢沼

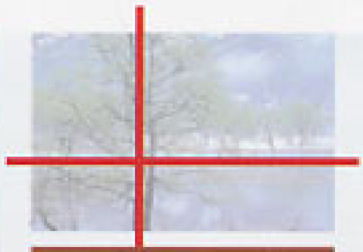
色面

色の強弱や大小のバランスで画面の雰囲気はかなり異なる

草原の緑とその上に広がる空の青。青空を画面の３分の２にして夏のさわやかさを表現している。
ニコンF５　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・礼文島



画面の上半分にヒガンバナの赤を扇形に取り入れ、背景の緑の色面と対比させている。
ニコンF４s　トキナーAFプロ300ミリF2.8　F2.8　1／125秒　RVP　埼玉県・日高市



垂直線+水平線

線や形の複合

垂直線で高さを感じさせ、水平線で画面を安定させている。
ニコンF４s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　1／4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　山形県・朝日村

山の斜線に朝焼けの雲の水平線を絡ませ画面に安定感と動きと広がりをもたせた。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／8秒　＋1／3補正　RVP　新潟県・秋山郷

垂直線+斜線+曲線

水平線+斜線

風景はさまざまな線や形で構成されている

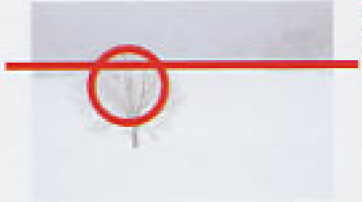
風景を構成する水平線、垂直線、曲線、斜線などの線、三角形や円などの形、さらに色面について個々に見てきたが、多くの風景はこれらの線、形、色が複合的に組み合わされている場合がほとんどである。そこで風景をもう少し複雑な線、形、色の組み合わせとして見る見方が必要となる。つまり自然の風景の中のさまざまな線、形、色をうまく画面内に配することによって、広がりや奥行きが生まれ、風景により深みやおもしろさを与えるということを知っておかねばならない。ここではその組み合わせの実例を紹介しよう。

樹木の垂直線とその頂部がつくる斜線、さらに渓流の曲線で画面全体に奥行きを出している。
ニコンF３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／8秒　RVP　PLフィルター使用　富山県・北アルプス

線や形をうまく組み合わせると画面に奥行きや広がりが出る

三角形+水平線

岩の三角形と海の水平線でリズム感とのびやかさを出している。右の暗い木立の三角形は奥行き感を強調している。
ニコンF4s　トキナーAFプロ28〜70ミリF2.8　F11　1／30秒　+1／3補正　RVP　PLフィルター使用　京都府・宮津市

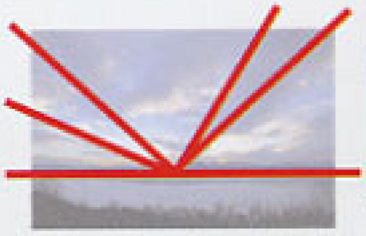


水平線+円形

冬木立に視線を集め、雪原の水平線で広がりをもたせている。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F11　1／8秒　+2／3補正　RVP　長野県・北竜湖

丘陵の水平線で安定感を、中央の樹木の円形と垂直線で集中力を画面にもたせている。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／2秒　+1／3補正　RVP　PLフィルター使用　熊本県・阿蘇外輪山

水平線+円形+垂直線



水平線+放射線

水平線の安定感に朝焼け雲の放射線が開放感を加えている。
ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　2秒　+1／3補正　RVP　長野県・南アルプス

構図とは？

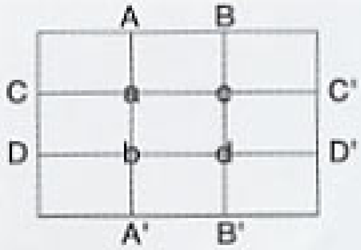
approach 2

構図を成功させるためのポイント

線や形をフレームにどうおさめるか？

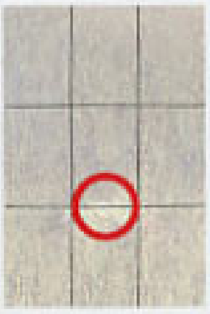
自然風景は線、形、色の面が絡み合うようにして成り立っているが、構図を成功させるためには、これらの線や形、色面を画面の中にどのように配置するかが重要になってくる。その配置の基本ともいえ、知っておくと役立つのが3分割法である。この3分割法に基づいて画面構成すると、大きく失敗することは少なくなる。まず、3分割法の基本をマスターしておこう。

3分割



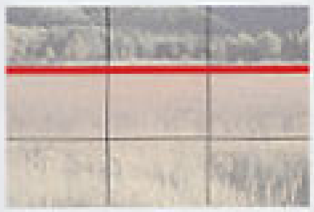
■3分割法

3分割法は図のように縦横の線で画面を3等分し、その縦線、横線、あるいはそれぞれの線の四つの交点に主要被写体を配置するという方法である。例えば水平線の場合、CC'かDD'の位置にもってくる、垂直線ならAA'かBB'の位置にもってくる。また、円形の場合はa、b、c、dのいずれかの位置にもってくる。そうすると安定したバランスのよい構図にすることができる。

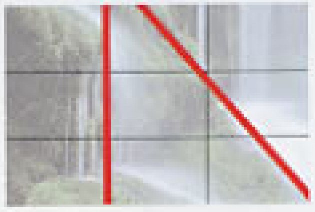


湿原のヤチボウズを画面いっぱいにとらえた。視線を集めるヤチボウズの乱れた部分を下3分の1の中央にもってきて、安定感を出した。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／8秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・志賀高原

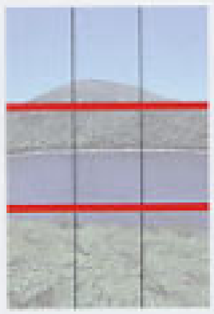
サザンカの花を左下の交点にもってきている。画面の上の部分を大きく開けたことによって開放感が出た。
ニコンF4s　AiAF-SニッコールED300ミリF2.8D　F2.8　1／60秒　RVP　京都府・京都市嵯峨野



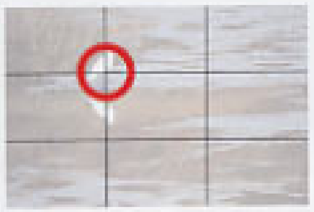
地平線を画面の上3分の1のところにもってきて、下の湿原の広がりの様子をバランスよくまとめると同時に、2対1のスペース配分により画面に安定性を求めている。
ニコンF3　Aiニッコール35ミリF2S　F16　1／4秒　RVP　PLフィルター使用　栃木県・奥日光



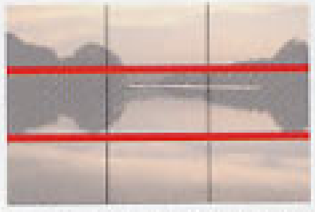
垂直に落ちる滝の水の線と苔むした岩のなだらかな斜面を、3分割法の交点を利用してうまく配することにより、画面に奥行きと立体感を出している。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・象潟町元滝



上3分の1は空を中心に、中3分の1は池と対岸の緑、下3分の1は灌木の緑を中心に構成されている。池の水平線が中央を横切っているが、全体的には変化があり安定感もある。
ニコンF3　Aiニッコール28ミリF2.8S　F16　1/15秒　＋1／2補正　KR　鹿児島県・大浪池



水面に映るシラサギの影をいかすため、シラサギを左上の交点にもってきている。同時に右方向に視線が開けていく感じも引き出している。
ニコンF4s　AiAF-SニッコールED300ミリF2.8D　F2.8　1／30秒　RVP　京都府・京都市大沢池



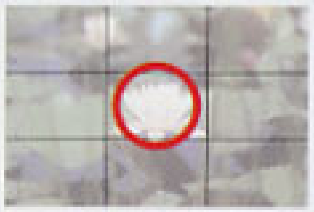
湖面に映る焼けた空と湖岸の倒影がポイント。倒影を下3分の1のラインにおさめ、空と地上風景の境の線を上3分の1のところにもってきている。そのことによって画面全体が安定している。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　1／4秒　＋1／3補正　RVP　福島県・裏磐梯桧原湖

緊張感やリズムが画面をおもしろくする

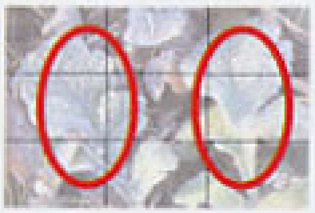
3分割法は構図を決定するときの基本といってもいいが、3分割法ばかりにこだわる必要はない。主要被写体に視線を集め、なおかつ画面全体のバランスがくずれていなければ構図は成功していると考えていい。そのためには、主要被写体の大きさや配置がポイントとなってくるが、主要被写体は大きければ目立つというものでもなく、あくまでも全体のバランスの中で決める必要がある。つまり背景や色や光など撮影時の諸条件の中からねらいに合わせてベストな構図を発見することが、より個性的な表現につながるのである。

ここでは3分割法を基本としながらも、自由な発想で、画面に緊張感をもたせたり、リズム感をもたせて構図をよりおもしろくする作例を紹介してみたい。

満開のスモモの花の円形を画面下3分の2のところに大きく配して強調している。同時に上3分の1に背景をのぞかせ、スモモが咲く周囲の環境を取り込んでいる。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F2.8　1／15秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　山形県・朝日村

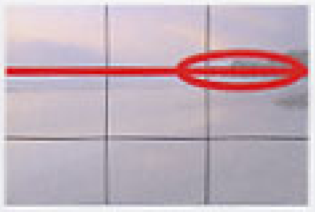


スイレンを画面の真ん中に置いた中央1点構図。この構図は変化が乏しく避けられる傾向があるが、この場合の葉っぱのように周囲のものをうまく利用したりすると、視線を集め、安定感のある力強い構図となる。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／250秒　RVP　新潟県・長岡市



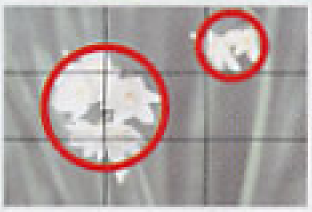
霜の降りた双子のような葉っぱのおもしろさを表現するため、画面の左右に対称となるように並べてみた。リズム感とおたがいが引き合うような感じが出て、楽しい画面となった。
ニコンF4s　タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ　F2.8　1／60秒　＋1／3補正　RVP　山梨県・丹波山村

バランス



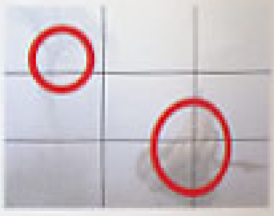
砂浜に映った朝焼けがテーマであるが、それだけでは平板な画面になってしまう。そこで上３分の１のライン上にシルエットの岬をもってきてバランスをとり、画面に奥行きと集中力を出している。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリF2.8　F11　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・弓ヶ浜

左３分の１のところに円形に見える２本のブナの木をもってきている。さらにその右に平面的なブナの林を配してバランスをとり、同時に緊張感をもたせている。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／4秒　−1／2補正　RVP　青森県・八甲田



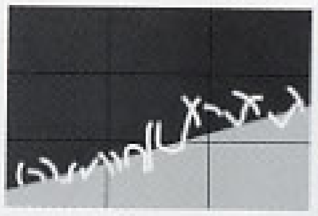
左３分の１のラインにスイセンの花の大きなかたまりをもってきて、その斜め後ろに小さなかたまりを配することによって、画面のバランスをとり、リズム感を出している。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／60秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・爪木崎

主従

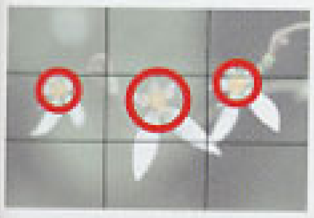


山霧におおわれた湖面のオブジェのような立ち枯れた根太がテーマ。根太を３分割法の右下の交点にもってきている。これだけだと奥行きのないのっぺりした画面になってしまうので、左上に霧にかすむヤナギを配した。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　４秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　新潟県・糸魚川市高浪池

明暗



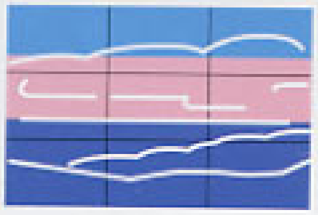
明暗を対比させた画面構成。暗い部分を多くすることによって、朝日が当たって輝く霜の降りた主題の雑草が強調されている。水面の水玉が暗い部分を引き締める役割を果たしている。
ニコンF4s Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S F2.8 1／30秒 −2／3補正 RVP 山梨県・忍野村



リズム

初夏に咲くユキノシタで、花は2～3センチと小さい。画面の中央にメインの花をもってきて、その左右に小さく花を配し、音符のようなリズム感を出してみた。
ニコンF4s Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S F2.8 1／15秒 ＋1／3補正 RVP PLフィルター使用 神奈川県・箱根

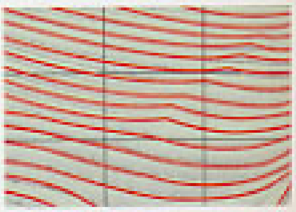
配色



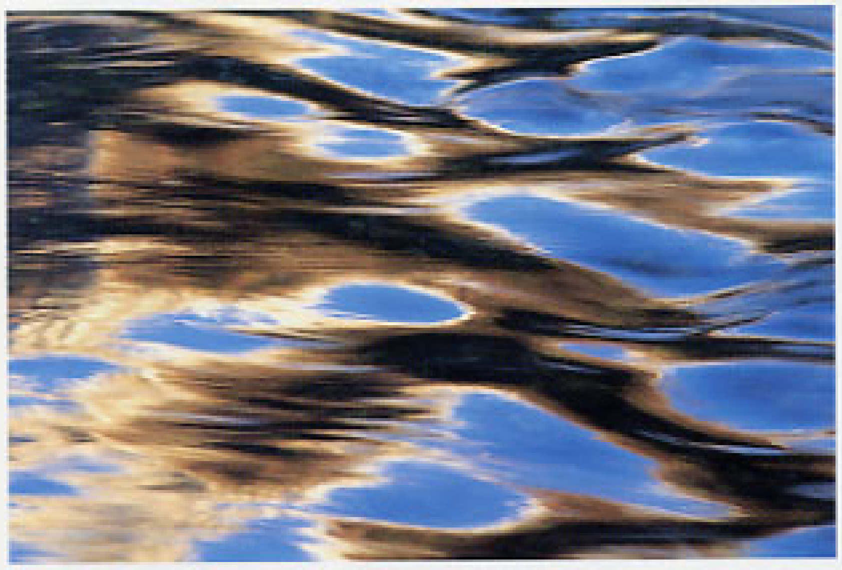
下には暗い山並み、その上に朝焼け、さらにその上に紫がかった雲と3層に画面が構成されている。上下に暗い色を配することによって、中間部の朝焼けの色がより浮き立ち、そこに視線が集まる。
ニコンF4s AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D F16 1／2秒 ＋1／3補正 RVP 山形県・月山

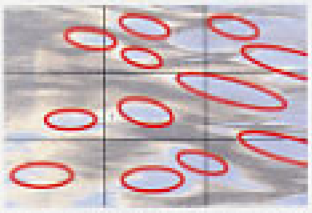
初夏のレンゲツツジの花を緑の背景の中でとらえている。画面はレンゲツツジの朱色と背景の緑色のボケの2色だけで構成されているが、2色のバランスを考え、対立させるように配色している。
ニコンF4s AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D F2.8 1／60秒 RVP PLフィルター使用 奈良県・大台ヶ原

パターン

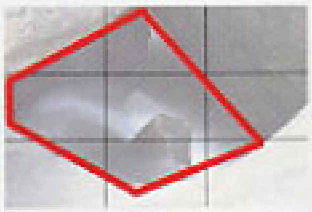


新茶のころの茶畑の畝の繰り返しのパターンをねらったもの。畝の線に変化をもたせるため、画面内で線が斜めに見えるような撮影ポジションを選んでいる。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／8秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・中川根町





川面に影を映す、晩秋のカラマツの幹の濃い茶色と空の青色が、波の上につくるおもしろいパターン。それを画面いっぱいにとらえている。
ニコンF３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／60秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・上高地



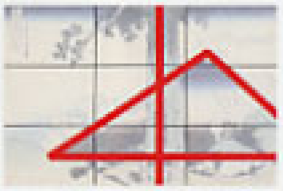
甌穴（おうけつ）といい、川床の岩のくぼみに入り込んだ小石の回転で岩が削られてできた穴。自然の造形のおもしろさをねらった。穴の中央に視線が集まるように構図を決めている。
ニコンF３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／2秒　＋1／2補正　RVP　PLフィルター使用　島根県・鬼ノ舌震

集中

左から落ち込む急な傾斜の崖のラインと、右から落ち込むなだらかな草原の緑のラインがつくる、緩やかな逆三角形の構図といえる。逆三角形の頂点に視線が集まり、その視線が青い海に自然と導かれていく。
ニコンF４s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　1／15秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・礼文島

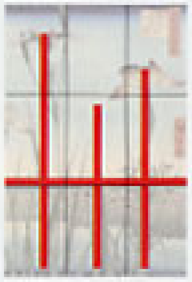
絵画も線、形、面で構成されている

広重や北斎の浮世絵は写真の構図を学ぶうえでとても参考になる



富嶽三十六景　甲州三島越／北斎
画面中央にスギの巨木を置き、その奥に美しい富士山を配している。垂直線と三角形を組み合わせた構図であるが、写真ではまねのできないダイナミックな表現となっている。

東海道五拾三次之内　神奈川／広重
右側の坂道に沿うように連なる家並みの斜めの線が画面の遠近感をぐっと強めている。その左側の広々とした海の水平線が画面にのびやかさと安定感を与えている。斜線と水平線をうまく組み合わせた構図である。



名所江戸百景
堀切の花菖蒲／広重
ハナショウブの垂直線と画面下3分の1の位置にある対岸の水平線を組み合わせた構図である。強い垂直にのびる茎の線を、斜めやカーブを描く葉の線がやわらげており、左右に開いた花びらも同様のはたらきをしている。花の位置のバランスもみごとである。

絵画に親しみ学ぶことが構図開眼への近道！

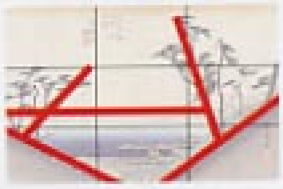
写真の構図を考える場合、写真よりはるかに長い歴史のある絵画の考え方が土台となっている。写真は誕生してからまだ160年くらいの歴史しかもたないのだ。絵画も写真も3次元の世界を2次元の空間におさめるわけだから、共通するところは多くあり、絵画の構図の考え方が写真の構図の考え方に影響しているのは当然ともいえる。

しかし、絵画はモチーフにあわせて描き手が自由に画面を構成することができる。それに対して、写真は眼前の存在の中からモチーフを探し、どう組み合わせ、どう切り取って表現に結びつけるかが撮り手の作業となる。別の見方をすれば、絵画は画面の構成においてより完全なものが要求される。写真の構図を考えるうえで、絵画に学ぶ面が多いというのは、単に歴史が絵画のほうが古いからというう理由ではなく、絵画のほうが写真よりも厳密な構図がなされているからである。

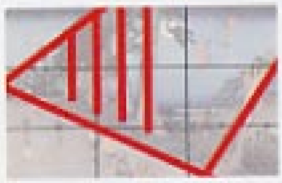
わたしもすぐれた絵画を多く見ることによって、風景写真の構図を知らず知らずのうちに学んだような気がする。

ここでは、江戸時代の版画家、安藤広重と葛飾北斎の作品を構図の面から見てみたい。これらの版画は西洋の印象派の画家たちに大きな影響を与えたことはよく知られているが、その先進的な構図には驚かされる。

もっとも浮世絵だけでなく、すぐれた絵画には構図のヒントが数多くある。写真表現の幅をさらに広げていくためには、すぐれた絵画に繰り返しふれ、親しむことが大切である。それが構図上達への近道といえよう。



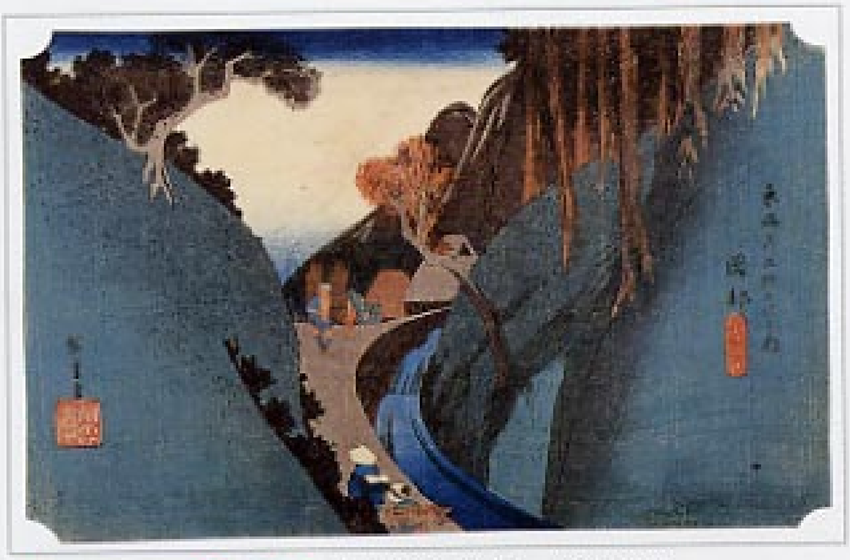
東海道五拾三次之内　白須賀／広重
右側から迫る土手の線と左側から迫る土手の線、さらに海の水平線が逆三角形をつくっている。海を抱きかかえるようにのびている左右のマツが、画面に広やかさを感じさせるとともに、集中力を高める効果も果たしている。

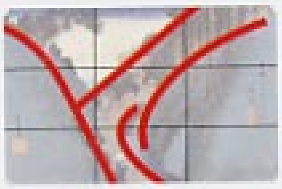


木曽海道六拾九次之内　望月／広重
マツ並木を右下から左上の対角線上に配し遠近感を強調している。しかし、ややバランスをくずすことで視線を旅人に向けさせ、さらに街道の奥に導いている。右側のマツ並木の間隔を開け、背景をのぞかせて空間を広く見せている。

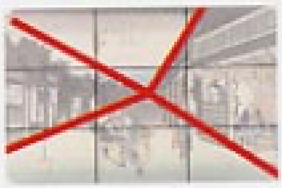
東海道五拾三次之内　平塚／広重
手前から奥に続くC字形の道が画面に遠近感を与えている。中央のV字に生えた2本のマツが、丸みをおびた穏やかな山と、対照的に鋭い稜線の険しい山、さらにその遠方に半分だけ姿をのぞかせている富士山に視線を導いている。

東海道五拾三次之内　亀山／広重
雪の山を左下から右上への対角線上に配しているが、斜線を上下に少しずらすことによって、単調さを避け、同時にバランスをうまく保っている。中央の垂直にそびえるマツが、穏やかな画面の強いアクセントとしてきいている。





東海道五拾三次之内　岡部／広重
斜線、曲線、逆三角形によって構成されている。両側から迫る山の緩やかな斜線、その間に続く街道の曲線、逆三角形の空。谷の深さ、山深い街道のたたずまい、その向こうに広がる空の開放感などがみごとに描写されている。



東海道五拾三次之内　御油／広重
透視画法により遠近感が強調されているが、このような表現は写真でもよく使われる。しかし、直線的な透視画法ではなく、右方向に緩やかなカーブをもたせ、道のとだえたところに視線を集め、街道の奥行き感をうまく引き出している。

太田記念美術館所蔵

構図とは？

approach 3

レンズの表現

写真には絵画にはない独自の表現がある

山の斜面の芽吹き前のダケカンバを望遠の焦点距離（200ミリ）でとらえている。距離感が失われ、手前と遠くのダケカンバが実際より近づいて圧縮されたように見える。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・鳥海山

広角レンズや望遠レンズには肉眼を超えた視覚世界がある

渓流の一枚岩を超広角の焦点距離（20ミリ）でとらえている。最短撮影距離の約40センチまで手前の岩に近づいて撮影しているが、岩が左右に引っ張られたように大きくなり、遠くの岩は実際より小さくなって、距離感が強調されている。
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　群馬県・水上町照葉峡

びっしりと苔をつけた原生林の中のコメツガの倒木をとらえている。超広角の焦点距離（20ミリ）のゆがんで見えるという特性を最大限にいかしている。
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　奈良県・大台ヶ原

肉眼では見ることのできないレンズの世界を構図にいかす

絵画の絵筆にあたるのが写真の場合レンズだが、絵筆の自由さに対して、レンズはさまざまな制約を受ける。片目をつぶって見るのと同じように、レンズを通したファインダー像は遠近感や立体感がわかりづらいものとなる。しかし、こうした不自由さが写真独自の表現を可能にしているともいえる。

広角レンズは近くのものを大きく、遠くのものを小さく見せる。距離感が強調され、近くのものと遠くのものが実際より離れたようになる。望遠レンズは遠くのものを間近にあるように見せる。そして距離感が失われ、近くのものと遠くのものが重なったようになる。

このような肉眼では不可能なレンズの表現世界をうまく利用することが、写真の構図を決めるとき必要となってくる。

絞りの表現

ボケ効果を利用すると写真ならではの表現ができる

レンズにはピントの合っている部分の前後がボケるという特徴がある。このボケは写真独自のもので、構図にも影響を与える重要なポイントである。ボケの度合いは絞りを変えると変わり、その効果は焦点距離の長いレンズほど大きい。ボケのコントロールが写真ならではの表現につながるといえる。

望遠マクロレンズ（90ミリ）の大きなボケ効果を利用して、春先のヒトリシズカをとらえた。花がボケた背景からすっきりと浮かび上がっている。最大のボケ効果が出るよう絞りは開放。
ニコンF4s　タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ　F2.8　1／30秒　＋1／3補正　RVP　福島県・男沼

望遠レンズ（200ミリ）を使っているため、ピントを合わせた枝が背景のボケた沼面から浮き上がって描写されている。このように背景の繁雑さをボケで解消すると、構図の整理がしやすくなる。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　1／60秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯五色沼

絞りを開ければ開けるほどボケの効果は大きくなる

ナノハナとその奥のサクラがモチーフ。望遠レンズ（200ミリ）を使って、手前のナノハナをボカすことで、視線がサクラのほうに行くようにしている。また、ナノハナがボケることでサクラとの距離感が縮まり、奥行きが失われたような効果もねらっている。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　1／30秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・賀茂村黄金崎

シャッター速度の表現

まだ薄暗い明け方の海面を1分の長時間シャッターでとらえたもの。海面をハケではいたような描写は肉眼の視覚世界を超えている。渚の静的な世界を表現するとともに時間の経過がとらえられている。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1分　+1／3補正　RVP　神奈川県・真鶴町

肉眼ではとらえられない写真独自の表現が可能である

写真ならではの表現に、シャッター速度をコントロールすることによって得られる世界がある。肉眼でも見られない、絵画でも描写しにくい世界を写真の場合、容易に表現することができる。動く被写体を高速シャッターで写し止めたり、低速シャッターで時間の経過によるブレとしてとらえたりするのがその方法である。これらの写真独自の表現は、構図をイメージするときにも重要だ。

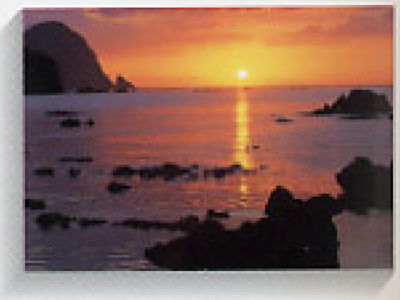
強風に揺れるヤマザクラを1秒の低速シャッターでとらえ、画面に動感を盛り込んでいる。時間の経過がフィルムに写し込まれているわけだが、肉眼で見た感じよりも激しい動きに描写されている。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1秒　+1／3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・西土佐村

高速シャッターで写し止め　低速シャッターでブラす

大波が大きく砕けんとする頂点の一瞬を、1／500秒の高速シャッターで写し止めている。このような瞬間も肉眼でとらえることは難しく、写真ならではの表現である。
ニコンF4s　トキナーAFプロ300ミリF2.8　F2.8　1／500秒　+1補正　RVP　高知県・大月町

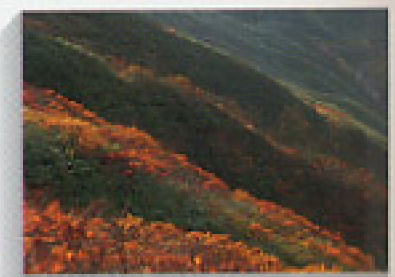
集中講座

2週間でマスターする 風景写真の基本構図



1日目 水平線構図

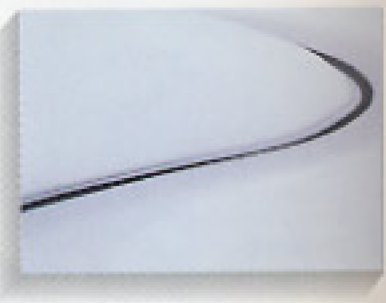
2日目 垂直線構図



3日目 斜線構図

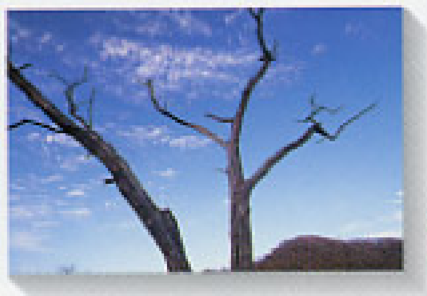
4日目 対角線構図

5日目 放射線構図

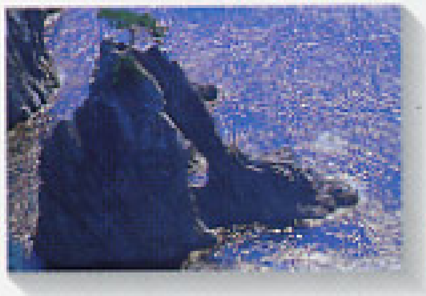


6日目 曲線構図

7日目 三角形構図



8日目 逆三角形構図

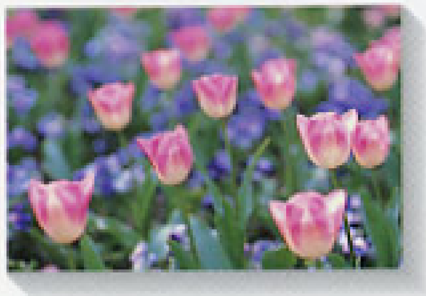


9日目 三角形の変形構図

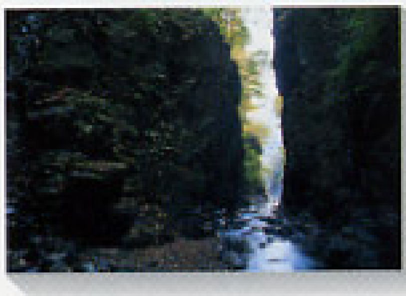
10日目 中央1点構図

11日目 対比・対称構図

12日目 遠近法構図



13日目 パターン構図



14日目 トンネル構図

基本の構図 1 日目

水平線構図

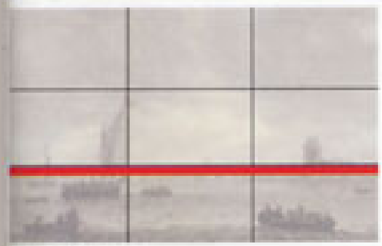
画面に広がりを出す

日没の余韻を静けさの中に表すため海面を広く取る

水平線構図では、水平線を画面のどの位置にもってくるかということが作画に大きな影響を与える。だが、わたしは決まりごとの構図形式やイメージにとらわれず、現場第一主義で行う。現場に立って、その風景を成り立たせている要素のどれとどれを組み、どの不要な素材を省くかを考え、そのあとで水平線の位置を決めている。作例の場合は、海面に反映した夕照がテーマなので、少しでも海面のスペースを広くするため、海岸の岩上にカメラ位置を取った。そして、海面の広がりと手前下部のシルエットの岩の配置を基に水平線の位置を画面上部に決めた。

ニコンF4s トキナーAFプロ28～70ミリF2.8 F11 1/8秒＋2/3補正 RVP 京都府・丹後町中浜

絵画に見る水平線構図



「マース河口」
ヤン・ファン・ホイエン作
国立西洋美術館蔵
ホイエン円熟期の河川風景画の佳品。浮かぶ小舟や漁に従事する人々がメランコリックな詩情を交えて描かれる。水平線構図で大空の広がりと水面の光の描写がみごとに表現されている。

天地間のつり合い、対比が画面に緊張を生む構図

構図においてすべての線の基本となるのが、画面を2分割する水平線である。広々とした海面と空や、広大な大地や畑、その遠くに連なる山並みなどをはじめ、自然の形象は水平線を基線に成り立つものが多い。

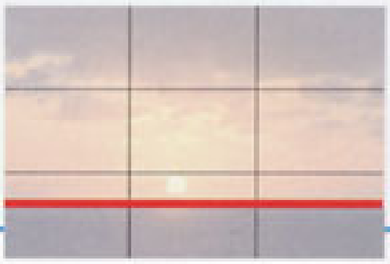
さえぎるもののない海岸線や丘に立ち、カメラを向けると、横方向へののびのびした無限の広がり、ゆったりして穏やかな静かな安定感が自然に表現できる。水平線は画面におのずと、広がりと落ち着いた安定感を生む。しかしそれゆえ、安易に用いれば、その広がりや安定感が緊張感に欠けただらしない風景写真に結びつくことも多い。

特に大切な水平線構図の作画上のポイントは、水平線で区切った天地（上下の対比）の占める面積のバランスだ。水平線を境に、被写体どうしの重量的な力関係、光の当たり方や色彩、明暗の差などを含めた天地間のつり合いや対比が画面に緊張感を生むからだ。

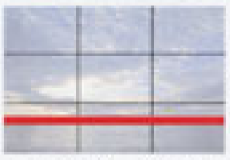
静けさを出すには、水平線を下方にもってくる

下部を引き締め、風景の広がりと静寂感を出す

画面を３対１や７対３で分けると、バランスのよい画面比率となり、安定感が出る。この作例では、落日は視線を集めるアクセントの役割を果たしているが、主役は中間部の夕焼けに集まった色合いである。そして対比上、水平線を下部へもってくるとおおむね下部が引き締まる。ここでは、風景が上部へ広がるおおらかさと静寂感を表した。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／４秒　＋２／３補正　RVP　静岡県・下田市

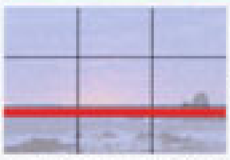


雲の裂け目を核に広がるいわし雲を描く



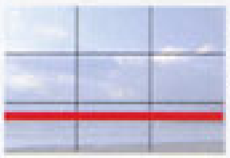
水平線の彼方から、手前に向かって迫るいわし雲の空への上昇感と広がりがテーマ。水平線を下部に取り、すぐ上の楕円形にのぞく雲の裂け目を核にして、海面と上空に広がるいわし雲との配分バランスをはかる。
ニコンＦ３　Aiニッコール28ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１／15秒　＋１／２補正　RVP　神奈川県・小田原市相模湾

夕暮れの静けさは中望遠で海面と空は１対2に



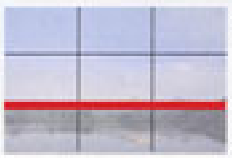
夕方までの雨が上がり、空のうろこ雲が夕日に染まる。その境界で空を区切るのと、下部の波間に煙る岩礁の対比が作画のねらい。中望遠の画角を選び、海面と空の比率を１対２にし夕暮れの静けさを盛った。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　16秒　RVP　新潟県・佐渡島外海府海岸

暗い海面と明るんだ空を対比させる



早暁の浜辺の静けさを引き出すのがねらい。まだ日が差さないトーンの沈んだ海面を下部へ配し、明るんだ上空の空間と対比させた。わずかなスペースだが、海面のほの暗さが、静けさと落ち着きを生んでいる。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・土佐清水市大岐海岸

空を広く取り入れ、一瞬、時間を止める



暮れなずむ鳥海山を大きな溜池越しに望む。茫洋とした夕暮れ空の色合い、それに小さく鳥海山を映した鏡のような水面。一瞬、時間が止まったような静寂感を表すため、水平線を下部に置いて空を広く取り入れた。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・仁賀保町より鳥海山

撮影のポイント

●水平線で画面を分けるときは、３対１や７対３の比率で分けると安定して、主役とわき役の役割が明確になる。
●下部に水平線をもってくると、上部への広がりとおおらかさが出る。

安定感を出すため、中央部に水平線をもってくる

水平線が中央付近のときは上下の区分をはっきりさせる

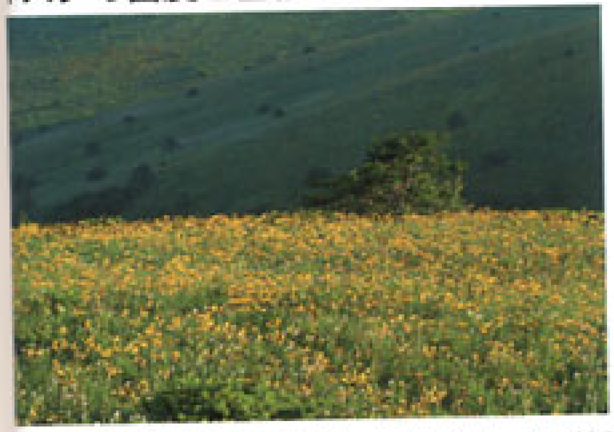
水平線が中央にあると、画面が上下半分に分かれてどっちつかずになるので、上下に色彩や露出差の大きいものを対比させるか、形のはっきりしたものを配し、上下の区別をよくすることだ。この作例の場合、満月の出ている夕闇のほの明るさを目立たせるため、下部に暗い岩場をもってきて、その対比をはかった。

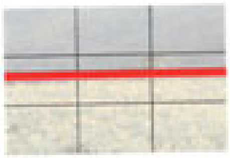
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ11　８秒　＋１／３補正　RVP　神奈川県・真鶴町白磯

撮影のポイント

- **水平線でちょうど画面中央を2分割するとき、分かれた上下の部分のバランスを保つため、必ず上下の明暗や色合いの差をはっきり出す。**
- **上下の区分がはっきりすれば画面にメリハリがつき、力強さが出る。**

キスゲの密度と色彩の対比で上下を区切る

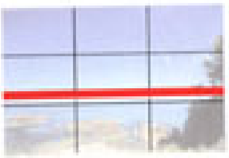




等に２分割した構図であるが、この場合は、キスゲの密度と色彩的な対比
絡みを含めて、水平線を中央にもってきた。緑と黄色は同属であり相性も
く、背景とのメリハリがよくついた。

コンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／８秒
P　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰高原

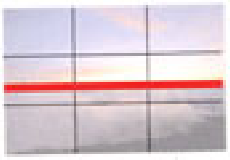
磯の茶色、海と空の色を考え、水平線を置く



真夏の日本海の海と空のクリーンさをテーマにした。画面右側のシルエットのインパクトの強さを利用し、磯の茶色をあわせ、それと、クリアな空がせめぐほぼ中央の位置に水平線をもってきた。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　１／30秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　京都府・丹後町砂方

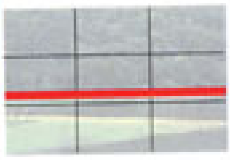
水平線のオレンジ光を境に、明暗をくっきり分ける



ーンの沈んだ、手前の山並みからわく雲の形状と、赤く染まった天部の雲
区切り方を基に、水平線を中央部にもってきた。水平線のオレンジの光の
を境に、明暗がくっきり分かれ、下部の安定が空の明るみを支えている。

コンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ８　４秒　＋２／３補正
P　長野県・乗鞍岳山頂より

夕照の映える湖畔と日陰の森の明暗差で画面を対比する



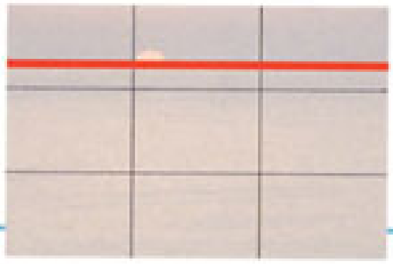
ほぼ２等分割した構図である。が、夕照の映える湖畔の突出部と、日陰になってトーンの沈んだ森との明暗差で画面を対比させ、上下のバランスをはかっている。それに、槍先のような手前の草地の形をいかして構図を決めた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／４秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯桧原湖畔

迫力を出すなら、水平線はなるべく上にもってくる

海面を広く取り込み、奥行きと夕日への集中力を高める

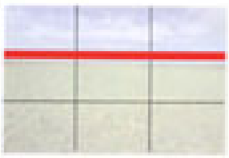
水平線構図では7対3のように、どちらかへ比重をかけ画面のバランスをはかるが、これにこだわる必要はない。この作例の主役は落日ではなく、夕焼け空を反映した海面の色合いそのものなので、それを強調するため水平線を上部にもってきた。大胆な画面配分で広がりや安定感とともに、迫力や方向性まで盛り込める。
ニコンＦ５　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ16　オート　＋２／３補正　RVP　山口県・三隅町



撮影のポイント

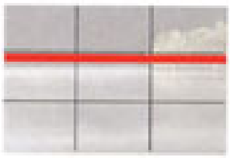
- **状況によっては、8対2か9対1などの大胆な画面配分を試みる。**
- **水平線を上部にもってくると、広がりや方向性、それに奥行きのある力強い画面が生まれる。**

ニガナのある草原と青空の面積のバランスを考える



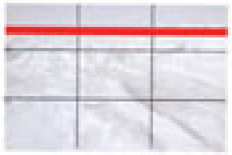
非常に単純な風景なので、空の巻雲と草原にまばらに生えるニガナをアクセントにするため、水平線をこの位置にもってきた。ここで、青空のスペースを広く取れば、間の抜けた画面になることがわかるはずだ。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・豊富町サロベツ原野稚咲内

水平線を上部に配し、湖面から立ち上る朝靄を描く



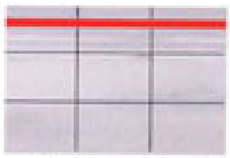
画面手前の湖面から立ち上る朝靄をいかす構図。下部のフレーム枠ぎりぎりに靄を配置して、靄の上昇感を引き立て、露出を切りつめ背景のトーンを落とすことで、さらに、靄の上昇感を強調した。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１／４秒　－１／２補正　RVP　栃木県・奥日光中禅寺湖

上部に水平線を配し、流氷原を引き立てる



海一面の流氷原。シャーベット状になった流氷の裂け目と、それに向かって走る手前の流氷の突起の線で単純な画面に方向性をもたせた。その運動を引き立てるため、上部に水平線を配した。
ニコンＦ３　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　１／30秒　＋１補正　KR　北海道・斜里町

水平線を天部近くに配し、湿原の広がりを強調する



湿原いっぱいに立ち込めた朝靄。湿原の広がりと上下への奥行きを出すため、水平線を天部近くにもってきた。そして、靄だけではあまりに単調なので、所々に潅木をのぞかせ、上下のバランスを保った。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　８秒　＋１／２補正　KR　長野県・霧ヶ峰高原

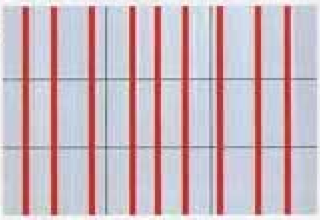
垂直線構図

上下への伸張感を出す

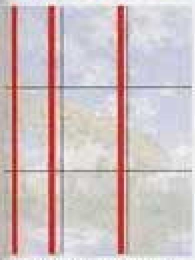
垂直線のラインが整然と並ぶスギ木立で静寂感を描く

作例のように、間隔の狭い立て込んだ垂直線のラインが繰り返す群林では、縦・横のどちらの位置にするかで雰囲気がまったく異なってくる。それと、見上げや見下ろしなど、アングルの違いによる群林全体のすぼまりでも、大きく印象が変わる。この作例は濃霧という幻想感を表す絶好の条件をいかし、整然と並ぶスギ木立の静寂感をテーマとした。そこで、縦位置では線の印象が強まるので横位置にし、アングルも目高の位置で、木立に対して水平に構え、上下方向にゆがまぬようにした。

ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　２秒　＋２／３補正　RVP　茨城県・里美村



絵画に見る垂直線構図



「陽を浴びるポプラ並木」
クロード・モネ作
国立西洋美術館蔵
松方コレクション
エプト川左岸のポプラ並木に魅了されたモネは、その姿を幾度も描いた。青空へ垂直にのびる３本のポプラが画面を引き締めている。

画面を引き締める強い意思や理性を感じさせる構図

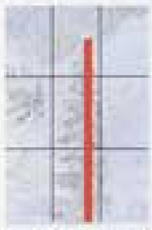
２日目は水平線とともに画面の核となる垂直線を考えよう。絵画では作画にあたり、長方形の画面に、等間隔に縦・横に直線を引いてできた格子状の網目を目安にバランスを整える。すると調和のある画面構成が得やすくなる。

水平線には、草原や大地の緩やかさのように、画面の外へ向かって広がるのびやかさ、静かな安定感があるのに対し、垂直線では上下方向への伸張感、強い深さが生じ、木立や群林に見るように、画面を引き締める強い意思、理性を垂直線ラインは感じさせる。

また、垂直線構図では、その強いラインの性格から、横位置よりも縦位置画面においてその効果が表れ、強い緊張感を引き出せる。撮影アングルやカメラポジションしだいで、空にのびる巨樹や激しく落ちる滝のような個性的でインパクトの強い画面にもなるし、シラカバ林などの繰り返しのパターンをいかせば、整然とした印象ともなる。

1本の垂直線で緊迫感が生まれる

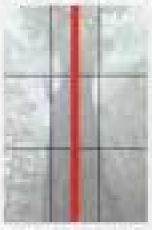
円錐のスギが上部にのびる伸張感を表現する



1本の垂直線構図では、垂直線を画面中央に置くと画面を2分割するので、左右どちらかへ寄せて画面を整える。だが、作例では、円錐のスギの上部にのびる伸張感を強調するため、中央に配置した。

ニコンF4s AI AFズームニッコールED80～200ミリF2.8D F16 1／4秒 プラス1／3補正 RVP PLフィルター使用 滋賀県・朽木村三国岳

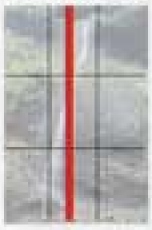
超広角ズームでブナの空へのびる存在感を強調



ブナの巨樹の空に向かう伸張感を表すのがねらい。超広角ズームを用い、ブナの真上を見上げてフレーミングを決めた。ブナのボリューム感や存在感を強調するため、意識的に垂直線を中央に据えた。

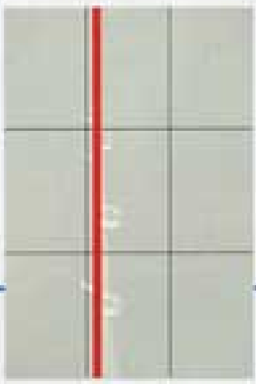
ニコンF5 タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5 F16 オート プラス2／3補正 RVP PLフィルター使用 青森県・八甲田蔦長沼

岩盤のボリューム感を出すため、滝を中央に



この作例も2分割に近い構図である。堂々たる岩盤のボリュームに対するには、この配置でないとつり合いがとれない。さらに谷間の深さを表すため、天地いっぱいにナメ滝を配して高さを強調した。

ニコンF4s タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5 F16 1／2秒 RVP PLフィルター使用 大分県・挾間町由布川渓谷



朝露を宿した穂の方向性を表す垂直線

画面を縦に走る垂直線は、強い印象を与える線だ。1本の垂直線が画面に与える効果は非常に大きい。作例では、朝露を宿した草の穂の方向性を表すのと、草の穂の鋭くとがった形をいかし縦方向への伸張感を強調した。そして、中央から少し左へ寄せバランスをとった。

ニコンF5 タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ F2.8 オート ＋1／3補正 RVP 福島県・裏磐梯細野

撮影のポイント

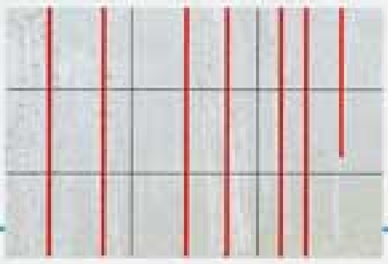
- 1本の垂直線は画面を引き締めるので、強い印象が得られる。
- 垂直線を画面中央に置かず、左右どちらかへ少し寄せて画面を整える。
- 横位置よりも縦位置画面において効果が表れ、強い緊張感を引き出せる。

複数の垂直線でリズム感を出す

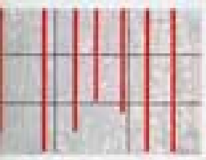
複数の垂直線構図のシラカバ林に変化をつける

複数の垂直線が走る構図は、整然としたリズムを生んで美しいが、おもしろみに欠ける。そこでその単調な繰り返しのリズムに変化をつけるため、画面の左側に間隔を取り、バランスをくずすくふうをする。作例は、深い霧が漂うシラカバ林。幹の込み具合が粗密な所を探し、幹の塊にボリューム差をつけ、繰り返しのリズム感を味つけた。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　４秒　＋１／２補正　RVP　長野県・八千穂村



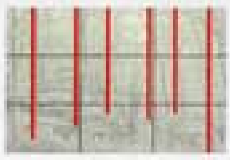
背景のグリーンで画面に変化をつける



シダレザクラの部分を切り取った複数の垂直線構図。半逆光に透けて輝く花びらをメインに、左側の日陰になった背景のグリーンとの組み合わせで、画面に変化をつけるとともにリズム感を盛った。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8　１／250秒　＋１／３補正　RVP　高知県・仁淀村

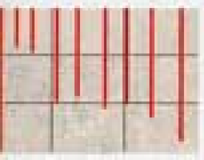
赤肌の幹を新緑の中に配置してリズムを出す



新緑のヒメシャラ林をとらえた。すべすべした赤肌の幹に特徴があり、それを新緑の中に配置して適度なリズムを生むのがねらい。中央下部にのぞく幹を支点に、小さくヒメシャラを振り分けるカメラ位置を取る。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ11　２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・天城山

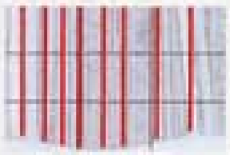
雑木と紅葉の赤で林のリズムに変化を出す



樹齢が若く幹もかぼそいシラカバの山肌をとらえる。針山のようなシラカバ林だけでは弱々しくパンチ不足なので、雑木と所々にのぞく紅葉の赤を適度にあしらえる所を探り、シラカバ林のリズムに変化をつけた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ11　１／30秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村黒川林道

単調に整然と並ぶ木立にひとくふうする



風の方向に吹きたまった深雪のスギ林。ここでも、整然と垂直線の木立が並ぶだけではあまりに単調。この場合は幹の並びだけを切り取ると画面が平板になるので、下部に少し雪面をのぞかせ奥行きを盛った。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／８秒　＋２／３補正　RVP　長野県・栄村秋山郷切明

撮影のポイント

●リズム感を出すための複数の垂直線構図は横位置であること。

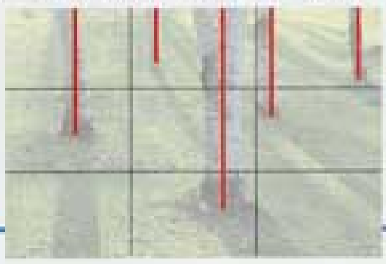
●あまりに整然とした複数の垂直線構図は単調にならないように、繰り返しのリズムをくずすことが必要。

垂直線の長さや太さで遠近感を出す

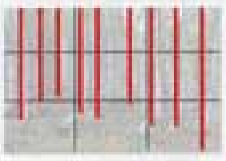
シラカバの垂直線と地面にのびた影で遠近感を表現

垂直線は上下への伸張感、高さを表し、画面に緊張感を生む。が、垂直線だけを切り取ると平面的な画面になるきらいがある。それを避けるため、作例では中央に配した太いシラカバの幹をメインに、背景のシラカバの太さや垂直線の長さに差をつけてリズム感を出し、さらにシラカバの垂直線と地面にのびた影の組み合わせで遠近感をつけた。

ニコンF４s　AIAFマイクロニッコール105ミリF2.8S　F４　1／500秒　−1／３補正　RVP　長野県・蓼科高原



垂直線のリズムのおもしろさをいかす

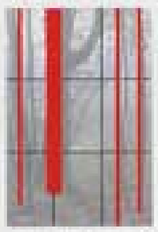


積雪の重みで根もとがゆがんだブナの曲線的な垂直線の描く、リズムのおもしろみをいかした構図。それと、緩やかな斜面をもつ地面を組み合わせて、適度な遠近感を画面に加えている。

ニコンF３　AFニッコール85ミリF２　F11　1／４秒　RVP　PLフィルター使用　新潟県・安塚町菱ヶ岳

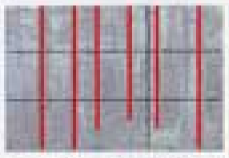
根太をフレーム枠におさめ、木の高さを助長

シルエット化した左の垂直線の太い幹と、霧にかすむ右の空間を対比させ、根太の部分をぎりぎりにフレーム枠におさめ、遠近感と樹木の高さを助長した。



ニコンF４s　AIAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　１秒　プラス1／3補正　RVP　PLフィルター使用　東京都・奥多摩雲取山

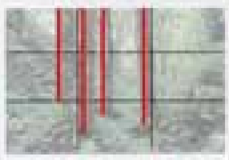
垂直線のパターンを針葉樹の幼樹でくずす



シラビソの原生林をパターン的に切り取った。平面的になりやすい構図であるが、それを補っているのが画面下部にのぞく針葉樹の幼樹。シラビソの垂直線のパターンをくずし、遠近感とリズム感を生んだ。

ニコンF３　AIAFニッコールED180ミリF2.8D　F11　２秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・静岡市光岳前衛岩見平

メインの4本の垂直線と斜面で遠近感を出す



画面中央付近のカツラの４本の垂直線をメインにした構図。斜面のラインをいかし、それを背景として対比させ遠近感をもたせた。さらに、この作画では、背景が明るく抜けていることで遠近感が加わった。

ニコンF４s　Aiニッコール35ミリF2S　F11　1/2秒　+1/3補正　RVP　新潟県・菅名岳

撮影のポイント

- ●垂直線だけを切り取ると平面的な画面になるので気をつける。
- ●地面や地形にうまく垂直線を組み合わせると、画面にリズム感や遠近感が出て変化がつく。

基本の構図

3日目

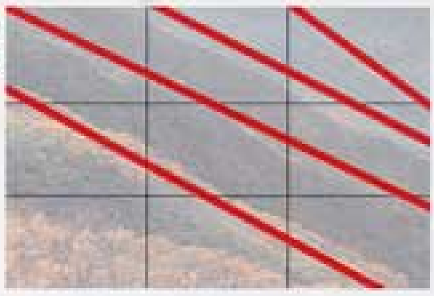
斜線構図

生き生きとした動感を出す

斜面の斜線の繰り返しのリズムに奥行きを出す

月山山頂からのながめ。山腹は雪食地形に特有な形態で、小沢が繰り返す波のように幾条も規則的なリズムで斜面を刻んでいる。紅葉の盛りが過ぎ、静けさの戻った穏やかな山の好日に魅了された。その様子を表すため、登山道を行きつ戻りつし、傾斜がいちばん緩やかと見える位置を選んだ。そして、斜面の繰り返しのリズムに奥行きを出すのと、紅葉のラインで画面が斜めに２分割されるのを避けるため、彩りの強く残る斜線を手前にもってきた。この線と、中央部を走る日陰の繰り返しの組み合わせが、奥行きとリズムを生んだ。

ニコンＦ４ｓ　AIAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／４秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山形県・月山



絵画に見る斜線構図

「睡蓮」クロード・モネ作
国立西洋美術館蔵
松方コレクション
1893年、モネは自分の屋敷の前に日本庭園を造成し、スイレンを浮かべる大きな池もつくった。斜線上に点在するスイレンが生き生きとした表情を見せている。

線が傾くほうへものが転がる運動性が感じられる構図

斜線は水平線または垂直線を傾けた線であり、この画面を斜めに走る線で構成したのが斜線構図だ。水平線のもつ広がりと安定感、垂直線が表現する高さや深さに対して、斜線上にものを置くと、線が傾いた方向へものが転がるような運動性が感じられる。つまり水平線や垂直線の「静」に対し、「動」の性格をもつのが斜線構図である。

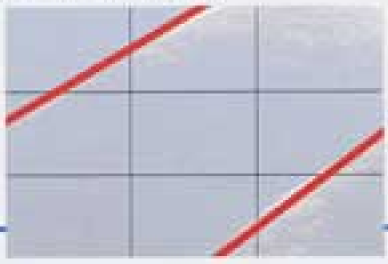
斜線構図では、画面内の斜線量が少なければ動きは小さく、多くなると、運動量は増しダイナミックな画面になる。また、線の傾き方でも印象が異なってくる。傾きが緩ければ、動きもゆったりした感じに写る。海や高原の撮影で経験された方も多いだろうが、海面や草原がわずかに傾いている画面は、動きよりも、むしろ不安感や何かが起こりそうな心のざわめきを与えてくれる。斜線構図の動感は生き生きしたリズムを呼ぶ反面、それをうまくコントロールできる作画センスが求められる。

複数の斜線で画面に動きを出す

右下の斜線により、動感が加わったのがわかる

複数の斜線の画面構成では、メインの斜線を明確に決め、その方向や傾斜角度も重要になる。この現場は土鍋の内側のような地形だ。毎朝、霜の降りるこの時期は尾根に沿って斜めに日が昇り、じわじわと光の帯が山腹斜面を侵食していく。その様子を観察し、日陰の暗がりに向かって光が突き進む運動性を、二条の光の方向で表した。

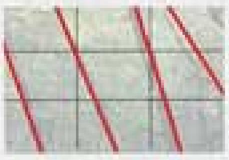
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ300ミリＦ２.８　Ｆ16　１／４秒　ー２／３補正　RVP　奈良県・曽爾高原



撮影のポイント

- ●複数の斜線で画面構成する場合は、メインの斜線を明確に決める。
- ●斜線の間隔や斜線どうしの長さで線の強弱バランスをよくはかる。
- ●斜線の方向や傾斜角度で印象は変わるので、現場をよく吟味する。

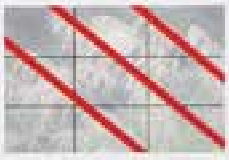
斜線上にのびる幹のリズムで動感を盛る



みずみずしい若緑が映えるミズナラ林。新しい生命に満ちた新緑の季節感、樹木ののびやかさを引き出すため、幹がはすに見える位置を選びカメラを構えた。この、ややはすにのびる斜線のリズムで動感を盛った。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ２.８Ｄ　Ｆ４　１／４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村

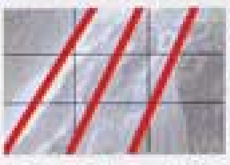
穂の同一方向への斜線ののびが動感を生む



雨に打たれるススキの穂で、初秋の季節感と運動の方向やリズムを表した。画面の右下方から左上方へ向かっていっせいに穂がのびて見える位置にカメラを据える。その同一方向への斜線ののびが動感を呼んだ。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　新潟県・松之山町

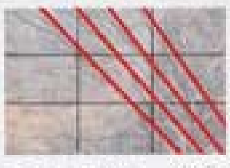
流水が落ちる勢いで流動感を盛り上げる



滝を滑る流水が斜めのラインを描くポイントにカメラを据えた。そして、中央部のゴツゴツした盤面を境に、流水が左右に振り分けられて落ちる勢いを利用して、流動感を盛り上げた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　２秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　兵庫県・大屋町天滝

画面をよぎる枝先を切り取り、動きを加えた



紅葉とスギ林を背景に、早くも葉を落としたヤマモミジが午前早くの斜光線を浴び、枝先を輝かせている。その枝の斜線をいかし、右下方から大きく画面をよぎるように切り取り、動きを加えた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ11　１／30秒　ー１／３補正　RVP　京都府・京都市高雄

斜線の組み合わせで広がりのある写真にする

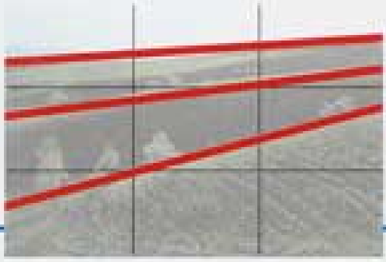
撮影のポイント

- ●斜線の組み合わせはすべて均一にせず、少しバランスをくずすこと。
- ●広がりを表すには、斜線の長さや間隔の取り方も大切。
- ●斜線で区切った手前のスペースを広めに、奥の斜線で変化をつける。

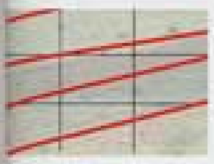
斜線の組み合わせ方と傾斜角度に差を出す

斜線の組み合わせは、少しバランスをくずすと広がりを表しやすい。作例は阿蘇の外輪山。圧倒される雄大感とのびやかさを出すため、斜線の組み合わせ方と傾斜角度に差が出るカメラ位置を選ぶ。手前の斜線の傾きがいちばん急であるその斜面のスペースを広く取って、奥の斜面との段差と陰を利用して奥行きと広がりをもたせた。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール55ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／８秒　－１／２補正　KR　熊本県・産山村



群落と影の帯の斜線とで広がりを出す



草原に広がるツツジの群落。その全景を写せば、とりとめなく広さも伝わらなくなるので、画面の中央部を横切る斜めの群落の帯と、その上の、雲の影でできた帯の斜線を組み合わせ、草原の広がりを表した。

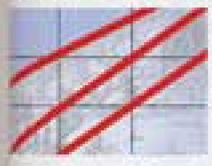
ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／８秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰高原

雪面と尾根のシルエットラインを利用する

夏の白山の水屋尻雪渓。画面の右側から左へ向かい、緩やかに傾いた雪面のラインを利用して雪渓ののびやかさと動きを描き、その先の尾根のシルエットラインと雲海で、視線が天部へ向く広がりを表した。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　２秒　＋２／３補正　RVP　石川県・白山

樹氷の重なりが広がりと動きを与える



左肩下がりの尾根を画面左上部に配し、それに添い、幾重にも連なる樹氷の斜線が段々に重なって見える位置にカメラを据えた。階段状の樹氷の重なりが画面に広がりと動きを与えている。

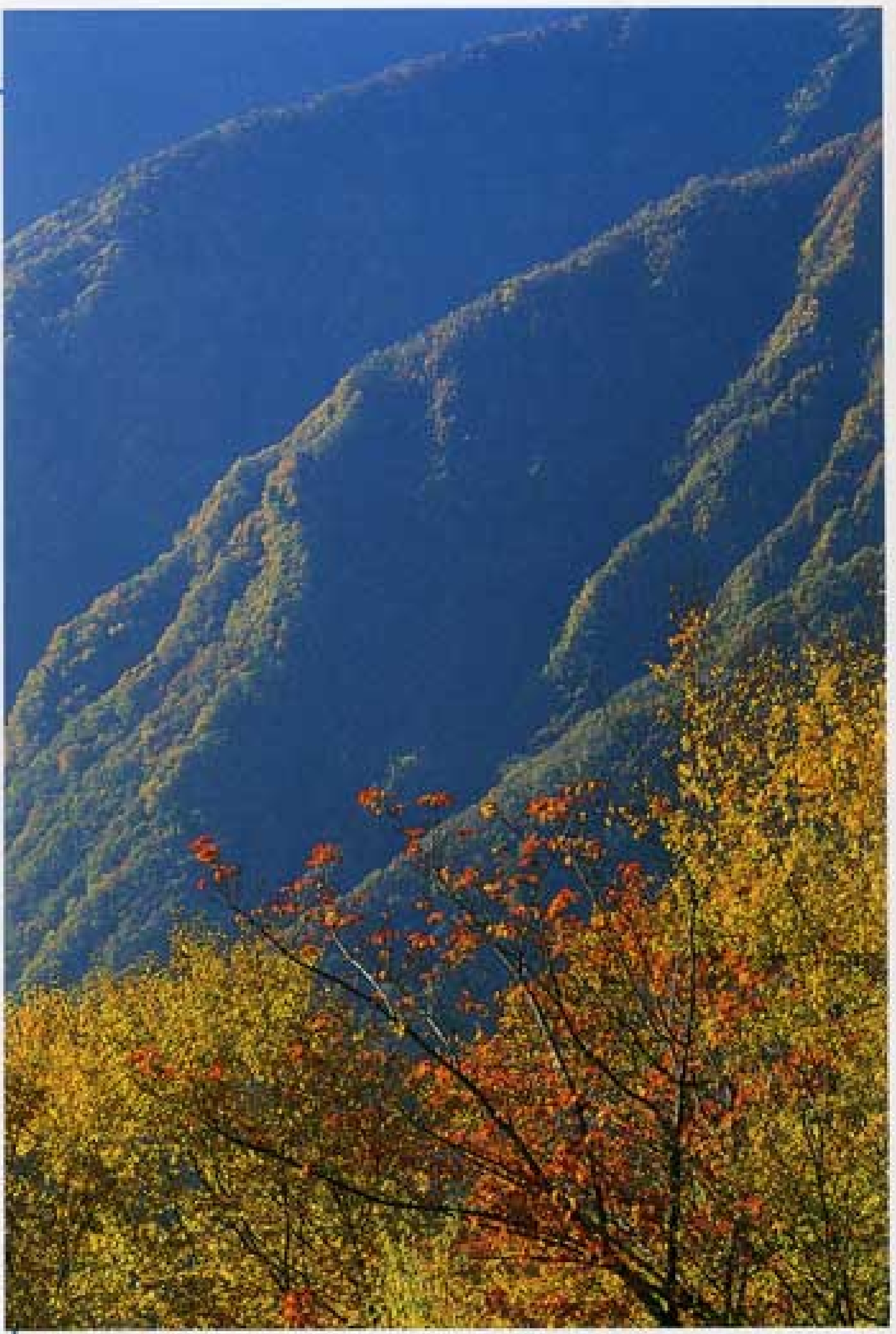
ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／30秒　＋１補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・志賀高原横手山

稜線と傾斜を強めた斜線との組み合わせ

画面の右上部からなだらかに傾斜したナナカマドの広がる斜面を大きく取り、その遠くに続く稜線の、やや傾斜を強めた斜線との組み合わせで、この山稜の特徴である山体の広やかさと遠近感を表した。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　１／15秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　宮城県・栗駒山

望遠レンズの圧縮効果で、遠近感を出す



縦位置の場合

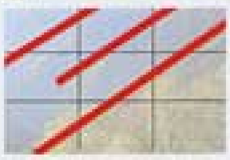
望遠のもつ距離の喪失効果を斜線の尾根筋の重なりでねらう

望遠の圧縮効果をいかすには、前景と背景の対比バランスをはからねばならない。作例では、秋の山峡の光景を縦位置に切り取った。黄と赤の彩りの鮮やかさと、背景の尾根に漂う山の空気感を引き出すのがねらい。ピントを葉桜の赤に合わせ、絞り値は開放。背景を大きくボカし、斜線の尾根筋の重なりが徐々に周囲と溶け遠のいていく望遠のもつ距離の喪失効果をいかした。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8　1／250秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村三伏峠鳥倉林道

横位置の場合

尾根の斜線の重なりと黄葉との遠近感を出す



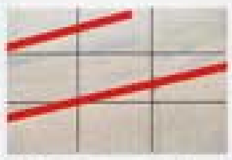
右カットの横位置バージョン。望遠比を弱め130ミリ域で撮影。黄葉を主題に、左下がりの尾根の斜線の重なりをいかして、主題との遠近感を表した。ここでは、尾根の輪郭がわかる絞り値を選んだ。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ5.6　1／60秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村三伏峠鳥倉林道

撮影のポイント

- ●望遠レンズで遠近感を生むには、主題と背景までの距離をどう表すかが大切。
- ●望遠の圧縮効果をいかすには、前景と背景との組み合わせ、対比バランスをはかる。
- ●望遠レンズで遠近感を出すには、背景のボケ描写をどのように写すかが大切。

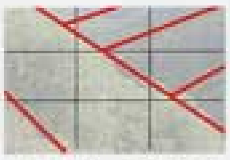
背景のボケた斜線が動感と遠近感を生む



晩秋の山腹斜面を彩る渋みのあるクサモミジの中で、立ち枯れたコバイケイソウの蕭条とした姿に引かれた。それにピントを合わせ、絞り値を開放で背景を大きくボカし、主題を浮かばせた。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ2.8　1／30秒　RVP　山形県・月山牛首湿原

ナラの新緑の斜線と背景の緑とで距離感を出す



画面の約３分の２を占める、鮮やかなナラの新緑の斜線。それに、日陰となって深みを増した斜線からなる背景の緑とを組み合わせ、その色合いと階調の差で距離感を生じさせた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　1／４秒　－2／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯白布峠

基本の構図

4日目

対角線構図

画面を2等分割して、安定感を出す

対角線で区切った黒の部分が夕焼けた海面を受け止める

穏やかな瀬戸内の落日を本州側の高台からねらう。標高300メートルほどの低山であるが、海面を眼下に望めるハイポジションが取れた。画面左上部のつながった島と太陽を画面のどこに配置するかで、手前のシルエットになった斜面のスペースと画面を横切る対角線の位置を決めた。このカットでは、対角線で区切った黒のスペースが夕焼けた海面を受け止めるとともに、海面を押し上げる役割も果たしている。また、対角線で区切られた明暗の差で、自然に視線が暗い斜面から明るい海面へと向かうはたらきになっている。

ニコンＦ５　トキナーＡＦプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　オート　＋1／３補正　RVP　岡山県・倉敷市三百山より瀬戸内海

絵画に見る対角線構図

屋の前の旅人たち」
ーク・ファン・オスターデ作
西洋美術館蔵
スターデは宿屋の前で休息する
を多く描いた。空と地上を区
した対角線構図のもつ安定感
かみのある色彩が、やすらぐ
の心象風景をとらえている。

とてもバランスのとれた安定感のある画面構図

カメラのファインダーは、正方形または長方形だ。その画面を何も描かれていない白紙に見立てると、視線は自然と中心に集まる。とともに、四方へ放射していく広がりも感じる。この集中と放射という正反対の力の中で、人は自然と心理的バランスを求めている。

放射して広がる線は、画面の四隅へ向かう力がはたらいて対角線を構成する。対角線構図はこの四角形の四隅を結ぶX線上に主要被写体を配置した構図である。風景では山の稜線や高原の傾斜面をはじめ、いろいろな傾きをもつ斜線が含まれているが、その斜線が対角線と一致した場合、とてもバランスのとれた安定感のある画面となる。

いわば、対角線はあらゆる斜線の中で、もっとも安定する角度をもった線ともいえる。ただし、完全な対角線上に被写体を配置すると、2等分割されて主題があいまいになるので、通常は少しずらして構成する。

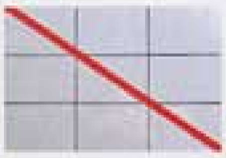
対角線上に主役を点在させ、リズム感を出す

アジサイを少しずらして配置しリズムに変化を出す

複数の主役を対角線上に並べると、リズムを生みやすい。この場合、大きなアジサイの株が、三つ並んだ姿が目に止まった。株の玉状の大きさが微妙に違ってかわいらしく串団子のような印象を受けたので、対角線上に配置。きっちり対角線上におさまるのではなく、左下の玉が少しずれてリズムに変化が出て味が出た。
ニコンF 4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F 4　1／15秒　RVP　PLフィルター使用　群馬県・太田市

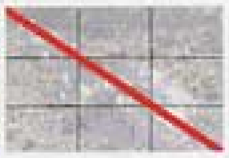
撮影のポイント
- ●複数の主役を対角線上に並べると、リズムを生みやすい。
- ●被写体の形や大きさとのバランスで、対角線の位置をはかる。
- ●対角線の方向は作画に影響するので、現場の地形をよく見きわめる。

アカヤシオが対角線に沿って緩やかに傾く



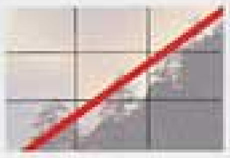
深い霧におおわれた谷間の急斜面にアカヤシオが咲いている。斜面に沿い、右下がりに映えた配列だ。花株の大小の違いに注目し、中央の株を主役に、対角線に沿って緩やかに傾いて見える作画とし、方向性とリズムをもたせた。
ニコンF 4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F11　4秒　＋2／3補正　RVP　静岡県・春野町岩岳山

ミズバショウと日差しの位置関係でリズムを生む



水辺にミズバショウを見つけた。雪解けで水かさを増した小川、それとミズバショウの位置と流れにきらめく日差しの組み合わせから、小川を対角線に配して奥行きを出し、ミズバショウと日差しの位置関係でリズムを生んだ。
ニコンF 4s　Aiニッコール35ミリF 2 S　F11　1／30秒　＋1／2補正　RVP　秋田県・八幡平

対角線上に点在する樹冠が、夕靄を貫くような構図



夕方が近づくにつれ、尾根筋をはうように靄がわき、日を閉ざす。尾根では、針葉樹がリズミカルなシルエットラインを刻む。その形状をいかし、対角線から飛び出たように点在する樹冠が、夕靄を貫くような作画とした。
ニコンF 3　Aiニッコール ED180ミリF2.8S　F11　1／2秒　＋1／2補正　RVP　長野県・安曇村安房峠

茶畑の傾斜角度を対角線より緩くして画面を整える

山あいの斜面に開けた茶畑。ちょうど、新茶の季節で鮮やかな茶葉の黄緑がまばゆい所に、これも芽吹いたばかりのカキの木があるので、これをアクセントにして、傾斜角度を対角線よりやや緩く取り、画面を落ち着かせた。
ニコンF 4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／8秒　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・中川根町

幅のある対角線を利用して迫力を出す

滝の流れにほどよい幅があるので、流麗感が加わった

対角線の幅に変化をもたせると、迫力・緊迫感のある画面となる。作例のような晴れた日の渓谷は、照明ムラが激しいので撮りづらい。この滝も明暗のコントラストが強かったので、均一な明るさを保つ、二筋の流れに的を絞る。落水の角度と岩肌の絡みを基に、手前の流れをメインに定め、ほぼ対角線上に配置した。

ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・河津町河津七滝

対角線を画面外に突き出してしまう勢い

どっしり存在感を示すトチの古木。そのボリュームの豊かさを利用し、根もとから対角線そのものを画面外に突き出してしまう勢いをもたせた。画面に占める幹の太さ、傾きの角度も勢いの重要な要素。

ニコンＦ４ｓ　Ａｉニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　２秒　プラス１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村泉水谷

幅広の幹を対角線に重ね、倒木の尊厳を出す

原生林の中で、長々と身を横たえているツガの倒木を見つけた。苔むすその姿に、朽ちても風格を感じた。その尊厳を引き出すため、幅広の幹を対角線いっぱいに重ねて、構図を決めた。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　４秒　RVP　PLフィルター使用　東京都・奥多摩雲取山

撮影のポイント

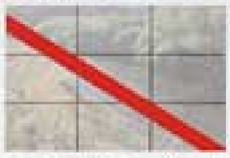
- **●風景に合わせ、対角線の幅を調整する。**
- **●対角線の幅に変化をもたせると、迫力や緊迫感のある画面となる。**
- **●同じ対角線構図でも、縦・横の違いで印象が異なるので、状況に合わせ撮り分ける。**

川幅が岩と新緑のスペース配分とつり合う

新緑のヒスイ峡。対角線でほぼ２等分割の構図である。この構図としたのは、渓流の川幅によって、岩盤と左手前の新緑とのスペース配分がつり合うことと、視線が自然に流れに添って上流へ向かうからである。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　1／2秒　RVP　PLフィルター使用　新潟県・糸魚川市ヒスイ峡

川幅の広がりが、ゆったりとした流れを描く



左の作例と同じく、対角線により２等分割された構図である。上流から下流方向へ大きく川幅が広がっているので、ゆったりとした流れの動きと方向性を感じる。上部の竹林の緑と左下向きの枯れ草の対比もよい。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１／８秒　＋1／3補正　RVP　茨城県・大子町久慈川

対角線構図が生む緊張感をやわらげる

絞りを浅くして、画面全体の対角線の輪郭をやわらげる

２等分割された対角線構図では、ボケのコントロールなどで生じた緊張感をやわらげる。作例は、豊かな草花に満ちた夏山の尾根道。草丈の違いが対角線を緩やかに見せるとともに、リズムに変化を与えている。背景の稜線の形も起伏がゆるく穏やかなので、絞りを浅くして、画面全体の輪郭をやわらげた描写とした。

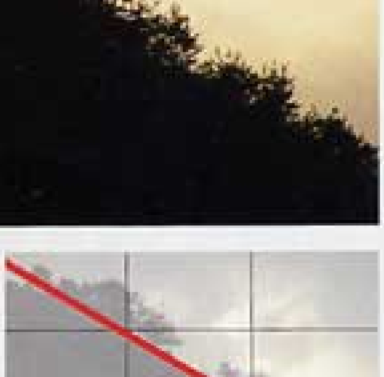
ニコンＦ４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　石川県・白山

撮影のポイント

- ●画面を２等分割する場合、主役とわき役の配分バランスが大切。
- ●シルエットラインによる２等分割では、対角線を少しずらす。
- ●ボケを使って緊張感が生じた２等分割画面のどちらかをやわらげる。

画面が分断される完全な対角線構図は木立のシルエットでやわらげる

対角線上のシルエットラインは見た目に非常に強い印象を与える。したがって、完全な対角線構図を取ればほとんどの場合、画面が分断されてしまう。それを避けるため、この作例では、左上部にへの字形の木立のシルエットを取り込み、その丸みを帯びた突起で対角線をやわらげた。また、わずかに対角線を押し上げて空のスペースを少なく見せているのは、夕暮れ感を強調するためである。



ニコンＦ３　Aiニッコール ED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１／４秒　－１／２補正　RVP　東京都・五日市町秋川渓谷

基本の構図

5日目

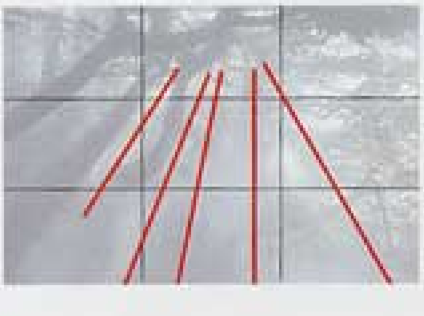
放射線構図

躍動感を表現する

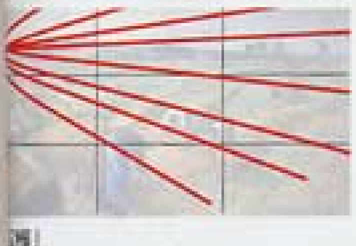
樹木が外へ広がる躍動感と木漏れ日の拡散力を描く放射線

朝靄の原生林。木漏れ日が朝靄を貫いて漂う。この画面の中心に写っているのはもやった光の帯で、明確なポイントらしきものはない。しかし、周囲に拡散された放射状の光の帯をたどると、自然と視線は狭まり画面の枠を突き抜けて、画面上部の１点に光源があることをイメージさせる。潜在的な求心点が枠外の上部にあって、そこから放射状に拡散された靄のラインに従って、樹木が外へ広がる躍動感と、木漏れ日の拡散力を利用した放射線構図の利点をいかした作画である。

ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8S　Ｆ11　１／４秒　－１／２補正　RVP　秋田県・八幡平大深沢



絵画に見る放射線構図



…穫」
…ミーユ・ピサロ作
…西洋美術館蔵
…郊外の小さな村での麦の刈り…風景である。地平線の左端か…空と麦畑へ放射状にのびる線…刈り入れどきの農婦たちの躍…感や高揚感を高めている。

生き生きした活力のある楽しい画面を生み出せる構図

絵画や写真の世界における放射線とは、１点から、四方八方へ拡散する直線を指す。放射線構図は、この１点から、画面の外へ向けて放たれた直線に沿う形で、被写体をバランスよく配置して画面をまとめる構図形式のことだ。

長方形ないし正方形の画面の四隅を結ぶ対角線の交点は、画面の中心である。中心には無言のうちに人の視線を集める特別な強いはたらき、求心力が備わっている。この中心をめぐる求心力を活用すると、被写体が外へ飛び出すような勢い、生き生きした活力のある楽しい画面を生み出せる。

また、中心となるポイントを画面の天部、あるいは下部に当てはめると、そのポイントを中心にして、視界が開けていくような拡散する開放感や高揚感といった、見る者に元気を与えるはたらきもある。そのため、被写体が画面からはみ出るぐらいの、ダイナミックな構成を取るのもおもしろい構図だ。

放射状に広がる雲や大地の形状で、拡散感を出す

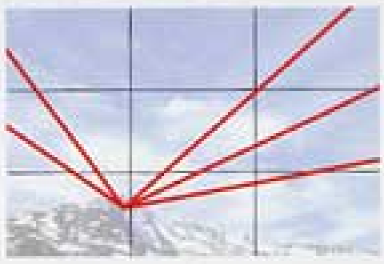
空に浮かぶ雲を利用する

放射状に広がる朝焼けの色と雲の拡散感を出す

外気は身を切るような冷たい冬の朝、空は一面の斑雲でおおわれていた。その雲の濃淡のはざまから、日の出時刻が近づくにつれ、しみ出すように色づいた朝焼けが広がる。そこで、水平線を画面いっぱいに下げ、青紫の斑雲の下層から、放射状に朝焼けの色が広がり、画面を上空に押し広げていく拡散感を表した。左上部の切り取りがポイント。ここでカットしたことで、拡張感を盛った。

ニコンF４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴岬

巻雲の形をいかし、のびやかさを表現する



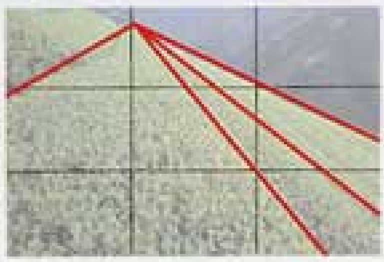
鳥海山は富士山形の美しい山容をしているが、見る方向によって、形状や受ける印象もさまざま。作例は、北西山麓の中島台から見た鳥海山で、山稜を横にのばした雄大さとゆったり感が特徴だ。この日は折よく、山頂付近を支点に次々と姿を変えて巻雲が現れたので、長大な山容に呼応するかのような、放射状に左右に拡散する巻雲の形をいかし、のびやかさを表した。

ニコンF５　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　オート　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・象潟町中島台より鳥海山

撮影のポイント
- ●巻雲（毛状雲、筋雲、放射状雲、鉤状雲）や巻積雲（いわし雲、波状雲）などが放射状に広がりやすい。
- ●茶畑や高原野菜畑の畝を利用し、拡散感を強調する。

大地の形状を利用する

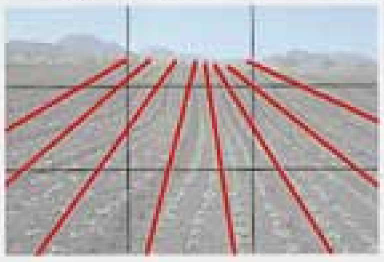
茶畑の畝のラインが放射状に広がっていく



新芽がそろったみずみずしい山あいの茶畑。細い茶畑の畦道を不自由に移動しつつ、斜面の傾きと、カメラに向かって迫る茶畑の畝のラインがもっとも放射状に拡散して見える位置を探った。それにより、放射状の求心点を左から２列目の、いちばん畝が広がって見る最奥部に求めた。この場合、拡散感と奥行きを感じさせる、カメラ位置の高さも重要なポイントになる。

ニコンF４ｓ　Aiニッコール24ミリF2.8S　F16　1／4秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・岡部町

放射状にのびた畝がカメラ軸に向かう進出感を表現



左の茶畑の作画に類似した大地の形状を利用した放射線構図の作例。撮影地は久住高原。レタスなどの高原野菜の畝をとらえた。畝の間隔が狭く規則的に並んでいるのと、遠くに見える久重連山の鞍部に求心点を求め、そこから、中央に配した畝のラインを中心にして、放射状にのびた畝がカメラ軸に向かって来るような進出感を表した。

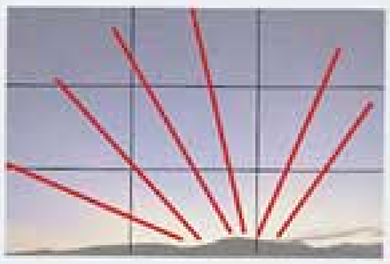
ニコンF３　Aiニッコール24ミリF２S　F16　1／2秒　KR　PLフィルター使用　大分県・久住町

光の筋をとらえて、感動的な写真に仕上げる

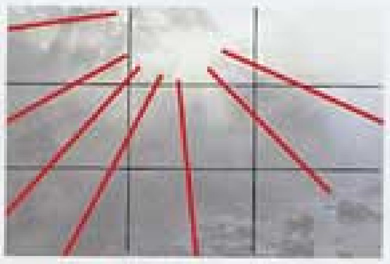
光の束が放射状に暗い空へ突き進む進出感を表す

常に大気がクリアな夏の夜明け。日の出の40分ほど前、なだらかにのびた稜線と空の境界がほんのり色づいた。しばらくすると、その色合いは徐々に紫黒の空を浸食し、それに続き、明るみを加えた光芒が上空に進んでいく。黒い稜線から誕生する、その光の束が放射状に暗い空へ突き進む進出感を表した。このカットでは、中空の明るみと上空の暗さの配分が重要。

ニコンＦ３　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ８　32秒 RVP　長野県・霧ヶ峰高原



暗い川面を画面の下部に取り込み、放射状の光芒の存在感を強める



朝霧の立ち上る深山の渓流に日が差した。日差しは霧でディフューズされ、ファインダーの四方に飛び散り、長い光芒をいかすため、画面の中点の延長線上の上部に配置した。そして、まだ、光の回り切らぬ暗い川面を下部に取り込み、放射状の光芒の存在感を強めている。

ニコンＦ３　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１／８秒　＋１／２補正　RVP　秋田県・八幡平大深沢

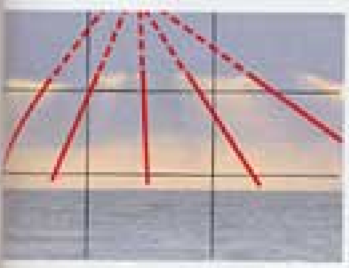
撮影のポイント

- ●光の筋とはっきりする光芒をとらえるため、露出はややアンダーに。
- ●光芒の方向が上か下かで印象が違うので、作画意図を明確にする。
- ●光の存在を強調するには、その方向や明暗差をはっきりつける。

望遠レンズの圧縮効果で、光芒の放射角度を鈍くして太陽の存在感を増幅する

日は厚い雲に隠れてしまい、その在がわからない。しかし、雲の薄くなった裂け目から漏れる光芒で、の見えぬ太陽のありかをイメージさせている。望遠レンズで太陽方向を引き寄せた。そのため、左右光芒の間隔が空き、放射線の角度鈍くなっているが、逆にそのこと、画面外にある太陽の存在感と大きさが増幅された。

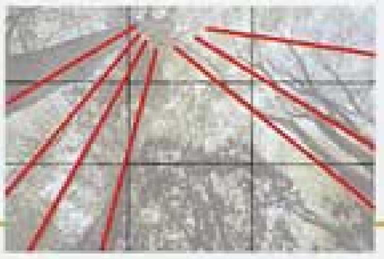
コンＦ４ｓ　トキナーAFプロ300ミリＦ　Ｆ11　１／８秒　－１／３補正　高知県・土佐清水市大岐海岸



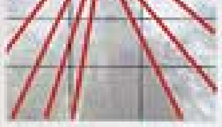
被写体の形とレンズの特性をいかす

超広角ズームで幹と木立の放射線の集中力を高める

見上げた放射線構図では広角ズームを用いると高さを表しやすい。作例では新緑の林の中、超広角ズームのワイド端で頭上を見上げ、幹の太さや木立の形状、太陽の位置を検討した。日差しが強くフレアが出るので、左上部の樹冠の茂みに日を隠し、左の太い幹と右から中央にのびる４本の木立の線を組み合わせ、放射線の集中力を高めた。
ニコンＦ５　AFニッコール18〜35ミリＦ3.5〜4.5　Ｆ16　オート　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・天城山

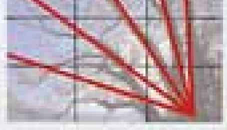


放射線の求心力に動きをもたせる



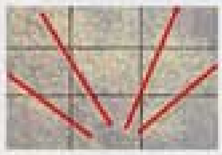
霧雨に煙るスギの巨木。雨空に堂々とそびえる姿を仰ぎ見た。白っぽい雨空のスペースをなるべく少なくするのと、空に向かう勢いを増すため、若干、幹が左へ傾くように見せ、放射線の求心力に動きをもたせた。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／２秒　＋２／３補正　RVP　茨城県・筑波山

放射状に勢いよく張り出た幹の形状をいかす



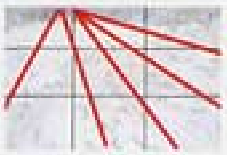
海岸沿いに咲くソメイヨシノ。なかなかの巨木で、主幹から分かれた幹の張り出しに勢いがある。完全な逆光だが、右下隅から放射状に勢いよく張り出た形状をいかしたかったので、二股の幹で太陽を隠した。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　山口県・東和町五条千本桜

望遠で切り取り、拡散する開放感を出す



丘陵の斜面で春を告げるサンシュユが咲き誇っていた。樹形をよく観察して、主幹から放射状にまろやかに枝を広げて見える位置にカメラを据えた。望遠で主要部のみを切り取り、外へ拡散する開放感をもたせた。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ４　１／30秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　奈良県・平群町

雪の重みと風に倒れたヨシを放射状に配する



吹雪のあとの湖の湖畔。雪の重みと風の方向に倒れたヨシの姿に蕭条とした風情がある。そこで、踏み跡に注意しつつ、天部のわずかな湖面に向かってヨシがなぎ倒されたように放射線を配置した。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　２秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　栃木県・奥日光湯の湖

撮影のポイント

- 見上げた放射線構図では、小さくても人目を引くポイントを配する。
- 見上げた放射線構図では広角ズームを用いると高さを表しやすい。
- やわらぎのある放射線は目に優しく、くつろいだ奥行きを生む。

基本の構図 6日目

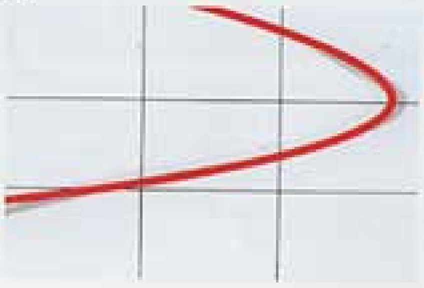
曲線構図

優美さを引き出す

雪面をふっくらとした雪餅のような形などの曲線でまとめる

厳冬の北竜湖面を厚くおおった氷の上に雪が積もる情景を、ソフトで優しげな印象を与える曲線構図でまとめてみた。自然の妙というほかないが、凍みた雪面にたおやかなシャーベット状の曲線が描かれている。撮影位置を左右に少し移すだけで、左上の丸餅状の雪だまりの形や曲線の曲がり具合が変わってくる。この作例では、ふっくらとした雪餅のような積雪の形と、それを囲む曲線を境にして、雪面どうしがうまくバランスをとって見えるところを作画した。

ニコンF４s　AiニッコールED180ミリF2.8S　F11　1秒　＋2／3補正　RVP　長野県・野沢温泉村



絵画に見る曲線構図

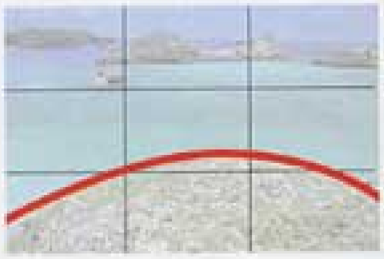
立つプールヴィルの海」
ロード・モネ作
立西洋美術館蔵
方コレクション
ネが愛したノルマンディーの海
風景。粗い筆致で描かれた波立
海と雲の走る空の情景を、海岸
曲線がバランスよく受け止めて
る。

抒情豊かな日本の自然や季候の描写に適している構図

さて、次に曲線構図について考えよう。垂直線や鋭角的な斜線が、ダイナミックな動きや剛性を見る人に与えるのに対し、緩やかなカーブをもつ曲線は、見る人に穏やかさやソフトな印象を与えてくれる。直線のもつパキパキしたかたさや論理性と違って、丸みや曲線にはやわらかさや人の気持ちをやわらげる効果がある。こののどかさやゆったりした温かみをも感じさせるのが、曲線構図の特性といえよう。

そのため、湿潤温暖で箱庭的な日本の自然景観では、必然的に曲線構図の利用機会が多くなる。ソフトで優しげな印象を与える曲線構図は、しっとりとした抒情豊かな日本の自然や季候を表すのに適している反面、それに慣れると表現が感情に走り、甘いセンチメンタリズムに流されやすい。この秘めたる曲線構図の短所を補うには、優美な情感を支える確かな構成力がおのずと求められてくるのだ。

前景に曲線を配し、写真をより印象づける



岩の曲線部分を手前にもってきて、開放感を引き出す

前景に曲線を配置する構図を考える。作例は、いかにも南海の海を思わせる海面の色合いと小島のたたずまいで、南海の透明度の高さと開放感を引き出すのが作画のねらい。背景上部の小島の形と配列にうまく呼応し、陽気で爽快な気分を生むため、岩上の丸みのある曲線部分を手前に配して、背景に対応させた。

ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　東京都・小笠原村父島

ふっくらと盛り上がる曲線のシルエットで安定感を出す

真鶴岬東海岸先端部の、イルカの頭のような曲線の形を利用した。11月下旬から１月中旬にかけては、撮影位置を移動させると、鼻先の先端部から盛り上がる頭部の、好みの位置に日の出を配置できる。作例では、頭部の曲線を画面左へ寄せ、朝日と海面を進行方向へ押していくような作画にした。

ニコンＦ４ｓ　AIAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　神奈川県・真鶴岬

撮影のポイント

●画面手前に曲線を配する場合は、背景と呼応するバランスを考える。
●半島や岬などが生み出す曲線構図では、カメラ位置により傾斜の度合いが変わってくる。

背景をボカして主役のまろやかな曲線を引き立てる

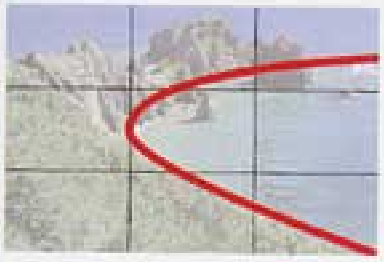
水辺のみずみずしさと小岩の密生度の高い苔のまろやかさを表すのがテーマ。この場面では、岩の形と苔のふんわりしたやわらかみの相乗効果で、まろやかな曲線が描けるから、カメラの方向と高さを微調整してアングルを決めた。さらに、望遠レンズの高いボケ効果を用い、苔岩を浮かび上がらせた。

ニコンＦ４ｓ　AIAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／４秒　RVP　PLフィルター使用　熊本県・菊池渓谷

曲線を描く地形をとらえて奥行き感を出す

C字形の曲線を描くポイントを見つけ、岬の形と海面の色合いを調和させる

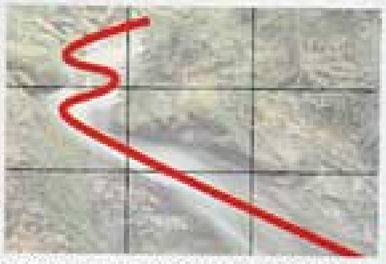
小笠原諸島屈指の景勝地、父島の長崎を望む高台に立つ。長崎は美しいコバルト色の兄島瀬戸に先端を突き出している。岩場の高台を歩き回り、岬の形と海面の色合いが調和する場所を探す。そして、岩場に茂る鮮やかなヤシの緑と、その先に大きくC字形の曲線を描くポイントを見つけ、カメラ位置を決めた。
ニコンF５　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　東京都・小笠原村父島



川床が緩やかな稲妻形の曲線を描くポイントを見つける

照葉樹林を主体とする新緑の瀞峡。峡谷にかかる橋の上から見下ろす。撮影位置により川床が見え隠れする。川床を隠せば平板でのっぺりした画面になるし、あまり見えすぎても川床を境に画面が分断される。そこで、峡谷の深さと流れの方向の奥行きを出すため、慎重に撮影位置を移し、川床が緩やかな稲妻形の曲線を描くポイントを見つけて曲線構図とした。
ニコンF３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F11　2秒　KR　和歌山県・熊野川町瀞峡

緩やかな曲線で小流の流麗感と奥行きや広がりを出す



久慈川流域へ出かけたおり、偶然に見つけた名もない小流。流水の幅は50～60センチほどだが、水量豊かで勢いがよく、水辺のまわりにも心地よい潤いがあるところに引かれた。画面の左上から緩やかな曲線で滑り、右下隅へ下る流麗感を出すようにしてカメラ位置を決めた。寸景ながら奥行きがあり実際以上の広さが出た曲線構図だ。
ニコンF３　Aiニッコール35ミリF２S　F11　2秒　RVP　PLフィルター使用　茨城県・水府村

撮影のポイント

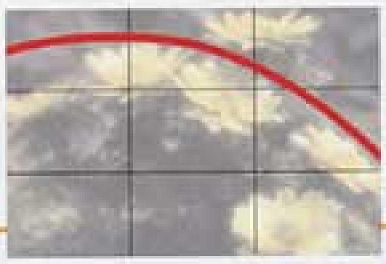
- ●海や海岸では、砂浜や断崖の描く曲線をうまくとらえる。
- ●河川や渓谷では、流れそのものが刻んだ形状をいかす。
- ●曲線の度合いはカメラ位置の高さやレンズの方向が大きく影響する。

曲線を見つけて、優しさを表現する

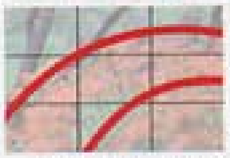
曲線の丸みで花の可憐さと日の温もりを描き出す

曲線の曲がり具合や切り取り方が、優しさなどを表現するとき、重要になってくる。作例は、スギ林に群生するフクジュソウだが、広範囲を撮ると周囲のスギの枯れ枝が目立つので、フクジュソウをクローズアップする。曲線状にこんもり盛り上がった株を見つけ、その丸みがフクジュソウの可憐さと日の温もりを感じさせる構図とした。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ2.8　１／250秒　＋１／２補正　RVP　秋田県・角館町



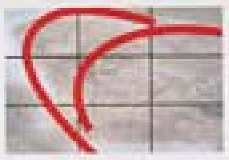
背景との絡みで色彩のメリハリをつける



ヒガンバナの群生地、巾着田での撮影。人出の多さに広めの撮影はあきらめ、川辺の斜面で、緩やかな曲線を描く部分を切り取って構図を整える。背景の幹との絡みで、まろやかさと色彩のメリハリをつけた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／30秒　RVP　PLフィルター使用　埼玉県・日高市巾着田

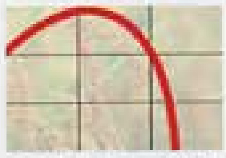
フレーム枠いっぱいに岩盤の曲線をいかす



つやつやした虎目模様の岩盤を沢水が滑る。その岩盤の滑らかさと、表面を滑る清水の流麗感を盛るため、まろやかな岩盤の曲線をいかし、フレーム枠いっぱいに切り取って構図を決めた。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ16　２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　群馬県・水上町照葉峡

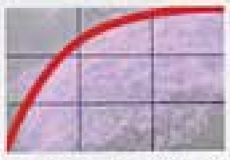
稲穂の描く曲線で優しさを表現する



たっぷり実った稲穂が、秋雨をいっぱいに含み、しなやかに曲線を描いている。この場面では、かよわげな茎のラインと雨滴の重みで首をたれた稲穂のたおやかさとの相乗効果を用いて、優しさを表した。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／60秒　RVP　新潟県・松之山町

ツツジの優美な曲線から、つややかさを出す



早咲きのムラサキツツジ。周囲の木々はまだ芽吹き前の枯れ木色なので、その彩りが目を引く。お椀形に美しく刈り込まれた株が、左下がりの優美な曲線を見せる位置をとらえ、つややかさを引き出した。

ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ11　１／２秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・箱根町小涌谷

撮影のポイント

- ●優しさを表すには、曲線の曲がり具合や切り取り方も重要。
- ●曲線を優美でしなやかに見せるには、背景との組み合わせ、ボケのコントロールも大切。
- ●曲線を美しく見せるには、対角線をうまく使うとよい。

基本の構図

7日目

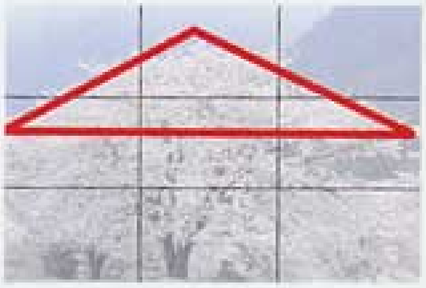
三角形構図

安定感が得られる

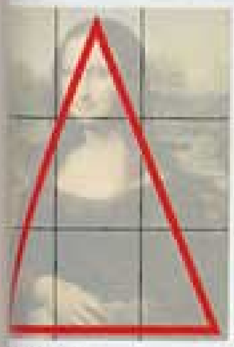
サクラが扇を広げたような三角形の形状を望遠で切り取る

三角形構図の安定感を、小雨の降り続く山あいの堤防に200メートルほど続くサクラ並木に求めた。どのサクラも同じような樹齢に見え、花のつきもよい風情のあるサクラばかりだが、その中の１本に特に引かれた。見る角度により樹形は姿を変えるものの、傘を開いたような三角形の美しい姿は山峡に咲く花傘のようだ。背景の尾根の線と模糊とした山霧を組み合わせ、サクラの丸みのある樹冠を頂点として、ゆったりと扇を広げたような三角形の樹形をいかし、望遠レンズで切り取った。

ニコンＦ４ｓ　AIAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　PL フィルター使用　岐阜県・南濃町



絵画に見る三角形構図



ナリザ」
オナルド・ダ・ビンチ作
の微笑みで有名な絵画。モデル
富豪ジョコンドの妻リザとされ
肖像画にもっともふさわしい
定感は三角形構図ならではのも

堂々とした安定感と動かしがたい力強さを生む構図

あらゆる物体の形の中で、もっとも安定した形が三角形である。正三角形のピラミッドがその代表例で、三角形の底辺がずっしりと大地についたその形は、どの方向へ押しても引いても、転がりようのないほど安定している。このように、三角形構図は堂々とした安定感と沈着で動かしがたい力強さを生む。そして、風景にかぎらず、座った人物の肖像画やバストアップのポートレート撮影でも、顔をメインに撮れば、三角形構図におさまってくる。

しかし、あまりに安定がよく落ち着きすぎた画面だと動きが止まり、精気のない退屈な画面になってしまうので気をつけたい。山や川が写っている広い風景を見た目どおりに広角レンズで写した場合によくあることだ。これを防ぐにはレンズワークやアングルをくふうして、底辺に対する頂角方向への高さに変化をつけたり、画像のゆがみを利用して奥行きを出すとよいだろう。

三角形の形状をいかして主役を引き立たせる

ボケ効果を利用して三角形構図をつくり上げる

望遠マクロで丈の高いレンゲをボカし、三角形の配列にリズムを加える

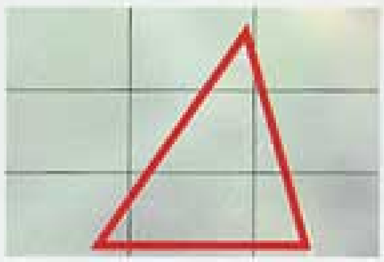
三角形構図は背景や三角形の配置位置で印象が異なってくる。作例は、山あいの棚田で目に止まったひとむらのレンゲソウ。咲きはじめたばかりで花の密度が粗いため、田の畦下から望遠マクロで仰ぎ、花の密度を高めた。そして、春の華やいだ色合いと草丈に高低差をつける。中央下の丈の低い一輪にピントを結び、絞りを開け、いちばん丈の高いレンゲをボカし、三角形の頂点として配列にリズムを加えることによって主役が引き立った。

ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED300ミリＦ2.8D＋中間リング　Ｆ2.8　１／30秒　RVP　静岡県・下田市

背景をボカし、主役が鋭角の三角形に見えるように構図を整える

夏の朝、湿原の草むらでは露を宿した草々がキラキラと輝いている。その中で、20センチほどの丈のコヨリ状の草の先端に地面からのびたクモの糸が繊細な調べを奏でていた。その姿にメトロノームを思い浮かべ、背景をボカし、鋭角の三角形に見えるようにフレーミングして頂角方向へ視線を集めた。

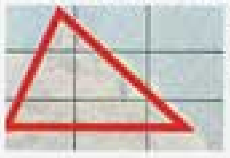
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／250秒　＋１／３補正　RVP　群馬県・沼田市玉原湿原



フレーミングの違いによる表現の違いを見きわめる

標準ズームで三角形の上昇感を描く

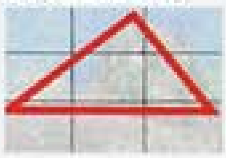
撮影位置は右の作例とほぼ同地点。標準ズームにレンズを変え視野を広げ、岩峰の頭部を支点に右下がりの三角形となるフレーミングを取った。すると三角形も鋭角的に見え、視線が自然に頭頂部へ向かう上昇感が加わった。



ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　奈良県・大台ヶ原

望遠ズームで三角形の安定感を描く

左の写真と同じく、撮影対象は大台ヶ原山中にある大蛇嵓（くら）と呼ぶ岩峰。この作例は、三角形の頂部が鈍角となるようなフレーミングを取り、山峡でどっしりと構えた岩峰の安定感を重視した。

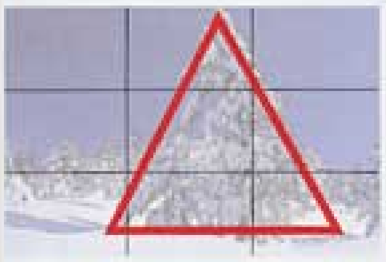


ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ４　１／60秒　RVP　PLフィルター使用　奈良県・大台ヶ原

撮影のポイント

- ●三角形構図はその形とともに、画面のどこに配置するかが大切。
- ●三角形の頂角を鋭角とするか、鈍角とするかで異なった印象を与えられる。
- ●三角形構図では、正三角形に近づくほど安定感が増す。

主役の形を利用して三角形構図をつくる



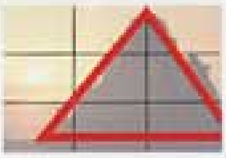
樹氷のもつ三角形の頂点をフレームぎりぎりに取り、上昇感を強調する

三角形の被写体を用いると、安定感や上昇感を強く表現できる。作例は、モミやツガの一大樹氷原となる冬の志賀高原。その樹氷群の中から、クリスマスツリーのようなツガにねらいを定めた。底辺が浅く、鋭く頂角の方向へ視線が引っ張られていく地点を探り、カメラ位置を決める。若干振り仰ぐアングルで、三角形の頂点をフレームぎりぎりに取り、上昇感を強調。
ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／30秒　＋１補正
RVP　PLフィルター使用　長野県・志賀高原

撮影のポイント

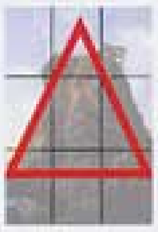
- **三角形の被写体は安定感と上昇感が強調できる。**
- **三角形の形状は撮影位置によりかなり違ってくる。カメラ位置の決定は慎重に。**
- **広角レンズ使用の場合は、広角特有の画像のゆがみをうまく活用する。**

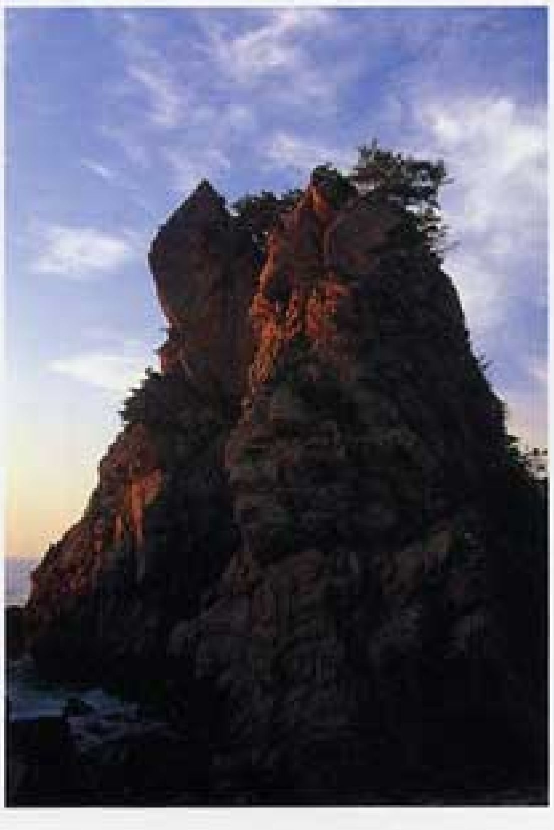
岩の丸みが画面に重量感を与える三角形構図



南伊豆の蓑掛岩に昇る朝日。岩の頂点の丸みがどっしりとした重量感を与え、安定した三角形のシルエットラインを構成している。朝日と呼応するように、画面の右側に岩を寄せバランスをとった。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED300ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／８秒　＋２／３補正　RVP　静岡県・南伊豆町蓑掛岩

超広角ズームで岩の高さを強調した三角形構図





新潟県北部の笹川流れには、奇岩怪石が集まっている。この大岩は、実際にはかなり離れているが迫力を増すため、ほどよく重なって見える位置にカメラを据えた。超広角ズームで可能なかぎり岩に近づき、仰ぎ見て岩の高さを強調している。
ニコンＦ４ｓ　タムロンＡＦ20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　２秒　マイナス１／３補正　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用　新潟県・山北町笹川流れ

山頂部を切りつめ、男体山の圧迫感を出す

戦場ヶ原から望む朝靄の男体山は、裾を緩やかに広げ、頂角が広いので、雄大ながらも優しげに見える。その情景を表すため、山頂部をフレーム枠いっぱいに切りつめ、山体の圧迫感を強めた。
ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　２秒　＋２／３補正　RVP　栃木県・奥日光戦場ヶ原より男体山

三角形を探し出して、画面をまとめる

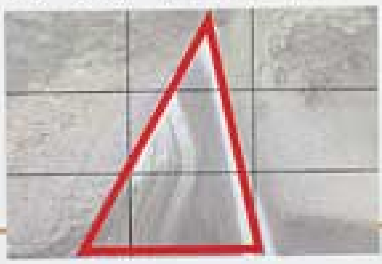
撮影のポイント

- ●被写体の中に含まれている潜在的な三角形を探し出す目を養う。
- ●カメラ位置やレンズワークのくふうで三角形の形状を自在に操れる。
- ●三角形を傾けると動きや方向性が生まれる。

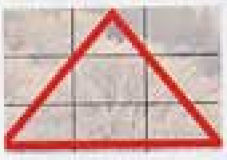
二筋に分かれた流れに、鋭角の三角形を見つける

風景の中に潜在する三角形を探し出す目を養うことは大切だ。大岩を伝って清水が滑るこの作例では、数え切れぬほどの年月を経た岩の表面は臨穴のように、流れに従って窪んでいる。そこを境に、流れは二筋に分かれ、岩を巻き込んで落下する。二筋に分かれた流れに沿って視線をたどると、三角形が見えてくるので、仰角に振り仰いだ。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　1秒　RVP　PLフィルター使用　大分県・挟間町由布川渓谷



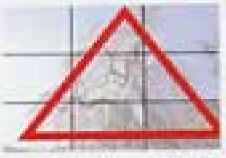
樹形が浮かぶ三角形構図を見つける



日没まぎわの吉野山。光線状態と咲き誇るヤマザクラの優美さ、いずれもいかしたい。扇状に枝が広がり、そこへ半逆光の光がソフトに差し、樹形が浮かび上がることを主眼に、ゆったりした三角形構図を取った。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　1／60秒　RVP　奈良県・吉野山上千本

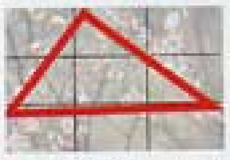
勢いある三角形を広角レンズのゆがみで表現



高さ20メートルほどのシダレザクラ。サクラのまわりを何度も回り、しだれぶりと上昇感に主眼を置いて、勢いのある三角形と見えるポイントを選ぶ。広角のレンズのゆがみをいかすため、思いっ切り振り仰いだ。

ニコンＦ４ｓ　タムロンAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　1／30秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　愛媛県・柳谷村

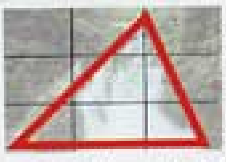
しなやかにのびた枝先にある三角形構図



このヤマザクラは主体部より枝先のほうが咲き具合がよい。そこで、しなやかにのびた枝先に注目し、左側の枝と中央上部から右下がりにのびた枝を結んで、やや傾いた三角形が構成される作画とした。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED300ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　1／30秒　RVP　静岡県・下田市

滝の落ち口を三角形の底辺に流麗感を出す



奥入瀬の雲井の滝。緩やかな階段を流れは滑るように落ちてくる。その滝の形状と流麗感を引き出すよう、滝の落ち口を三角形の底辺として、ほぼ正三角形の構図を取り、流れと岩のバランスを整えた。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・奥入瀬渓流

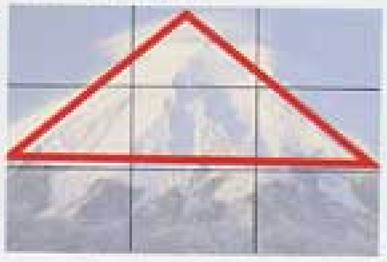
△三角形構図の代表格、富士山のまとめ方

左右中央部に富士山を配して安定感を出す

下の暗部で画面を引き締め、明暗差で上昇感も出す

富士山はいずれの方角から見てもほぼ正三角形の、まことに秀麗な山容をしている。だが、山梨側と静岡側では山頂部の傾き方が若干異なり、それぞれの特徴をいかした撮り方にチャレンジできる。この作例は富士山の優美さとしっかりした安定感を主眼に、山頂部を正面に据えた三角形構図。下部に配した暗部で画面を引き締めるとともに、その明暗差で上昇感も加わった。

ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED300ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　＋２／３補正　RVP
山梨県・忍野村より



撮影のポイント

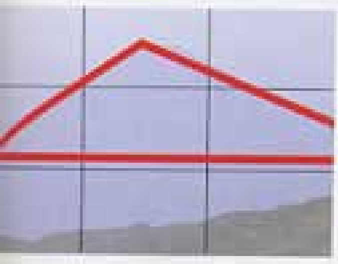
- 撮影地点の景観的特徴を引き出す作画を心がける。
- 山頂のライン位置は画面の8対2が基本。冠雪部でバランスをとる。
- 縦位置でそびえる高度感、横位置で優美な安定感を表すのが基本。

中央からほんの少しずらし、ナチュラルにまとめる

ごくわずかだが富士山頂の重点を左に置く

豆半島の達磨山から望んだ富士山。ごくわずかだが山頂の重
が左にあるのと、この作例ではカットしているが、宝永火口
ため裾野がわずかに右上がりなのが静岡側の特徴。ここでは、
士山の質感を高めるため、宝永火口が切れる所に山頂のセン
ーをもってきた。そして富士山の高度感が出るように、下部
トーンの落ちた尾根筋を入れた。

コンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16
秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・修善寺町達磨山より



櫛形林道から明け方の富士山を望む。この場面では、中空に漂う霞を活用して富士山の高さと清浄な空気感を求めた。そのために縦位置にした三角形構図とし、中空のスペースを広げ、下部のシルエットラインにより、さらに富士山の高低差を盛っている。

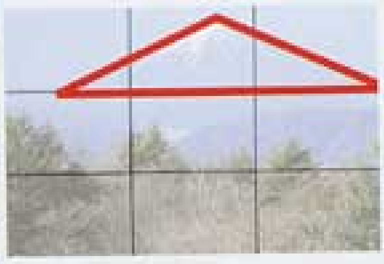
ニコンＦ４ｓ　Ai マイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　４秒　プラス２／３補正　ＲＶＰ　山梨県・櫛形町より

下部のシルエットで富士山の高さを表現

富士山を大胆に移動させ、イメージを凝縮させる

望遠で富士山を引き寄せて前景との組み合わせを考える

奥多摩の雁峠からの富士山。約50キロ離れているので、35ミリサイズで50ミリ標準レンズで撮ると、3ミリほどの大きさにしか再現されない。そのため、前景を含めた周囲との組み合わせとそのバランスが重要だ。作例では、前景のカラマツと中景の大菩薩峠を取り込むため、200ミリで引き寄せ、富士山を天部に配した。ニコンF4s AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D F16 1／8秒 ＋1／3補正 RVP PLフィルター使用 山梨県・奥多摩雁峠より

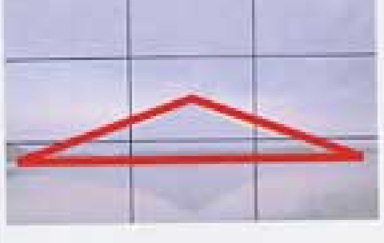


富士山の端正な三角形をくずして迫力を出す

12月下旬ごろ、山頂中央から昇る朝日が撮影できるので、人気のある山梨県増穂町から望んだ富士山。撮影日は少し時期がズレていたので、日の出は稜線のだいぶ左側へ寄っている。が、稜線にわき上がる雲が逆光で鮮やかなオレンジ色に輝き印象深かったので、富士山のシルエットを大きく画面右へ寄せ、端正な三角形をくずして迫力を求めた。ニコンF5 AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D F16 オート －2／3補正 RVP 山梨県・増穂町より

富士山の実景と湖面の倒影像で緊迫感を表す

明け方の田貫湖から望む富士山。空には高積雲が広がり、静まった湖面に影富士がくっきりと浮かぶ静寂郷。富士の実景と湖面の倒影像によってできた美しい菱形。それを包むかのような上空の高積雲。さらに、その雲の波を富士の山頂が押し上げて見える位置をはかりフレーミングを決定。影富士の山頂を下のフレーム枠いっぱいにして、緊迫感を表した構図。ニコンF3 Aiニッコール35ミリF2S F11 8秒 ＋1／2補正 RVP 静岡県・富士宮市田貫湖より



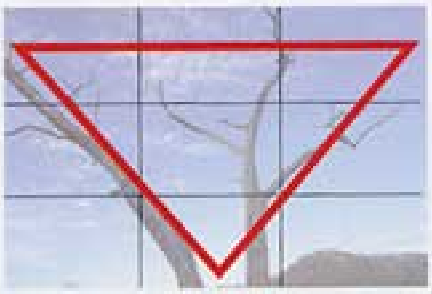
逆三角形構図

開放感を生み出す

朝を迎える木立の生命力を逆三角形構図で描写する

逆三角形構図は上昇する開放感や生命力を表現できる。作例は那須高原。明け方、湿原の木道を行くと、明るみはじめた朝空に蕭条と立ち枯れた木立がたたずんでいる。近づいて見上げると、主幹から分かれた幹が明るみを増していく空に向かい、大きく両手を広げ、朝を迎えているような生き生きとした生命力を感じた。そこで木立の真下に立ち、二手に枝分かれした幹がいちばん開いて見えるポジションで振り仰ぎ、朝顔形の逆三角形構図で生命力を表現する。なお、このカットでは、横にのびた中空の羊雲で画面の安定をはかっている。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　２秒　＋１／３補正　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用　栃木県・那須岳沼原湿原



絵画に見る逆三角形構図

ゲッセマネの祈り」
カス・クラーナハ（父）作
立西洋美術館蔵
後の晩餐後、オリーブ山で祈り捧げるキリストと天使と捕まえ来たユダたちを封じ込んだ逆三角形構図のもつ不安定感が、捕縛前のキリストの心境を表している。

上部に広がる生命力や躍動感を出せる構図

逆三角形構図は三角形構図をひっくり返した構図で、三角形構図とは逆に上部が大きく開き、下部が狭くなっていく構図形式である。三角形の頂角に向かって下向きの強い力が加わるので、頂角を支点にかろうじてバランスを保っているといった不安定感を見る人に与える。

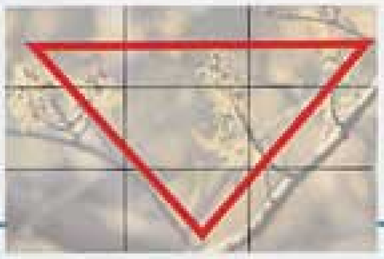
しかし、ヤジロベエやコマなど、上部が広くて接地する1点が細い逆三角形は、ピラミッド形のようなどっしりした安定感こそないものの、むしろバランスはとりやすく、軽快で開放的な作画を生むことができる。イチョウやケヤキなどの大木を見上げたときや、暗い谷底から上空を見上げた場合など、サアーッと視界が広がっていくような生き生きとした生命力や躍動感がわき起こってくる。つまり、逆三角形構図は、その一見ころがってしまいそうな不安定感を逆手に取って、安定したバランスを生むことのできる構図でもある。

▼ 逆三角形の枝ぶりに躍動感を求める

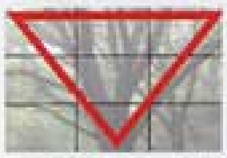
枝先にほころぶ花のラインを逆三角形に結ぶ

枝ぶりなどの中に逆三角形を見つけて、それぞれのもち味をいかしてみる。作例は、冬枯れの雑木林で、ひときわ明るい輝きを放つマンサク。幹からたがい違いに小枝を張り出し、クモの子のような花の形がかわいい。これをうまくとらえるため、小枝がV字形に張り出した位置を探し、枝先の花のラインが逆三角形を結ぶようにバランスをとって構図をまとめた。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　F2.8　1／250秒　＋1／2補正　RVP　東京都・調布市



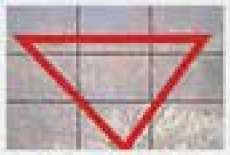
枝の方向性やアングルのくふうで迫力を出す



霧雨に煙るブナ林。ブナの木は幹が直線で、太い枝を大きく外側へ張り出すから自然に逆三角形構図となるが、迫力と力強さを出すための方向やアングルのくふうが重要である。

ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　F16　4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・天城山

バックとの配色を考慮し花の勢いを出す



作例の紅梅の若木は、被写体的にパンチ不足。だが、色合いに艶がありバックの配色もよい。花のボリュームと勢いが出るよう、枝先がラッパ形に広がって見える逆三角形で作画した。

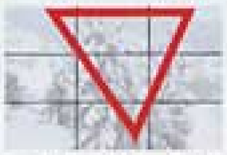
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　F2.8　1／125秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・湯河原町幕山

2本松の大岩の形状を逆三角形構図で強調

海に向かって兜のように２本の松を生やした大岩がある。一巡するとその形状はまったく姿を変えるが、背景の岬と対峙するような景観がおもしろく、その情景を逆三角形構図で強調した。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　F11　1／60秒　＋2／3補正　RVP　京都府・丹後町中浜

逆三角形の木に雪の重みと動きを加えた構図



吹雪の信濃川。遠景だけではかすんでしまうので、画面に遠近感と勢いを加えるため、近景に２本のスギを配した。V字形に広がって見えるカメラポジションで、雪の重みと動きが加わった。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　F4　1／30秒　＋2／3補正　RVP　新潟県・津南町信濃川

撮影のポイント

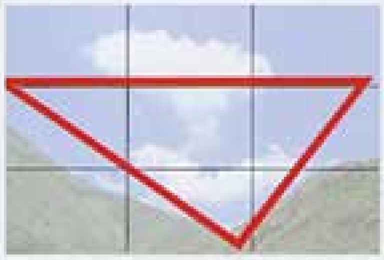
- ●樹木や岩など、自然物そのものがもつ逆三角形を見つけ出す。
- ●雲や背景などを利用して画面の中に逆三角形の安定要素を生み出す。
- ●不安定な構図に動きを感じさせるには、左右の形や背景に変化をつける。

地形をいかし、逆三角形にまとめる

稜線がゆったりと開けた地形を選び、のどかさを盛る

山間地の低地から見上げると逆三角形になる地形を見つけやすい。夏のある日、南アルプスへ続く清流沿いの林道をたどる。山にこだまする水浴びに興じる子どもたちの嬌声に誘われ川原へ下りると、稜線からまるで傘の開いたシイタケのような夏雲がわき出した。その情景をいかすため、川原を移動し、稜線が開けた逆三角形の地形を選び、のどかさを盛って構図を決めた。

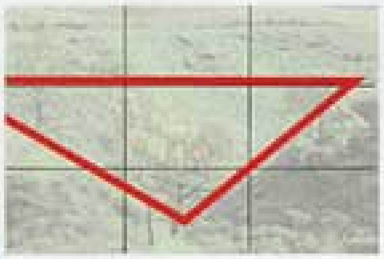
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　1/30秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・春野町



潅木をメインに窪地から丘陵上部へ広がっていく情景をねらう

風景を見下ろすと逆三角形構図が見つかる場合もある。作例は、下草の燃える阿蘇の外輪山。波のうねりのような丘陵の窪んだ斜面にある鮮やかな黄緑の２本の潅木をメインに、その両わきから落ち込む斜面に生える木立との組み合わせをねらう。２本の潅木を支点に、窪地から丘陵のラインがゆるやかな逆三角形を描き、上部へ開けていくように画面のバランスをはかった。

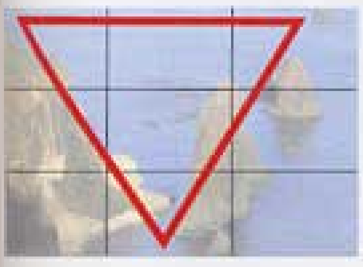
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／15秒　RVP　PLフィルター使用　熊本県・阿蘇町北外輪山



岩と断崖のボリュームバランスで迫力を出す

丹後半島の景勝地、屏風岩を高台から望む。海岸に沿って衝立のような形をした岩が点在する。岩のみを切り取ると平板で迫力が出ないので、断崖と組み合わせ、奥行きと視線が沖へ向かう運動を加え、屏風岩をポイントに迫力ある逆三角形構図とした。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　1／4秒　RVP　PLフィルター使用　京都府・丹後町乗原屏風岩



撮影のポイント

- 谷や河川の底から見上げると逆三角形の地形となる所が多い。
- 高台からのパノラマでは、見下ろし型の逆三角形構図をいかす。
- 断崖や斜面などボリュームのある自然物で逆三角形を構成する場合は、マスそのものの大小バランスをはかる。

風景の中に逆三角形を見つけ出す

赤みを増して広がる雲を逆三角形構図でとらえる

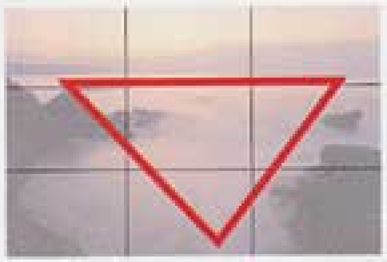
風景撮影には常にタイミングが必要だ。作例の場合、峠で、山の彼方に沈む夕日を撮り終え待機していると、落日の方向にあった雲が徐々に大きく姿を変え、上空を横切るようにゆっくりと寄せてきた。色合いが赤みを増し、翼を広げたような形になったので、カメラをあわてて取り出し、雲の動きに合わせ、斜めに少し傾いた逆三角形型で構図を決める。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリ F2.7〜3.5　Ｆ８　４秒　＋1／3補正　PLフィルター使用　RVP　福島県・北塩原村

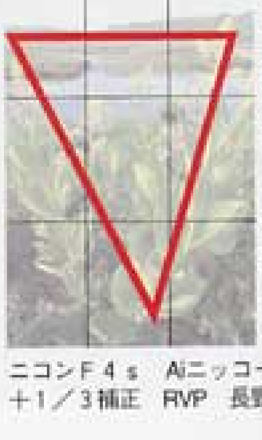
寄せる波が下方フレームからはみ出す瞬間に逆三角形が生まれる

吉浜海岸の朝焼け。左右に見える小岩によって、砂浜に打ち寄せる波が狭められ、そのつど、姿を変えて広がる様子に着目した。よく観察して、左右の岩の間隔と取り入れ方や下方のフレーム枠の位置を決める。そして、寄せる波が下方のフレームからはみ出す瞬間にシャッターを切った。寄せる波の頂点と水平線を結ぶと正逆三角形のラインとなる。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　８秒　＋1／3補正　RVP　神奈川県・湯河原吉浜海岸



コバイケイソウのかしいだ形を利用した逆三角形を背景の池面で安定させる



レンゲツツジが終わり、ニッコウキスゲが咲くまでの霧ヶ峰で目を楽しませてくれるのが、色合いこそ地味ながら、フォルムがおもしろいコバイケイソウだ。湿原の縁で、大ぶりな葉の垂みで少し斜めにかしいで見える形状を利用して、逆三角形構図を取った。この作例では、背景に取り入れた池面のスペースを画面に安定させる要素としたので、逆三角形がいきてきた。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　1／8秒　＋1／3補正　RVP　長野県・霧ヶ峰八島湿原

撮影のポイント

- ●雲、波、水など自在に変化する自然物で構成する場合は、タイミングをよくはかる。
- ●風景の中の自然物は、その間隔や安定要素の背景とのバランスに注意して構成する。
- ●逆三角形の左右の線の長短や傾きのバランスをくずすと画面に動きが出る。

基本の構図

9日目

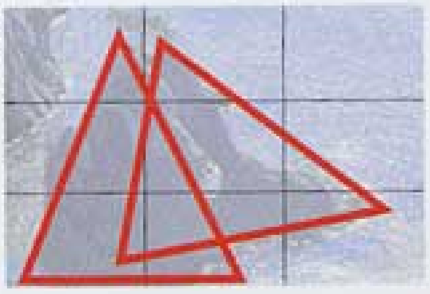
三角形の変形構図

にぎやかさを引き出す

三角形の岩の重なりに注意し、画面に方向性とリズムを出す

複数の三角形が生み出す構図を考えてみよう。作例は、初夏の陽光を受け、きらめく波間に小松を蓄えた大小さまざまな形をした岩が点在する、いかにも日本的な山陰の浦富海岸。形の異なる三角形の二つの岩の並びに注目した。実際には離れているが、全体として見ると、少しかしいだ一体の三角形と見える位置にカメラポジションを取った。そして、二つの岩の重なりに注意し、変形して重なった三角形の一方の辺が右方向へのびた形状を利用することで、画面に方向性と繰り返しのリズムを呼んだ。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／60秒＋１／２補正　RVP　鳥取県・岩美町浦富海岸



絵画に見る三角形の変形構図

るサテュロスとニンフのいる風景」
ロード・ロラン作
立西洋美術館蔵
羊神パンが、半人半獣サテュロスと
ンフの踊りを見る牧歌的な情景。空
抜けていくみずみずしい空気感と開
感が、木の枝や山並みのつくる三角
示されている。

複数の三角形を対応させたバラエティ豊かな画面構図

三角形の変形構図とは、各々の三角形がもつ基本的性質を組み合わせて、単独の三角形とは異なった動きやバランスを生み出す複数の三角形で成り立つ構図形式のことだ。自然の地形や被写体の形態を利用して、三角形どうしを重ねたり繰り返したり、大きさの違う三角形を対応させたりして、バラエティ豊かな画面に仕上げる構図法である。

例えば、大きさの違うピラミッド形の三角形を組み合わせると、二つの三角形の間に、三角形が単独の場合には見られなかった力関係が生まれ、新たな動きを生じる。上向きの三角形のしっかりした安定感に動きがプラスされるので、力強いダイナミックな画面となる。また、安定のよい上向きの三角形を横に寝かすと、寝かせた側への方向性が強くなる。その形を少し変え鋭角を鈍くすると一方への方向性が弱まり、別方向への動きも生じて、変化のある画面になる効果がある。

複数の三角形でリズミカルにまとめる

鈍重な印象の山容にシルエットで変化をつける

正面中央にどっしりとピラミッド形の山体を据え、そのボリュームで安定感を与えた。ただ、あまりに堂々として鈍重な印象になるので、右側に三角形のシルエットで繰り返しのイメージを添え、リズムを生んだ。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／８秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　岐阜県・上宝村双六谷

整然とした画面にリズム感と迫力を加える

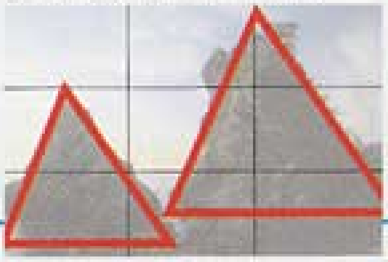
白馬三山のピラミッド形の山体が幾重にも重なる典型的な複合三角形構図。このままでは、整然と並びすぎる感じを受けたので、いちばん右側の白馬岳の右稜線を断ち切り、リズムに変化をもたせつつ迫力を加えた。

ニコンＦ３　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　１／15秒　－１／２補正　RVP　長野県・小蓮華岳より白馬三山

大小の岩を組み合わせリズムをつけた複合三角形構図

海岸に並んだ大小二つの岩の三角形を組み合わせた、典型的な複合三角形構図である。また、三角形ではあるが、二つの岩の形が異なっていることも、リズムに変化を与えおもしろい結果となった。小さい岩は頭頂がまろやかでずんぐりとコミカルで、大きい岩は三角形の頂点が外に張って怒っているようでたけだけしい。その形と岩のもつ表情の違いが、画面に動きとリズムのおもしろさを生んだ構図となった。

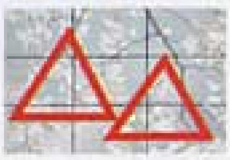
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　１／２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　新潟県・山北町笹川流れ



撮影のポイント

- 大小複数の三角形で画面構成する場合は、大小の大きさのバランスと配置に注意。
- 三角形が繰り返す構図では、メインとなる三角形がはっきりわかる構成とする。
- 三角形を重ねたり、ずらせたりして対比させる場合は、すっきりした背景を選ぶ。

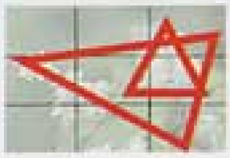
ヤマザクラのしっとりぬれた情感を出す



雨に打たれるヤマザクラ。そのしっとりぬれた情感とリズム感を描き出すため、対象となる枝をよく吟味した。そして、画面内に二つの三角形が繰り返して並んで見える位置を選びカメラアングルを決めた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8　１／30秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　岐阜県・池田町霞ヶ渓

エゴの花がつくる二つの三角形を重ねる



梅雨時に咲くエゴの花。枝先の形を見ると、全体に左下がりにかしいだ三角形をしているが、画面右のわずかに左へ傾いた枝の形で、縦方向へのびた二等辺三角形を構成し、二つの三角形を重ねリズムを生んでいる。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／60秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・箱根山

三角形と逆三角形を組み合わせる

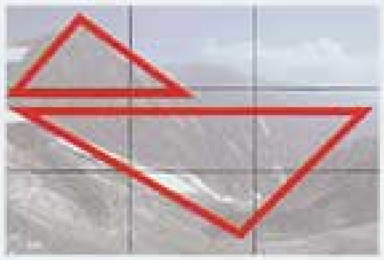
撮影のポイント

- ●現場の地形や風景により、三角形と逆三角形のどちらに重点を置くかをはかる。
- ●三角形を大きく扱うと、そのぶん、画面の安定感は増す。
- ●逆三角形の開き具合や左右方向への傾きの強弱により、開放感や動感を調整する。

二つの三角形が生んだ不思議な空間で調和のある安定感を保つ

上向きの三角形はがっちりした安定感をよく表し、その反対である逆三角形は不安定な感じを強く与える。この相反する二つの三角形をうまく組み合わせると、画面に不思議な空間が生まれ、調和のある安定感が保たれる。作例では、下部の逆三角形の谷と、上部の稜線の三角形を組み合わせ、バランスをはかって構図を取った。

ニコンＦ３　Aiニッコール28ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１／30秒　＋１／２補正　KR　長野県・白馬岳



画面に開放感と動きを与えて富士山までの距離感を出す構図

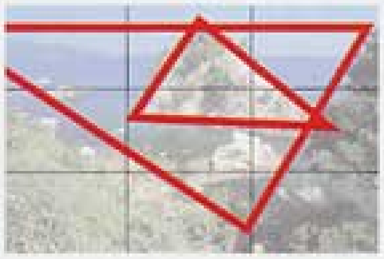
晩秋の櫛形林道からの富士山のながめ。まず、下部のカラマツの取り入れ方に気を配った。富士山までの距離感と、画面に開放感と動きのあるリズムを生むのが作画のねらい。そのために車で林道を走り、整然と並んだカラマツ林が緩やかに大きく開けてＶ字を描くポイントを探した。Ｖ字が右上がりにのびる方向へ富士山を重ね、二つの三角形構図の画面に動きを盛った。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／８秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・櫛形林道より富士山

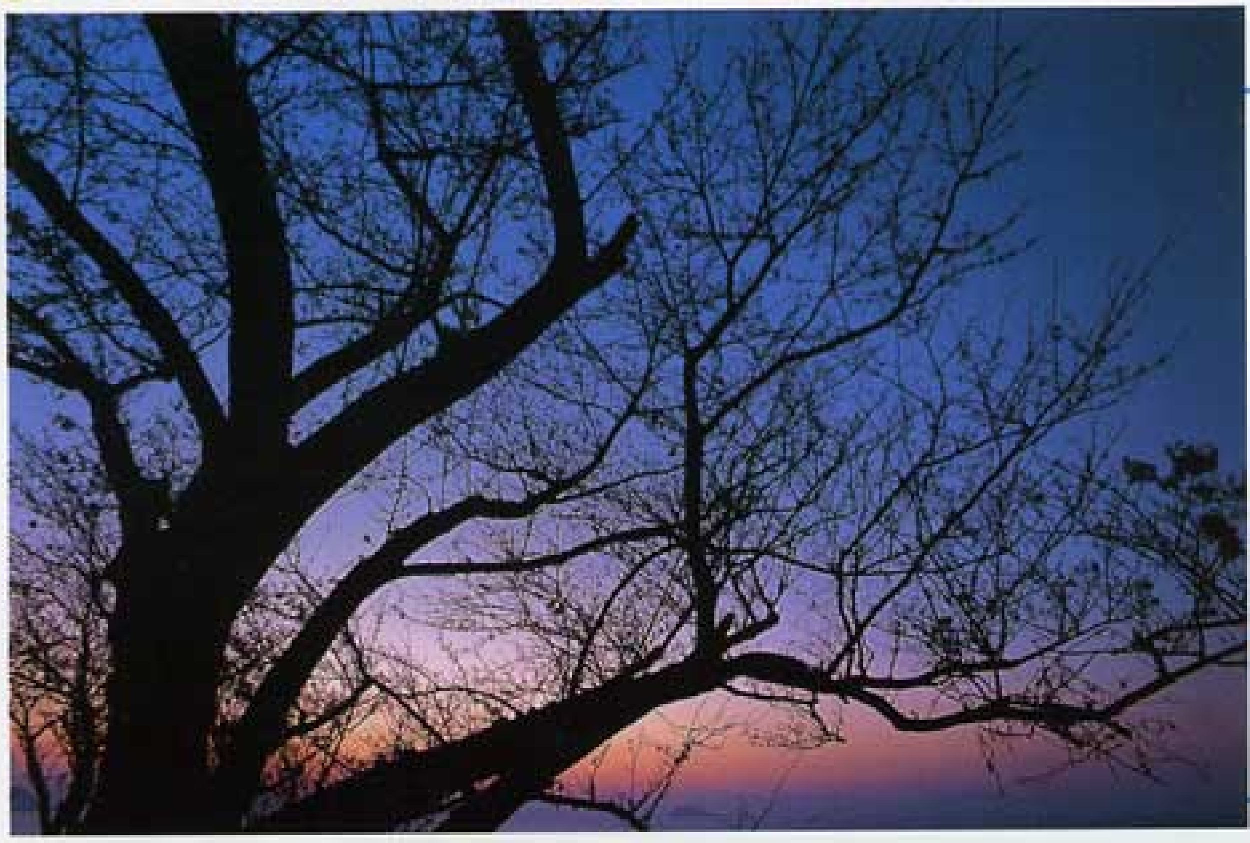
逆三角形の中に丸みのある三角形の岩を置いて開放感を出す

冬の荒々しさとはうって変わり、夏の日本海は青々として静穏そのもの。その風情を保ちつつ、夏の開放感と動きを盛るのを作画のねらいとした。そのため、画面中央上部にメイン対象である丸みのある三角形の岩を置いた。これが視線を集めるとともに安定を生む要である。これを包むように磯のラインと樹木を組み合わせ、左右の樹木がＶ字形に開くような構図をつくった。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　１／15秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　京都府・宮津市



傾いた三角形を探して、画面に変化をつける



超広角で振り仰ぎ、傾いた三角形構図で上昇感を盛る

変形した三角形の構図は、三角形の傾いた方向への動きや視線を集める効果がある。作例は、海に向かって大きく枝を張っているサクラの古木。空が明るむにつれ、水平線の彼方に赤みが差してきた。その情景に目を奪われ、張り出たシルエットのサクラが明け方の空へ誘うような方向性を表したかった。幹を画面左隅へ寄せ、超広角で振り仰ぎ、突き出た枝が右上方へ傾いた三角形の構図を取り、上昇感を盛った。

ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ８　30秒　＋１／３補正　RVP　山口県・東和町

枝のラインがつくる左上がりに傾いた三角形で夕焼けの山を囲む

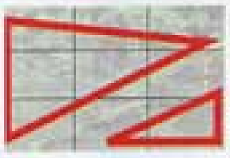
枝ぶりがつくる三角形の一辺がやや左上がりの傾きをもつ三角形構図である。作例では、左隅の幹を柱として、その上端から右下がりにのびてくる枝のラインで、夕焼けの山を囲む構図を取り、中空が抜けた印象をもたせている。樹木のシルエットラインで囲まれた空間にいったん視線を集め、そのうえで、中空に視線が抜けるはたらきがある。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／２秒　＋１／３補正　RVP　福島県・裏磐梯曽原

撮影のポイント

- 三角形の線のゆがみは、傾いた方向への動きや視線を集める効果がある。
- 三角形で囲まれた枠内を抜くか、ポイントをつくるかで印象が異なる。
- 三角形の一方の頂角が抜けていると、開放的な画面となる。

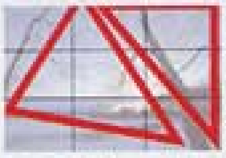
水底に横たわる倒木の線を利用して構成する



名水で知られる竜ヶ窪。澄んだ湧水池には多くの倒木が横たわり、鏡のように静かな水面に変化を与えている。その水底に横たわる倒木の線を利用して、水面の中央部に左上方へ傾きをもつ三角形のラインを結んで構成したことにより、視線の方向と奥行きが出た。

ニコンＦ３　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１／２秒　RVP　新潟県・津南町竜ヶ窪

中空を抜き、木立ののびやかさと開放感を表す



積雪量の多い裏磐梯も３月に入ると雪解けが進む。雪原に顔を見せた川面が暗さを増す夕空をかすかに映す。その、たそがれた夕闇を川面に取り込む思いで、夕空を囲むように、左右に冬木立を配して三角形をつくり、中空を抜いて木立ののびやかさと開放感を表した。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　16秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯曽原

中央1点構図

被写体の存在感を高める

サクラのボリューム感で画面の集中力を高める

中央１点構図は集中力と迫力を生む構図だ。中伊豆の山中を歩いているとき、濃緑のスギ林で、スギの緑を押しのけるように１本のサクラが咲き誇っていた。周囲のスギと比較してもわかるように、樹高も高くボリュームのあるサクラだ。もっと画角を広げ、人目を引くサクラをピンポイント的に扱ってもおもしろいが、このときは、サクラの華やかなピンクの色彩とスギの濃緑の配色対比に引かれたのと、サクラのボリュームで画面の集中力を高めるため、望遠レンズで中央１点構図で切り取った。

ニコンＦ３　AiニッコールED300ミリＦ４Ｓ　Ｆ11　１／２秒　－１／２補正　RVP　PLフィルター使用
静岡県・中伊豆町

絵画に見る中央1点構図

聖母の教育」
ジェーヌ・ドラクロワ作
立西洋美術館蔵
聖母マリアの母アンナがマリアに
約聖書の読み方を教えている場
面を描いた油彩画。二人に視線を
中させる中央１点構図の効果が
ている。

集中力と作画のねらいがはっきりわかる構図

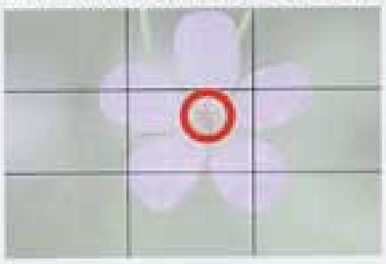
中央1点構図とは、画面中央にテーマとなる被写体をもってくる構図のこと。中央重点構図とか中央ポイント構図、それに、まずい構図の代表のようなイメージのある日の丸構図とも呼ばれる。じつはこの構図は、カメラのファインダー機構と密接なつながりがある。現在主流のAFカメラでは、ファインダー中心部でピント合わせを行う機種が多いため、初心者は無意識のうちに中央1点構図を取ることが多い。

中央1点構図での失敗例は、メイン対象を中央にもってきたため、画面の周辺に余分なものが写り、雑然とした画面になること。また、そのために周辺のバランスがくずれてしまうことだ。この点に気をつけ、メイン対象の形と色彩、中央部に占める大きさを検討し、周辺とのバランスをはかれば、集中力と迫力が加わった印象深い構図となる。本来、これほど作画のねらいがはっきりわかる構図はほかにはないのだ。

周囲をボカして、主役を印象づける

横位置構図

存在感を強調するため等倍マクロでクローズアップ



作例のフウロソウはわずか10センチほどの草丈で、花は２センチばかりの大きさ。群生する姿も情緒深いが、ここでは、存在感を強調するため等倍マクロで横位置でクローズアップした。朝露を宿す下方の花びらを中央部に配し、背景の草ボケの緑とのつり合いをもとに、花の大きさと配置を決めた。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／30秒　RVP　長野県・霧ヶ峰

花の形状をいかすため、上からのぞき込む

作例は春先、雑木林や山麓の草原で見かけるアズマイチゲ。この花も群生することが多いが、丈が低く花の径も３～４センチと小ぶりなうえ、花びらが細かく深く裂けているので、バランスを保つのが難しい。葉は３枚が輪生し、クローズアップするとその切れ込みの線が強く出るので、目立たぬよう横位置で上からのぞき込んで線をやわらげた。そして、花びらが斜め左へ向かって開くように構図を決め、動感を盛った。

ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／60秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山形県・朝日村

縦位置構図

花姿と葉の形から縦位置構図に

寒冷地では雪解けとともに咲く花の代表格といえるカタクリが、ここでの作例。15センチほどの丈で茎が細く長く、姿は愛らしいが、下に向けて花を咲かせるから撮りづらい花だ。ここでは、うつむいた花姿とササの葉状の細長い葉の形から縦位置の中央１点構図にした。葉の緑に花を重ねて色彩を引き立て、中央からつり下がった雄しべで方向性を示している。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／30秒　RVP　長野県・白馬村親海湿原

絞りを浅くして花を水面から浮き立たせる

作例は春、高原の湿原を彩るミツガシワ。名の由来は下部に写っている葉の形がカシワの葉に似ているからという。その上向きに広がった葉とひょろっとした花茎の姿から、縦構図が似合う。そして、曇天の空を映した灰色の水面のスペースを目立たなくするように、葉と花茎の間隔を決め、絞りを浅くして花を水面から浮き立たせた。

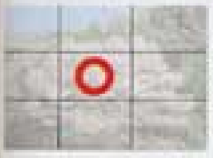
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／30秒　＋１／３補正　RVP　長野県・白馬村親海湿原

撮影のポイント

- ●花と葉の形状、茎の長さなどを考慮して縦・横位置の構図を決める。
- ●画面に占める花の大きさと配置は、背景とのバランスをよく考えて決める。
- ●背景は被写体の置かれている環境を表すので、それを考慮してボケを調整する。

画面に大きく主要被写体を配置する

サクラを中央に配置し、空を少なくする



スギ林を背景にヤマザクラが満開である。空はカットしたかったが、これ以上の引きが取れないので、空のスペースを少なく画面をまとめるため、扇形に開くヤマザクラを中央に大きく配置し、集中力を高めた。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ11　1／15秒　RVP PLフィルター使用　高知県・西土佐村

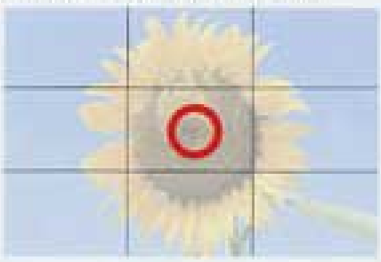
望遠で真っ赤なナナカマドの実を引き寄せる

葉の落ちた枝先に、朝日を受けた真っ赤なナナカマドの実が輝いている。チカチカと火花を散らす線香花火のような可憐さを表すのと、余分なものを画面から除き背景から浮き立たせるため、望遠で引き寄せた。
ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／500秒　＋１／２補正　RVP 長野県・上高地

強烈な集中力と四方への広がりをイメージさせた構図

真夏の太陽をイメージさせるヒマワリは日の丸構図そのもの。その陽性で存在感にあふれた力強さをいかすように、大輪の花弁を上下フレーム枠いっぱいに取り込んだ。ここまでメイン被写体をど真中で画面いっぱいに写せば、強烈な集中力は感じられるが、完全に視線は固定され身動きできない。それを避けるため、単純な空抜きの背景にし、炎の円環のような花びらの形を利用して四方への広がりをイメージさせた。

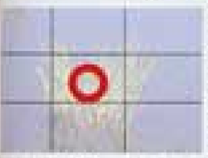
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ5.6　１／250秒　＋１補正　RVP PLフィルター使用　山梨県・明野村



撮影のポイント

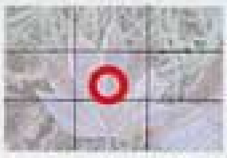
- **主要被写体を大きく中央に配置するときは、形、色のはっきりしたものを選ぶ。**
- **画面への集中とともに、外への広がり、方向性が出る配置を取る。**
- **背景をよく吟味して、なるべく単純単色となるようにくふうする。**

被写体の大きさとカメラの高さを吟味する



水辺のヤチボウズが早朝の斜光を受け、かぼそい葉を輝かせている。背景の水面から浮き立たせ、背景との明暗差で分離をよくして集中力を高める。そのためヤチボウズの大きさとカメラの高さを吟味して構成した。
ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／250秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰八島湿原

落ち葉を真上からのぞき、中央に大きく据える

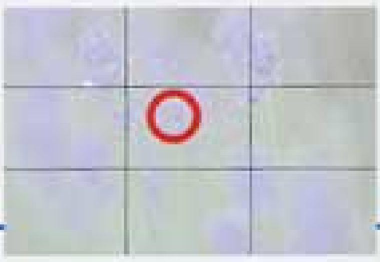


草むらの一隅に霜をまとった散りモミジを目にした。どのようにまとめるかと見ている間に、ほんのりと明るみが差す。それをアクセントにするため、落ち葉をストレートに真上からのぞき、中央に大きく据えた。
ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／30秒　＋１／３補正　RVP　岐阜県・久々野町船山

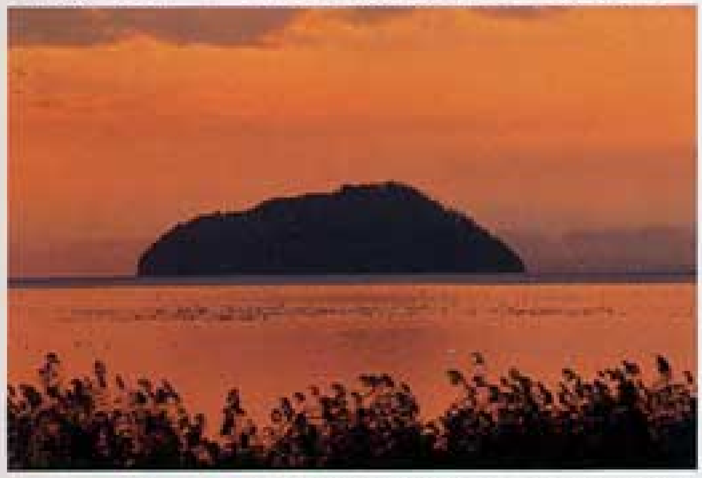
中央の被写体をアクセントとして活用する

クモの巣がつくった空間のもつ強い緊迫感を描く

主役は小さくても、周囲よりはっきり目立たせなければならない。霧雨のラベンダー畑で、滴をためたクモの巣と花が目に止まる。小さいクモの巣がつくった空間に強い緊迫感があり、小さく張ったクモの巣が２本の花茎を介して、画面にバランスと強い集中力を発している。その緊張感あるクモの巣を中心に据え、中央１点構図を決めた。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／15秒　＋１／３補正　RVP 群馬県・沼田市玉原

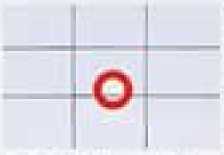


夕焼けのスペースから島の大きさを決める



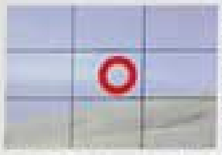
日没後の残照で夕空と琵琶湖面が朱に染まる。沖に浮かぶ竹生島をメインに、遠近感を表す副素材にヨシを前景に取り入れる。夕焼けのスペースに与える竹生島のインパクトをもとに、その大きさと位置を決めた。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　＋２／３補正　滋賀県・湖北町琵琶湖尾上浜

移動する雲の動感を盛り、月を中央に置く



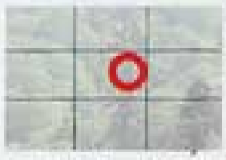
雲の切れ目に満月が顔をのぞかせた。雲の動きとその方向性を感じさせるように、画面左下方に雲の切れ間を配し、雲が右へ移動する動感を盛り、月をほぼ中央に置いて中央１点構図のもち味の集中力を高めた。
ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED300ミリＦ2.8D　Ｆ11　８秒　＋２／３補正　RVP 長野県・霧ヶ峰

前景の広がりとちょうどよい島の大きさ



桃岩歩道から沖に浮かぶ利尻島を望む。画面に占めるスペースは小さいが、これがメイン被写体であり、視線を集める中心とはっきりわかる。前景の草原の広がりを出すにはちょうどよい島の大きさと配置である。
ニコンＦ５　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・礼文町桃岩歩道より利尻島

色と線の強さで中央のツガの存在感を出す



新緑の鍋平。日の差す背景のダケカンバと、すでに日陰になったメイン被写体のツガの織り成す、色彩と光の階調差を表すのがねらい。そのため、ツガを中央近くに配し、色の深みと線の強さで視線を集めた。
ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ11　オート　RVP　PLフィルター使用　山形県・米沢市鍋平

撮影のポイント

- 画面に集中力を生むのは、被写体の大小ではない。
- ポイントとして小さくても、はっきり目立たせるくふうをする。
- アクセントは中央でなくてよい。全体のバランスで位置を決める。

基本の構図 11日目

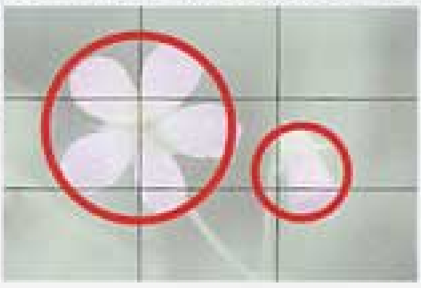
対比・対称構図

わき役が主役を引き立たせる

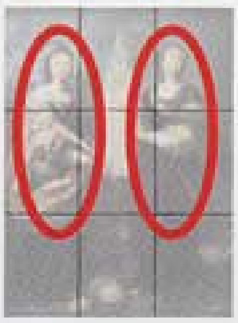
ピンクの主役を引き立てるように二つの花を対比させる

対比構図では、対比する被写体の大きさや色のバランスがポイントになる。作例は、しとしとと雨の降り続く高原の片隅で、手招きするようにたたずんでいる滴をいっぱい宿したフウロソウ。茎から分かれ、まだ開き切らぬ花が、わきで滴の重みに堪えかねるように首を垂れている。その可憐な二つのフウロソウのけなげさを損なわずに、この場の情景を盛り上げるように、二つの花を対比的に配置した。主役は左側の花。右手の閉じている花のピンクが主役を引き立てるとともに、背景の緑の中で、よい色彩のアクセントになっている。

ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／15秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰



絵画に見る対称構図



『聖フスタと聖ルフィーナ』
バルトロメ・エステバン・ムリーリョ作
国立西洋美術館蔵
殉教した二人の姉妹が支えるのは、二人が籠城して守った大地震で倒壊しかけた塔の雛形。対称構図のもつ静寂感がいきた聖堂の祭壇画のための油彩スケッチである。

画面に緊張感を生む対比構図と静寂を表す対称構図

対比構図とは被写体どうしの形や色、大きさの異なるものなどを対立するように配置、あるいは並べて主役を引き立て、画面に緊張感を生む構図法である。風景撮影ではいろいろなパターンがあり、応用範囲が広くさまざまに活用できる。代表例は、花の撮影などでよく使う、大きさの違う被写体を対比させ主役を引き立てる大小対比構図。被写体そのものの明暗差や、光線をいかした明暗対比や、海と岬、山と湖など被写体の形の違いを対比させるなど、さまざまな画面構成が取れる。

いっぽう、対称構図は水平線や垂直線を軸に、同じ形が相対する状態になる構図で、一般にシンメトリーと呼び、左右または上下が対称となる構図のことだ。高原の湖に映るシラカバ林を水面を境に2等分割した場合などがその代表例で、シンプルで秩序の整った美しさを象徴するが、あまりにも整いすぎると、単調な作画となる。落ち着いた静寂を表すには最適な構図である。

対になった被写体を利用する対比構図

花茎の高低差を利用して、高い花を主役に左右の花を呼応させる

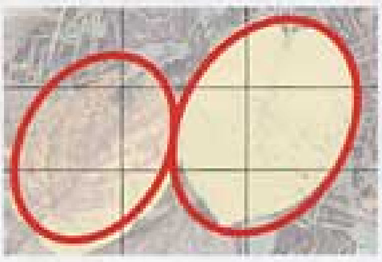
対比構図では各被写体の大きさだけでなく、向く方向も大切だ。作例は晩夏の高原を彩るミソハギの花。花色はあでやかな赤紫だが、去りゆく夏を思うためか、どこか寂しげな色だ。花茎にほどよい高低差がある２本を見つけ、左の丈の高い花を主役に、左右の花が呼応するよう、花の向きと間隔を調整した。さらにタイミングよくアキアカネが止まったので、より高さのバランスがとれた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／125秒　RVP　PLフィルター使用　福島県・磐梯高原

対角線上に並べ、葉の黄色で主役を引き立てる

秋の五色沼の遊歩道で、寄り添った落ち葉に引かれた。葉の向きが異なり、たがいに呼び合うようにも見える。そこで、傷みのない鮮やかな黄色の葉を主役に、対角線上に並ぶ位置にカメラポジションを取った。葉の大きさはほぼ同じだが、黄色のもつ色の進出性で、主役が引き立った。

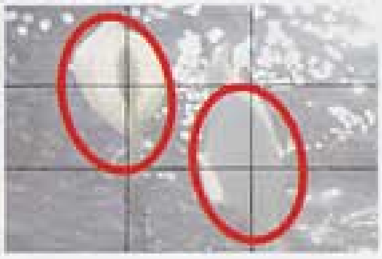
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ４　１／30秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯五色沼



背景をボカし対角線上で主役を引き立てる

湿原でミズバショウの群落の中から、光が反射する水面を背景にした、一対のミズバショウが目に止まった。ミズバショウがたがいに呼び合っているように見えるカメラポジションを選ぶ。そして、対のバランスもとれ、間隔もほどよい空間を生むように、対角線に沿った対比構図とした。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／500秒　＋１補正　RVP　秋田県・八幡平



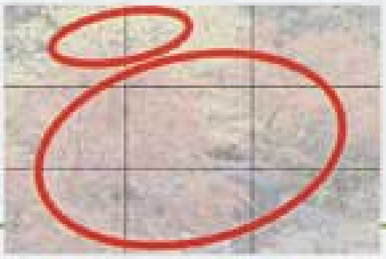
撮影のポイント

- 対比構図は対角線に沿う形で構成するとバランスよくまとめられる。
- 主役とわき役の大きさの対比以外にも、色やその方向にも気を配る。
- わき役のほうが大きい場合は、絞り値やボケで主役を引き立てる。

光や色の違いによる対比を見つける

ナナカマドの紅とダケカンバの黄が鮮やかに対比する

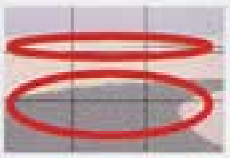
色合いの違いをはっきり出すのが対比構図の基本だ。涸沢で、ナナカマドの紅とダケカンバの黄が鮮やかな色彩のコントラストをなし、原色で強烈なインパクトを与えていた。色合い的にナナカマドをメインに据えたいが、バックのダケカンバが大きくスペースを取ってしまう。そこで、紅が目立つように少し離れた位置から被せて黄のボリュームを減じさせた。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／4秒　RVP　長野県・涸沢



撮影のポイント

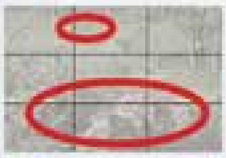
- **色合いの違いを対比させる場合は、なるべく反対色で構成する。**
- **光の違いや明暗差の対比は中途半端にせず、違いをはっきり出す。**
- **光や色合いの対比では、手前が暗く背景が明るくなる構成が基本。**

海面の赤と砂地の黒の明暗が織り成す対比構図



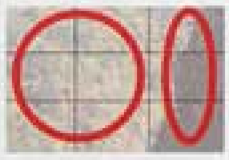
明け方の島原湾での光景。手前から右へ弓なりにのびたシルエットの砂州と、画面左上部にのぞく海中の砂地を対比させた。朝焼けに染まった海面の赤と砂地の黒の色彩の明暗が織り成した対比構図でありインパクトを放っている。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール55ミリF2.8S　F11　16秒　RVP　長崎県・布津町島原湾

わき役のツツジが視線を集め、主役を引き立てる



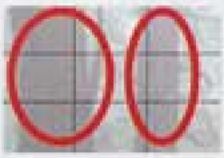
この対比構図では、湿地に咲くウツギの花株をメインに据え、画面上端にのぞく朱色のレンゲツツジをアクセントにした。わき役のツツジは小さいながらピンスポット的に視線を集め、画面に遠近感を生み主役を引き立てている。
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F2.8　1／8秒　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯桧原野

日陰の断崖と彩り鮮やかな山肌を対比する



秋の深まりを見せる谷間の林道を進むと、道の曲がりっぱなで、日陰となった断崖と背後の彩り鮮やかな山肌がみごとなコントラストを見せている。暗闇を境にパッと視界が開ける、その色彩と光の対比を素直に切り取った。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／8秒　−1／3補正　RVP　PLフィルター使用　岐阜県・上宝村双六谷

スギと明るい背景によるマスの明暗コントラスト



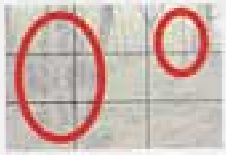
山霧に煙るスギを左右に配置した対比構図。この場合は、画面のスギの大きさや重量的スペースを単に対比させるのではなく、霧でかすみ、明るい背景との組み合わせで生じたスギの塊（マス）の明暗コントラストの対比でもある。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F11　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　茨城県・筑波山

風景の中に対比を探す

岩と断崖のシルエットと海面で遠近感を出す

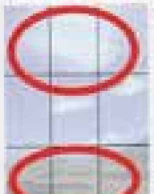
風景の中に対を探すには日ごろのイメージが大切だ。作例は、海面と岩の境界がやっと判別できるほどの薄明の磯の光景。幻想的に見えるマツが生える岩のシルエットをメインに、沖に向かうほどほのかな明るみを増す海面の広がりと遠近感、それに岩のボリューム感と存在感を出すためのわき役として、左上隅に断崖を対比的に配置した。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　90秒　RVP　神奈川県・真鶴町岩海岸

ブナ林の中間部を空け、開放性を描く



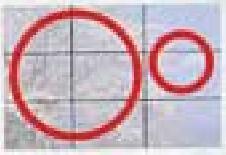
初夏の大台ヶ原山で、ブナの二次林と思える若々しい林に出会う。林床を含め、明るくすがすがしい印象を受けた。そのブナ林の開放性を表すように中間部を空け、画面の左右に対比するように配置した構図。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　1／2秒＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　奈良県・大台ヶ原日出ヶ岳

広角で池塘と巻雲を天地で呼応させる



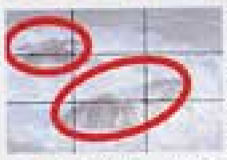
数多くの池塘が点在する弥陀ヶ原の湿原の木道を行くと、形のおもしろい巻雲が足早に空を横切っていく。急いで広角に変え、池塘と編隊を組んでいるような巻雲が天と地で呼応するように対比させた。
ニコンF3　Ai－ニッコール24ミリF2S　F11　1／15秒　プラス1／2補正　KR　PLフィルター使用　富山県・立山

サクラのボリュームを強調し富士山と対比



沼津湾越しの富士山を伊豆半島の大瀬崎付近から望む。ちょうどよい所に満開のオオシマザクラを見つけたので、遠景の富士山をアクセントにして対比させた。オオシマザクラのボリュームを強調した構図だ。
ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED180ミリF2.8S　F16　1／15秒　＋1補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・沼津市大瀬崎

対比で岩の組み合わせのおもしろさを出す



台風の影響で波の高い土佐湾。沖合いに顔をのぞかせた岩の組み合わせをおもしろく感じた。手前の半月形に湾曲した岩をメインにして、左後ろの小岩とが、白く泡立つ潮目にもて遊ばれるかのように対比させた。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／2秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・土佐清水市鵜ノ岬

撮影のポイント

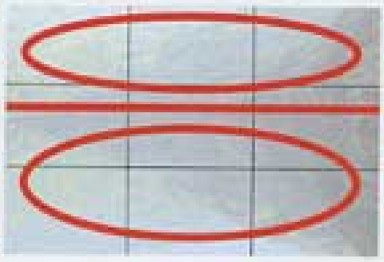
- ●風景の中に潜在する対を探すには、日ごろのイメージが大切。
- ●水や雲など変幻する対象も対を成すものとして積極的にいかす。
- ●対比させることで、風景に奥行きや広がりを生むくふうをする。

水面への映り込みを利用する対称構図

画面に変化とリズムを生むため、木立の影をいかす

風景撮影において、シンプル、かつ、ポピュラーな対称形構図の代表が水面への映り込みを利用するもの。地形的条件から、水面を境に２分した上下が対称になる。この作例では、整然とした画面に変化とリズムを生むために、早朝の斜光線によってできた三角錐形の木立の影をいかした。これにより、矢印で示したような映り込みがリズムを生んだ。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／４秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・八甲田蔦沼



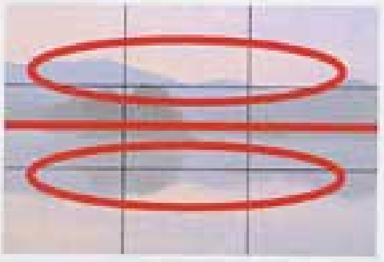
撮影のポイント

- ●水面を境に、上下を均等に2分割して構成するのが基本。
- ●水面部のほうが幾分暗く写るようにすると、視線が上に抜け軽快感を与える。
- ●樹木や島影など形に変化のあるものを有効的に取り入れ、単調になるのを防ぐ。

画面の比重を下部にかけて2等分割し、マイナス補正して赤の色みを強調

梅雨の最中、期待せずにまだ暗い湖畔に立った。山の端は暗い雲におおわれている。ところが、雲の薄い部分に赤みが差しはじめると、２分ほどの間に一気に空が焼けた。空よりトーンの沈んだ湖面に赤みがのっているので、ごくわずか画面の比重を下部にかけて２等分割し、赤の色みが強くなるようにマイナス補正した。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　８秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯小野川湖



綿雲の湖面への映り込みと青空を2等分割する

湖畔の樹林を越すように、綿雲の塊がゆったりとやってきた。時折、小波が立つから、雲が思いどおりの位置へ達するまでに波紋が立たないかと、気が気でない。二塊の綿雲の倒影像と、抜けのよい青空の占める割合がとてもよいバランスを保っていたので、迷うことなく画面を２等分割して対称構図とした。

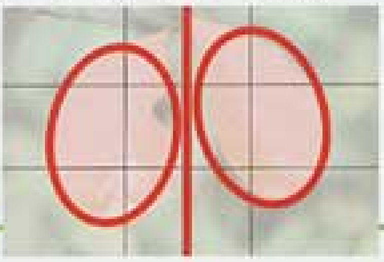
ニコンＦ３　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１／30秒　＋１／２補正　PLフィルター使用　KR　秋田県・八幡平大沼

被写体を左右もしくは天地対称でとらえる

マクロレンズで、双葉のかわいらしさを出す

対称構図では被写体の形から受けたイメージを引き出すくふうをしたい。作例は初秋の高原。散策路の片隅の潅木に近づくと、小動物がチョロッと舌を出したように赤々と染まった1対の双葉に目をひかれた。そのいたずらっぽいかわいらしさが出るように、マクロレンズを用い、枝先からの微妙な垂れ下がり感を引き出し、対称構図にした。

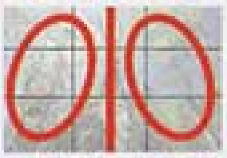
ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／30秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・蓼科高原



撮影のポイント

- ●まったくの左右対称より、少しくずしたほうがリズムが生まれる。
- ●整然と整った美しさをいかすには、シンプルな形のものを選ぶ。
- ●対称の形にこだわらず、その形から受けたイメージを引き出す。

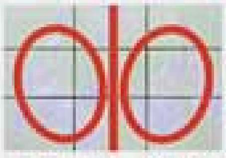
対称的に左右に分かれ、空に向かう木立



芽吹きはじめた尾根路で足を止め空を見上げて撮った作例。１本のブナが空に向かってのび､幹が二股に分かれた所を境にして、森の木立が左右に分かれ、対称的に空に向かっていくような感じに構図を決めた。

ニコンＦ５　AiAFズームニッコール18〜35ミリＦ3.5〜4.5　Ｆ16　オート　＋1／３補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・箱根山

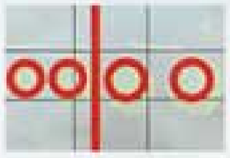
中央の花を支点に対称構図でひそやかさを出す



梅雨の高原を彩るアヤメの群れの中で、高低の差が音律を保つように並んだ花株。左右がわずかに内側へかしいだその姿も情趣が深い。そのひそやかさを出すよう、中央の花を支点に対称構図を取った。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　群馬県・嬬恋村湯の丸高原

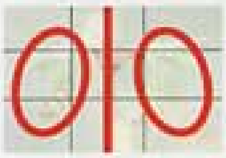
新葉の心地よいリズム感を出す



初夏の渓流に沿って歩道を進むと、小沢を渡るようにオオカメノキが枝をのばしている。みずみずしい緑と、丸みのあるハート形の新葉が心地よいリズムを刻む。その軽やか感を対称構図で構成した。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ2.8　１／15秒　RVP　PLフィルター使用　青森県・奥入瀬渓流

マクロでミネカエデの芽吹きをとらえる



五月雨の続く森を歩けば、さまざまな形の木々の芽吹く姿を目にする。これはミネカエデの芽吹く姿かな？　滴をため、小枝の先で両手を開いた対称形の格好が方向指示器のようで、思わず足が止まる。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF90ミリＦ2.8マクロ　Ｆ2.8　１／８秒　＋1／３補正　RVP　新潟県・糸魚川市高浪池

基本の構図

12日目

遠近法構図

距離感や奥行き感を出す

木漏れ日の差す渓谷の輝きと開放感を遠近法で描く

ものやわらかな木漏れ日の差す初夏の渓谷をX形の遠近法でとらえた。標高の高い山中にこの渓谷はあるので、渓流の上に見える木々はまだ芽吹いて間もない。葉は黄緑に輝き流れは軽やかで、谷全体が明るく開放感に満ちている。このわずかな期間にのみ見られる渓谷の輝きに注目した。視線は流れをさかのぼり、明るく輝いた木立と渓流の交点である中央の岩に集まる。その岩を中心点として集められた視線は、岩を支点に再びX形の線を結び、明るい木立の上方と流れに従って広がり、画面に遠近感を生み出している。

ニコンF４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　１／４秒＋２／３補正　RVP　山梨県・丹波山村泉水谷

絵画に見る遠近法構図

「雪のアルジャントゥイユ」
クロード・モネ作
国立西洋美術館蔵
松方コレクション
まだ整備されていない大通りの雪晴れの明るい朝の風景。遠近法構図の視線の集まる奥の中心点近くには、鉄道の駅舎が見える。

風景を構成する自然的形態に応じた写真的遠近表現

写真の遠近法構図は絵画の基本技法のひとつである透視図法に倣い、それを実際の風景にあてはめ構成するものだ。絵画では例えば、立ち並ぶビル群や街路樹など、立体的で奥行きのある対象を描く場合、近くにあるものは大きく、遠ざかるほど小さく描く。そして、その延長線の最後は一つの点として結ばれる。この特徴を透視図法で体系化したのが遠近法で、距離感や立体の奥行き感を表す基本となる表現法だ。

写真では、使用レンズの性格により絵画的な遠近感とは異なる面もある。しかし、風景写真では、山や川や樹木など、実際の風景を構成する素材の自然的形態に応じて、さまざまなパターンの写真的遠近感表現を行う。カラマツの続く並木を正面からX形にとらえて直線的で緊張感のある奥行きを出す。あるいは、ジグザグに交差する畑の畝や丘の斜面で視線を導くように画面に遠近感を生む方法である。

視点を変えて、遠近感をとらえてみる

川霧に煙る渓谷の山深い幽玄な雰囲気を表現する

現場を目にしたとき、山水の掛け軸の前に立ったような印象を受けた。渓谷の斜面に立ち上る濃密な川霧が幽邃な雰囲気を漂わせ、瀬音を響かせる。そのような、山深い幽玄な様子を表すため横位置とし、渓流が手前へ向かって来るようなX形構図で、川幅を広げた流れがゆったりと下降する様子を表現した。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　愛媛県・美川村面河川

縦位置の場合

横位置の場合

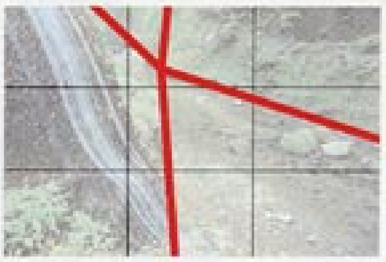
渓谷の荒々しさと奥行き感を重視する

左の写真と同じ撮影位置から撮った縦カットでは、霧雨に煙る渓谷の荒々しさや流れの急な様子、それに加わる谷の奥行きの深さを表すことを重視した。視線の集まるポイントを画面の右上端部に置き、そこから、急流に沿って斜めX形に視線が下降するように広がる奥行きを強調した。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ16　１秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　愛媛県・美川村面河川

渓谷を見下ろす感じで遠近感が強まる

右のカットの中央部に見える白滝を、テラス状になった崖の出っ張りにへばりついて撮影した。作画のねらいは断崖を伝う白滝を主題として画面に流麗感のある動きを加えるのと、視点（カメラポジションを含む）の違いによる遠近感の異なりを表すこと。カメラ位置が高くなったことで、渓谷を見下ろす感じでの遠近感が強まり、視線の向かう方向性がより強調された。



ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　大分県・挟間町由布川渓谷

時が止まったような渓谷の静寂感を伝える

水は清いが、ほとんど動きが止まり、瀞状を呈した由布川渓谷の谷底を行く。丸くふっくらした断崖を伝って落ちる糸状の白滝が、時が止まったような渓谷にいっそうの静けさを与えている。その静寂感を伝えようと、カメラ位置をやや低く構え、画面右奥の断崖と水面とが接する地点に、視線を集めるX形構図の利点をいかし、遠近感と谷底の静けさを引き出す。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　１秒　RVP　PLフィルター使用　大分県・挟間町由布川渓谷

撮影のポイント

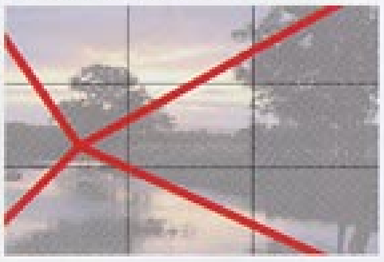
- ●縦位置・横位置の違いで異なる遠近感の相違をうまく作画にいかす。
- ●遠近感はカメラポジションとアングルでも与える印象が異なる。
- ●X形遠近法では、視線を集めるポイントをつくることが大切。

効果的なX形構図のための中心点を画面内で探す

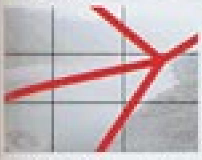
左側の樹木を中心に川面の広がりで距離感を出す

遠近法の中心点をどこに置くかで川の表情は変わってくる。作例はサロベツ川の明け方。朝焼けの空とそれを映した川面を主題にしたが、川面のほうに比重がかかっている。原野を流れる川のため、高いカメラアングルが取れず、平板となるのを避けて川を左に寄せ、川面の広がりで距離感を稼いだ。そして、川面が迫った所の樹木に視線が集まるように構成。画面右側の木立は距離感を表すわき役の効果を果たした。

ニコンＦ５　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　オート　＋１／３補正　RVP　北海道・豊富町サロベツ川



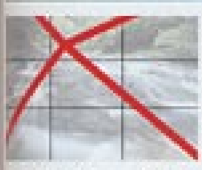
右奥に視線を集めて川の広がりを出す



川の上流から下流に向かって撮影。ゆったり流れる川の広がりと奥行きを表すのがねらいなので、横位置を取り画面を斜めに横切るようなＸ形構図とした。視線は流れに乗って右奥の川面に集まる。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　１／15秒　＋2／３補正　RVP　高知県・仁淀村仁淀川

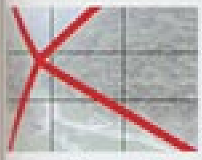
画面上部に中心点を置き、川の流動感を出す



川幅を広げ平滑状に滑る菊池渓谷の川面。もっとも流動感を感じるポイントを求め川中にカメラ位置を決める。流れが左右に大きく展開するようなＸ形構図になり、左下の白濁した水面が奥行き感を増している。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　８秒　＋2／３補正　RVP　PLフィルター使用　熊本県・菊池渓谷

白いラインを引き出すため、流れを左へ寄せる



山峡の急流が緩やかに右へカーブする。その傾き具合と霧の漂う両岸のたたずまいに趣がある。川面の滑らかに白濁したラインの美しさを引き出し、奥行き感を盛るため、流れをやや左へ寄せた画面とする。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　２秒　＋2／３補正　RVP　PLフィルター使用　愛媛県・美川村面河川

撮影のポイント

- **川の流れの方向や地形の特徴に合わせ、縦位置・横位置で撮り分ける。**
- **視線の集中点は遠近感と作画意図に影響を与えるので、その効果をよくはかる。**
- **遠近感は、カメラアングルとその方向によって強調される。**

流れが狭まった所の形をいかして奥行きを出す

川幅は狭く、両岸が迫るようなU字溝状の渓谷をさかのぼる。流れが狭まった所のくねりの形がおもしろいので、それをいかして奥行きを出したい。縦位置を取り、流れのくびれ部に視線を集めるX形構図とした。

ニコンF4s　Ai-ニッコール24ミリF2.8S　F11　32秒　プラス2／3補正　RVP　山梨県・丹波山村三条沢

風景の中からX形構図を探し出す

荒岩の溝が超広角レンズのゆがみでX状に引っ張られた構図

丹後半島東端の五色浜は典型的な海蝕海岸で、いろいろな形に削られた磯の造形に目をみはる。そうした中、巨大な金床を敷いたような荒岩の迫力に圧倒された。ノミでざっくり削ぎ落としたかのような荒々しさを強調したい。そこで超広角レンズを用い、水面に近いローアングルに構え、溝の左右がレンズのゆがみでX状に引っ張られた構図となるよう作画した。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　１／８秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　京都府・網野町塩江

広角レンズで根太を画面外へ飛び出させる

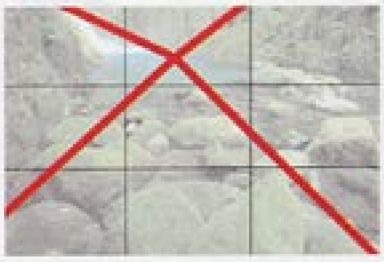
クロマツ、クス、スダジイが優性種で、400年ほどの古木も多く見られる真鶴岬の原生林で、朽ちて横倒しとなったクスの根太に朝日が差し、深くえぐれた樹肌に激しい陰影が刻まれ、強烈なインパクトを放っている。その光景を真正面から仰ぐように見た。広角レンズで根太ぎりぎりに近寄り、影を支点にX形をした根太が画面外へ飛び出すように構図を決定。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　１／４秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴町

手前の岩の重なりを中心に遠近感を出す

菊池渓谷の流れはバラエティに富んでいる。大河のように開けた所や、緩急の差が激しいいくつもの滝や、段差の緩い洗濯板状の平滑があったりする。そうした中で、美しく苔むした大岩が折り重なった所に目を引かれた。手前の岩の重なりをメインにして、奥の瀞状の崖とでX形のラインを結ぶように構成し、遠近感をもたせた。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　１／２秒　RVP　PLフィルター使用　熊本県・菊池渓谷



撮影のポイント

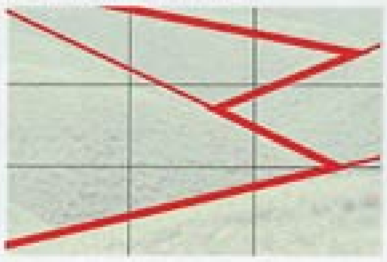
- ●渓谷や道などは地形のうえからも、X形構図となる要素を多く含んでいる。
- ●物体の形や自然の造形に対する興味を日ごろから高めるようにする。
- ●広角レンズ特有の画像のゆがみをうまく活用する。

ジグザグした地形や線を利用して遠近感を表す

画面の奥まで確実に距離感を生めるジグザグ遠近構図

ここでは、風景の中のジグザグした地形や線に注目して、遠近感を表す方法を紹介する。これはヨーロッパ絵画で使われてきた手法で、ジグザグ形を重ねて視線を遠方まで導くと遠近感を出しやすく、画面奥まで確実に距離感を生める。作例では手前の緩やかな斜面の線と中央部のボリューム豊かな丘の線の組み合わせで、初夏の草原のゆったりした安定の中に距離感をもたせた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／15秒　RVP　PLフィルター使用　熊本県・阿蘇外輪山



草原のゆったりしたのびやかさと、画面の奥へ向かう丘の距離感を出す

撮影場所は異なるが、上と同じ阿蘇外輪山の作例。手前から大きくＣ字を描くようなジグザグ状の丘のうねりが、中景の右側からなだらかに下る丘の斜面を包み込むように組み合わせ、その相乗で繰り返しうねる形にのって視線を画面の上方へ運んでいる。草原のゆったりしたのびやかさと画面の奥へ向かう丘の距離感を感じる構図だ。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／8秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　熊本県・阿蘇外輪山

朝霧のわく右上部の尾根筋に視線を向け、朝の南アルプスの静けさを構図する

南アルプスの朝。右上方のジグザグとした尾根に沿って朝霧がわき、日も差しはじめた。だが、手前の尾根にはまだ日が差さず、いまだ眠りから覚めない静けさが漂う。この静けさを損なわないように、画面中央に尾根筋を横たわせ、朝霧のわく右上部の尾根筋に視線が向かうように構成して、明け方の山の清浄さと遠近感をもたせた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　４秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村鳥倉林道

撮影のポイント

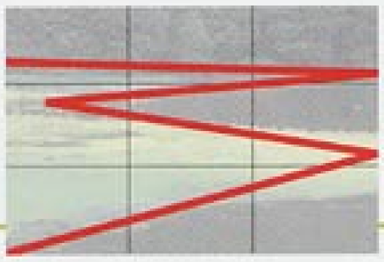
- ●ジグザグを繰り返す度合いが多いほど、遠近感は強調される。
- ●手前や遠景に緩やかな線をもってくると遠近感に安定感が加わる。
- ●交差するジグザグの線の傾斜が強いほどリズミカルで緊張感が出る。

色や光の動きに注目して、立体感を表現する

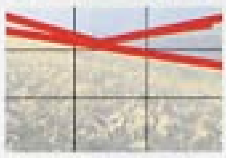
明るい草地と暗い湖面がたがいに奥行きを生む構図

光や色で画面に遠近感や立体感を盛る場合は、メリハリをつけることが大切だ。作例は夕暮れ間近い桧原湖畔。夕照が、湖へ突き出た洲状の草地に光の帯をのばしている。その光の帯をメインに、トーンの沈んだ湖面との組み合わせでジグザグ状に画面構成した。明るい草地と暗い湖面が奥行きを生んだ。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／４秒　−２／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯桧原湖



キスゲを広く配した高原の遠近感表現



霧ヶ峰高原のなだらかな斜面いっぱいに群生したキスゲの丘を中央に広く配置して、黄色いキスゲで高原ののびやかさを表現。上部に徐々に遠のいて見えるように丘陵を取り込み、ゆったりした遠近感表現を取る。

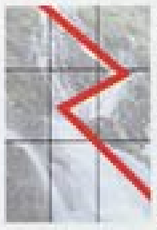
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／８秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰

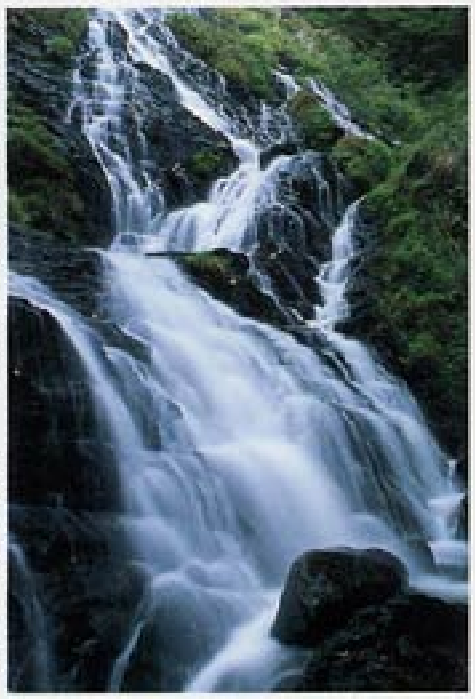
朝霧の描くジグザグ模様で幻想感を出す

なだらかな秩父山塊の底から斜面を隠すように朝霧がわき上がる。その朝霧のベールに透ける斜面のジグザグ模様と、手前下部に取り込んだ山の端の組み合わせで遠近感に加え幻想感を出して、構図を完成させた。

ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8S　Ｆ16　１／２秒　−１／２補正　RVP　PLフィルター使用　埼玉県・皆野町

ジグザグと稲妻が走るような滝の立体感

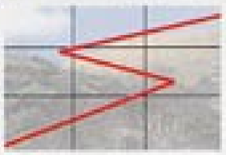




但馬地方の名瀑、天滝は落差約100メートル。滝尻から見上げるとジグザグと稲妻が走るように、視線が流れを伝わって引き上げられていく。その見上げる角度がもっとも鋭角になる位置にカメラを据え、高度と距離感を引き出して構図した。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　２秒　プラス２／３補正　RVP　PLフィルター使用　兵庫県・大屋町

斜面に浮かび上がる紅葉と日陰の交差



時折、濃い霧で視界を閉ざされる栗駒岳の登り。ひと息ついて後ろを振り返ると、霧でディフューズされた光が紅葉斜面をものやわらかに浮かび上がらせた。前後の日陰斜面との交差で立体感と奥行きが加わった。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　−２／３補正　RVP　PLフィルター使用　宮城県・栗駒山

撮影のポイント

- ●光や色彩で画面に遠近感と立体感を盛るには、メリハリをつける。
- ●光を強調するには、画面に占める明暗の配分をよく検討する。
- ●光の方向性と色彩バランスのよくとれた画面が立体感を生む。

基本の構図 13日目

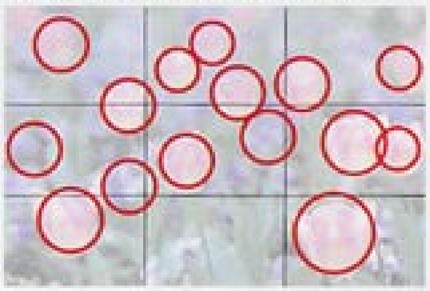
パターン構図

繰り返しでリズム感を出す

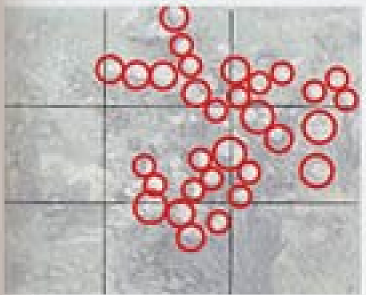
絞りを開け、パターン構図で春の明快感を盛る

パターン構図の軽快さを利用して春を表現した。作例は、公園の花壇で春を謳歌するように群れ咲くチューリップ。その下で丈の低いパンジーが少しでも多く日差しを受けようと、チューリップに負けじと花を開き、背のびをし、チューリップのピンクとパンジーの紫が織り成す配色の対比が画面に変化を呼んでいる。そこで、チューリップの花茎の間から紫が顔をのぞかせ、交互に繰り返す色彩が画面にリズムを生むようにした。春の明快感を盛るためチューリップが浮き立つよう絞りを開けている。

ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8Ｓ＋中間リング　Ｆ2.8　１／125秒　RVP　PLフィルター使用　東京都・新宿御苑



絵画に見るパターン構図



「ばら」
フィンセント・ファン・ゴッホ作
国立西洋美術館蔵
松方コレクション
ゴーガンとのいさかいでの発作をきっかけとしてサン・レミの精神療養院に入ったゴッホが、その庭を描いたとされる１枚。筆致を並置する独自の作画技法で、白いバラのリズムがパターンをつくり出している。

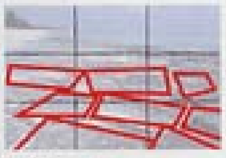
同じ被写体を繰り返して分布し画面一面をおおう構図

一般にパターンとは型そのものやその類型、あるいは模様やデザインをいう。そして、写真撮影でのパターン構図とは、画面全体に同じ形をもつ被写体が均等に並ぶ、あるいは、繰り返して分布し画面一面をおおう構図のことである。例えば、画面一面にヒマワリやラベンダーなど、色合いや柄、大きさもほぼ同じ被写体が写り込んでいる場合などを指す。

したがって、パターン構図では画面の中で一つの被写体だけきわだって目立つというのではなく、画面全体で一つのテーマを構築するというのが作画上の大きな特徴だ。中央1点構図のような力強さや集中力には欠けるが、同じ被写体が繰り返し整然と並ぶ画面には、統一的な美しさと静かな落ち着きが生まれる。また、どのような形でも、同じ形が繰り返す画面には楽しいリズムが生まれ、軽快で明るい空気に満たされる。

パターンを整え、すっきりとした構図にする

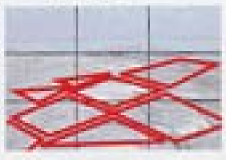
よけいなものを排除して単純化する



岬を入れた情景描写では石の並びが乱れる

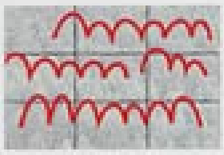
久米島にある岩の表面が亀の甲羅状をした亀甲石。この作例では、その繰り返しのリズムを主題に、砂浜海岸である周辺の様子も伝えようと環境描写的に構成した。そのために、並びのリズムにやや乱れが出た。
ニコンＦ３　Aiニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／15秒　＋１／２補正　KR　沖縄県・久米島

水平線に平行の亀甲石でパターンを出す



この作例では、整然と並び規則的に繰り返す亀甲石の配列のおもしろさを重視した。左の作例では上部左端にあった岬を画面から除き、水平線に合わせ平行に亀甲石を配置し、パターン構図ですっきり見せた。
ニコンＦ３　Aiニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／８秒　＋１／２補正　KR　沖縄県・久米島

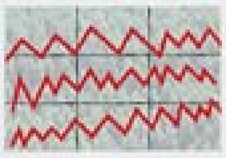
被写体の形をいかして締まりを出す



樹冠部が丸いスギが多く、整然さに欠ける

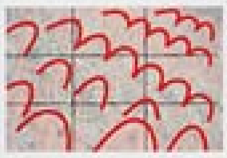
国内の野山でよく目にする植林されたスギ林をパターン的にとらえた。右の作例と同じパターン構図だが、樹冠部に綿帽子のような丸みを帯びたスギが多いので、整然さに欠ける。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１／４秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・伊豆天城山

樹冠部が鋭いスギで緊張感と上昇感を出す



左の作例と比べ、こちらは全体に鋭角的な形をした樹冠部が並んでいる。緑の色合いにも深みがあり、画面全体にピンとした張りが出て締まりが加わった構図だ。また、樹冠の形のため、上昇感を与えている。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED180ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　兵庫県・山崎町

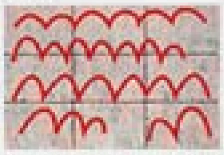
撮影ポジションを移動し、横一列にまとめる



花株が右下がりのため、リズム感に乏しい

色彩の乏しい冬ゆえに、アロエの鮮やかな赤は刺激的に目に映る。この作例は、傾斜のきつい段状の畑を横からとらえたので花株が全体に右下がりとなった。動きは感じるが、繰り返しのリズム感に乏しい構図だ。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ2.8　１／500秒　RVP　静岡県・西伊豆町

横方向に整然と並べてリズムを生む

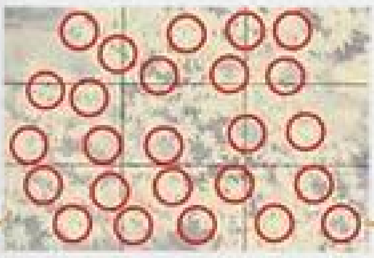


階段状のアロエ畑を真正面に見える位置にカメラを据え、花株の高さと間隔が均等にそろうように調整し、カメラと花株の水平が保たれるアングルで撮影。横方向に整然と並ぶ花株にリズムが生まる。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコール ED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ2.8　１／500秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・西伊豆町

点景を繰り返して、リズムをつける

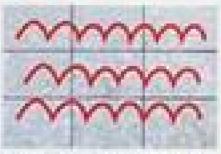
黄葉のヤマモミジのパターンに赤と緑で変化をつける

整然としたパターン構図では、同じ形や色合いの中に違うものを入れて変化をつけたい。作例は秋の渓谷の黄葉のヤマモミジ。しっとりと落ち着いた色合いを枝に散らす葉々は、着物の柄のようだ。葉が折り重なって繰り返す様を出すため、ハイアングルで重なりの間隔を調整。所々にのぞく赤と緑をアクセントにした。
ニコンＦ３　Aiニッコール ED180ミリF2.8S　F4　1／15秒　＋1／2補正　RVP　PLフィルター使用　茨城県・日立市



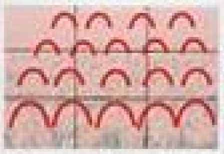
撮影のポイント
- ●パターン構図では、整然としたリズムを生むことが基本。
- ●そろった同じ形や色合いの中に若干違うものを入れて変化を生む。
- ●変化やアクセントを取り込むさいは、対立するような要素を避ける。

密度が高く色のまじり具合が調和した箇所を選ぶ



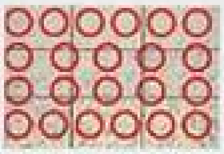
車窓に6畳ほどの小さな花群が映った。近づいて見ればワスレナグサが群れ、微妙に色合いの違う紫の色彩の綾織りがじつに可憐だ。もっとも密度が高く色のまじり具合が調和した箇所を選び、そのリズムをいかして構図を決めた。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／30秒　RVP　PLフィルター使用　新潟県・長岡市

望遠レンズで、花群が整然と並ぶように間隔を圧縮



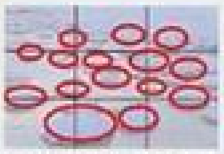
広大な信濃川の河川敷に広がるチューリップ畑。その中から、一面赤一色で埋まった畑が目につく。花群がすき間なく整然と並んで見えるように、望遠レンズで間隔を圧縮し、いちばん、茎の緑が目立たぬカメラの高さで撮った。
ニコンＦ３　Aiニッコール ED180ミリF2.8S　F4　1／60秒　RVP　新潟県・五泉市

花の向きと高さがそろった部分を望遠で引き寄せる



花の密生度を上げるため、ヒマワリ畑から1メートルほど高い石垣の縁にカメラポジションを取った。かつ、そのうえで、花の向きと高さがもっともそろった部分を選び望遠レンズで引き寄せ、整然としたパターン構図とした。
ニコンＦ４ｓ　トキナー AFプロ300ミリF2.8　F2.8　1／500秒　＋2／3補正　RVP　山梨県・明野町

点在する被写体の形のおもしろさがリズムを生む



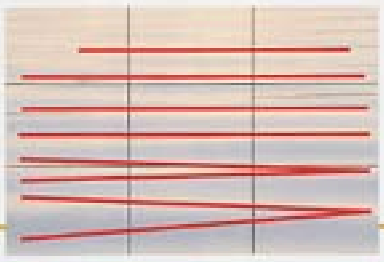
冬の高層湿原で、ヤチボウズと呼ばれる湿生植物が雪をかぶり水辺で凍えていた。まるで、頭と手足を引っ込めて亀がうずくまるようだ。その形のおもしろさと点在する様子にリズムが生まれる構成を取ってパターンとした。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール ED180ミリF2.8S　F16　1／2秒　＋2／3補正　RVP　長野県・霧ヶ峰池のくるみ

風景の中からパターン構図を探す

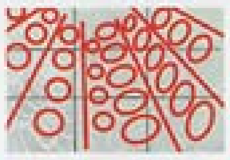
波間の輝きを見はからいシャッターチャンスを待つ

自然のつくる造形をよく観察することが、パターン構図のみならず風景撮影では大切だ。日没後20分ほどすると、夕空が輝きを増し茜色の色合いを深めた。夕空を反映した湖面はトロリとした粘性を増し、ゆったりした運動を繰り返している。反復する小波の山がそろい波間の輝きにリズムが生じ、パターンを生む瞬間、シャッターを切った。

ニコンＦ３　AiニッコールED180ミリＦ2.8S　Ｆ2.8　１／125秒　＋１／２補正　RVP　新潟県・佐渡島



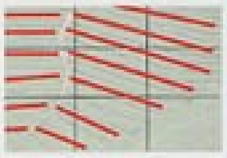
左右へ広がるクモの巣の曲線美を引き出す



アヤメの群生する湿原で、レース状に張りめぐらされたクモの巣に朝露の玉がつながっている。その網の目のみごとな繰り返しに目を奪われた。網の目の間隔と画面の左右へ広がる曲線の美しさを引き出した。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ2.8　１／60秒　RVP　栃木県・国分寺町

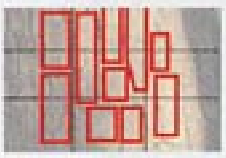
かまぼこ形の茶の畝による繰り返しの美しさ



新茶の黄緑がまばゆい山あいの茶畑。横長のかまぼこ形をした茶の畝が生む繰り返しのラインの美しさを主題に画面構成する。画面の左３分の１の所に運搬用のケーブル線を配し、パターン構図に変化を与えた。

ニコンＦ４s　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ16　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　静岡県・岡部町

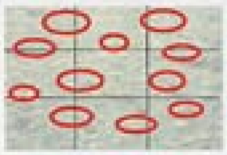
クロマツの樹皮の形のおもしろさに注目



作例は、早朝の原生林の太いクロマツの幹。巨大なハチの巣状をした特徴のある樹皮が、赤みのある強い朝日を受け、立体感をともなって迫る。ふぞろいのレンガを張ったような繰り返しのリズムがおもしろい。

ニコンＦ４s　AiAFズームニッコール80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１秒　－２／３補正　RVP　神奈川県・真鶴岬

清澄な川面の斑紋のリズムを切り取る



双六渓谷の川辺にすき間なく積まれた川砂利が日差しを反射し、川面に美しい玉状の斑紋を反映させている。その透明で清潔感にあふれ、キラキラとした川面の織り成すリズム感を切り取ってパターン構図とした。

ニコンＦ４s　AiAFズームニッコール80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／125秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　岐阜県・上宝村双六谷

撮影のポイント

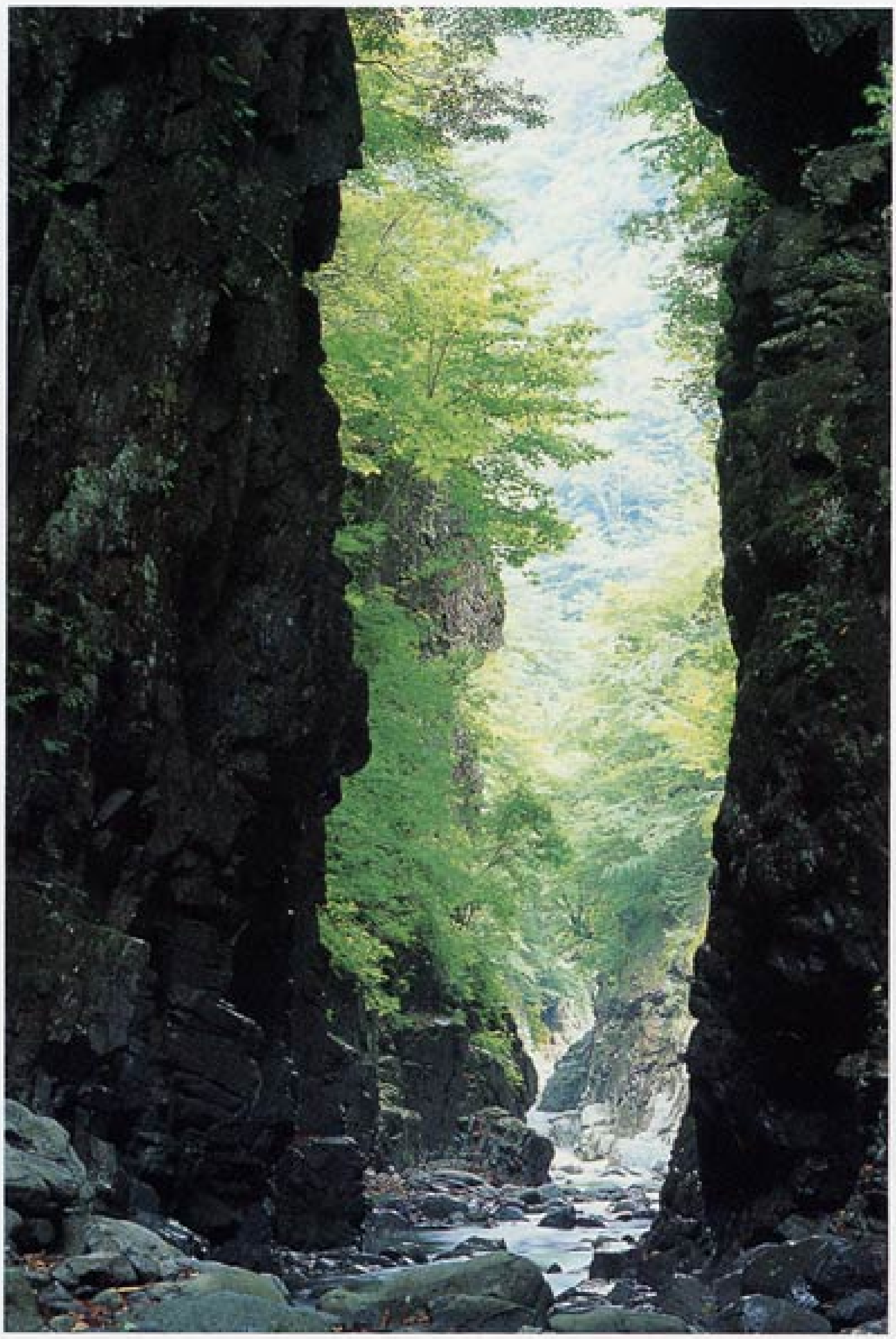
- ●花や樹木など、自然のつくる造形をつねに注意深く観察する。
- ●水面の波紋など動きのあるパターンでは、シャッター速度優先。
- ●規則的な繰り返しに、ちょっと変化を加えると画面が生き生きする。

基本の構図

14日目

トンネル構図

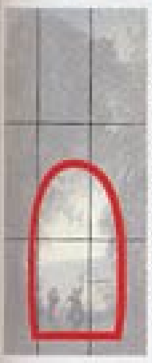
視線を集中させる



断崖のトンネルの先にのぞく木々の緑の明るさを強調

トンネル構図の代表例は、奥多摩の滑瀞谷での光景。谷の両岸は狭まり、切り立った断崖が頭上に迫る。このような地形を登山用語では廊下と呼ぶが、うまい表現だ。まさに暗くて長い廊下を手探りで歩く感じがした。断崖のトンネルの先にのぞく木々の緑が明るい。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　８秒　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村

絵画に見るトンネル構図



「ナポリの浜の思い出」
ジャン＝バティスト・カミーユ・コロー作
国立西洋美術館蔵
かつて遊学したナポリの思い出を描いた晩年のコローの大作。木陰の向こうに見えるナポリの浜というトンネル構図を通して青春の追憶が描かれる。

画面に集中力や落ち着きをもたらす構図の数々

さて、基本構図の最後は、被写体どうしの明暗や閉じられた空間をいかして、画面に集中力や落ち着きをもたらすトンネル構図だ。風景撮影では応用機会の多い構図で、アーチ形構図とも呼ばれる。トンネルの内側から外を見る、または、その逆の、明部と暗部の明るさや色合いのコントラストを強調した構図だ。画縁で画面を囲んだように中央部に強い集中力が生まれ、安定がよく落ち着きが出るのがその特徴だ。

このトンネル構図の変形として、垣間見る構図と囲み構図がある。垣間見る構図とは、木立の間から向こう側を見た構図のことで、垣間見ることで遠近やコントラストに差が生じ、同じ風景でもよりドラマチックに描ける。いっぽう、囲み構図とは山腹や樹林などで周囲が囲まれた一種閉ざされた地形空間をいかした構図で、静止した安定感を画面に盛り込める利点がある。

さまざまなトンネル構図

日陰と日なたのカラマツの色彩の対比がつくるトンネル構図

風景の中にトンネルをつくって構図を決めた。南アルプスの三伏峠へ向かう林道の両側には、色づいたカラマツが長々と続く。日はすでにだいぶん西へ傾き、左右の明暗のコントラストがはっきりと分かれたトンネル状のカラマツに挟まれて、秋空はいっそうくっきり見える。左の日陰部分と日なたのカラマツの色彩の対比により、秋空の高さが感じられるスペース配分で構成した。

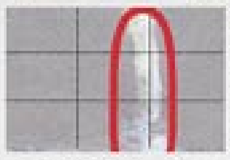
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　１／８秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村鳥倉林道

断崖の陰影を使って谷底の不気味さを出す

由布川渓谷の谷底を遡行して見つけた作例。この場所はほとんど流れのない涸れ谷で、断崖が極端に狭まり、下から見上げると両岸はまたげそうなくらい細い。その、心細さと谷底の不気味さをトンネル構図で表した。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　４秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　大分県・挟間町由布川渓谷

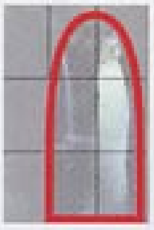
峡谷の地形を利用して心細さを表現する



奥多摩の大常木谷と呼ばれる峡谷だ。細い渓流を両側から挟みつけるように、ボリュームのある断崖が張り出している。この先を進むのが心細くなるような気持ちを表現したくて、流れの先にわずかなすき間をのぞかせた。

ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　８秒　－２／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村大常木谷

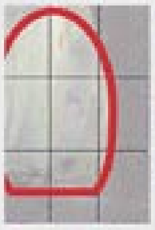
明暗対称のトンネル構図の中で滝を描く



柱状節理で名高い高千穂峡の真名井の滝。断崖先にのぞくわずかな空間に漏れ日が差している。その明暗をトンネル構図で表し、視線を集めた。

ニコンＦ3　Ａ-マイクロニッコール55ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　４秒　マイナス１／２補正　ＫＲ　宮崎県・高千穂峡真名井の滝

日陰の壁面を手前に取り込み明暗を対比



垂直に切り立つ断崖が美しく苔むし、壁面に日が差して、苔の緑が鮮やかだ。それをきわだたせるため、日陰を右手前に取り込み明暗を対比させた。

ニコンＦ４ｓ　Ａｉ-ＡＦズームニッコールＥＤ80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　４秒　マイナス１／３補正　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用　大分県・挟間町由布川渓谷

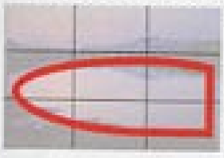
撮影のポイント

- トンネル構図は、明暗で区切られたスペース配分を十分に計算して構成する。
- 明るいスペースが少ないほど、画面における集中効果は高くなる。
- トンネル構図での暗部のオーバー露出は絶対禁物。構図を台なしにする。

シルエットを取り入れて、囲み構図をつくる

シルエットで周囲を囲い込む

囲み込まれた暗い溜池の安定感と朝焼け空の軽さ



作例は、徐々に明るみを増す阿蘇山の草千里浜。シルエットで囲まれた朝焼け空を反映した溜池が主題。囲み構図により、溜池のほの暗さが安定感と静けさを生み、視線が天部へ抜ける軽みを空のスペースで出した。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　4秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　熊本県・阿蘇山草千里浜

葉陰のトンネルで空と暗部の露出差を埋める

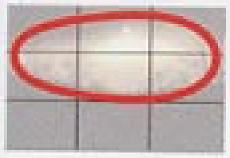
シルエットで囲まれた向こうにのぞく点々とした木立の配列が目を引いた。だが、真逆光のため、空と暗部に再現不能となる露出差がある。その露出差を埋め、さらにシルエットの葉陰のおもしろさをいかすことをねらい、空を大きくアブラギリの葉陰でおおった。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　１／４秒　－２／３補正　RVP　新潟県・津南町

撮影のポイント

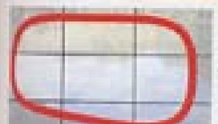
- 囲み込んだ構図は窮屈感を与えるので、抜ける部分をつくる。
- 囲み込みの安定感と変化を生む動感をうまくミックスさせる。
- シルエットをいかすには、やや暗めの画面づくりが基本。

朝の太陽と霧が織り成すドラマチックな空間

明け方まで快晴の空が、日が昇ると黒い霧で閉ざされた。１時間後、急に水平線の空が割れ、霧に透けた太陽がのぞく。そのドラマチックな空間を切り取る。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール55ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１／２秒　－１／２補正　RVP　秋田県・八幡平



シルエット＋地形で囲い込む

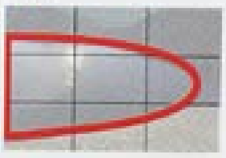


明暗の階調で空を囲い、静寂感を出す

湖面に揺らめいている綿雲の倒影像で、秋めいてきた湖畔の静寂感と時間の経過をとらえる。そのために、明暗の階調で倒影像の空を囲い込んだ。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・磐梯高原

逆光に反射する池面を画面に閉じ込める

白山の山上にある火山湖、翠ヶ池に朝日が差した。盛夏ではあるが池の縁にはまだたっぷり残雪を残す。その地形と陰をいかして、逆光に反射する池面を画面に閉じ込めるようにして集中力を高めた。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／15秒　－１／３補正　RVP　石川県・白山翠ヶ池

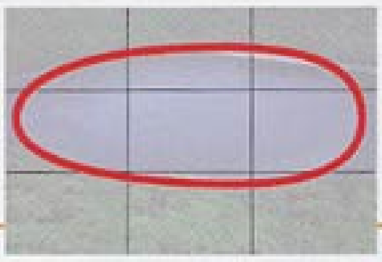


地形を利用して囲み構図をつくる

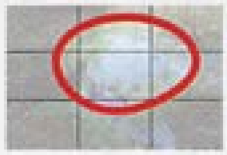
湖面の左右を断ち落とし、開放感を出す

囲み構図を地形の中に見つけ、うまく利用したいものだ。作例は、霧島連山の韓国岳にある日本最大の山頂火口湖の大浪池。火山湖特有の深々としたコバルトブルーの魅力的な湖面を、中央部に大きく配置して安定のよい清明感を盛った。そして、湖面の左右を意識的に断ち落とし、視線が左右へ抜けることで開放感をもたらす構図とした。

ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ16　１／15秒　KR　PLフィルター使用　鹿児島県・大浪池



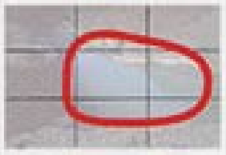
自然がつくった貴重な水瓶を新緑で囲む



鳥海山の中島台には、作例のように地を割って清水がわく所が数か所あり、出壺と呼ぶ。周囲の木々の緑を映す情景は、まさに自然のつくり上げた貴重な水瓶だ。その湧出地点をブナの新緑が囲むように作画した。

ニコンＦ５　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ11　オート　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・象潟町

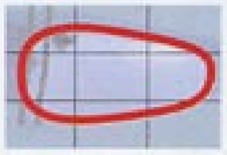
水面の静けさを囲い込んだ岩場で強調する



瀞峡の約５キロ上流にある北山峡は、瀞峡におとらぬ深々とした緑水をため、瀞状を呈している。その静寂に鎮まる情景を盛り上げるため、水面の静けさとは対称的な荒々しい岩場を囲い込むように取り込んだ。

ニコンＦ３　Aiニッコール35ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　和歌山県・北山村北山峡

冬空を反映した沼面を深雪で囲い込む



裏磐梯高原の曽原地区には名も知れぬ無数の堰止沼がある。夏には生い茂る草木で近寄れぬ沼畔へ、カンジキがあれば積雪期には簡単に立てる。大量の降雪でも埋め切れぬ、冬空を反映した沼面を深雪で囲い込む。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／４秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯

滝を手前と奥の木々の緑の階調差で囲む

秋山郷の中津川に落ちる蛇淵の滝を展望所から見下ろした。急崖の奥深くを割って落下する様子を表すのと、距離感を出すため、周囲の木々の枝先で滝口を取り囲み、手前と奥の緑の階調差でそれを表した。

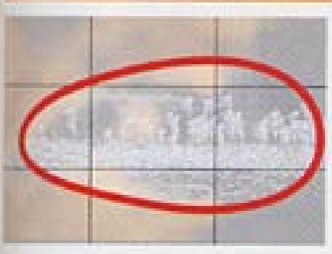
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　新潟県・秋山郷蛇淵の滝

撮影のポイント

- ●地形的には湖沼や湿原の池塘、河川の瀞状の所が囲い込みにいい。
- ●樹木などの自然物や撮影位置を選択することで被写体を囲い込む。
- ●被写体の明暗差や色彩の違いを利用し、メイン被写体を囲い込む。

前景＋背景で風景を垣間見る

モミジを前ボケに、カモメを垣間見て晩秋を表す



晩秋の川原で冷えた体を暖めるかのように、羽を休めているカモメの群れが日差しの方向へ向いている。その冷え冷えとした空気の透明感と晩秋の季節感を盛り込むため、モミジを前ボケにし、カモメを垣間見た。

ニコンＦ４ｓ　AiAFニッコールED300ミリＦ４Ｓ　Ｆ４　１／30秒　－１／３補正　RVP　京都府・京都市嵐山桂川

新芽越しにボカしたヤマザクラを垣間見る

木立の間から向こう側を垣間見ると、ドラマチックに風景が描ける。季節感を盛るため、カキの新芽越しにボカした山の斜面に咲くヤマザクラをうかがい見るように配した。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／60秒　RVP　PLフィルター使用　山形県・朝日村

トチの葉を重ね、白滝のスケールを出す

幅広の懸崖いっぱいに広がり落ちる白滝のスケールを表すため、崖から大きく突き出た大ぶりのトチの葉を重ね、白滝を垣間見る構図を取った。画面には奥行きが出て、涼感をうまく引き出せた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ11　2秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　兵庫県・大屋町天滝

春の風情を盛り込んで小島をサクラで縁取る

おだやかに明けてゆく瀬戸内海。オレンジに染まる沖の小島が春霞にかすみ情趣をそそる。その春の風情を盛り込んで、遠景の小島を縁取るように赤みの差したサクラを取り込み、垣間見た。

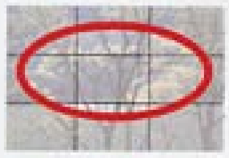
ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ４　オート　＋２／３補正　RVP　山口県・東和町

ナノハナを前ボケにサクラを垣間見る

濃緑のスギ林の中で、満開の花を咲かせていたヤマザクラの古木が作例。陽春の雰囲気を盛るため、川を挟んだ向こうの土堤に群れているナノハナを前ボケに取り込み、ヤマザクラを垣間見た。

ニコンＦ３　AiAFニッコールED300ミリＦ４Ｓ　Ｆ4　１／125秒　＋１／２補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・中伊豆町

ヤナギ越しに春の四万十川の情景を描く



春の日差しにハコヤナギの新芽が輝き、川原石の遠くに逆光を受けた川面が光っている。日ごとに春めいていく暖かな四万十川の情景を、川岸のヤナギ越しに垣間見るように構図を決めてとらえた。

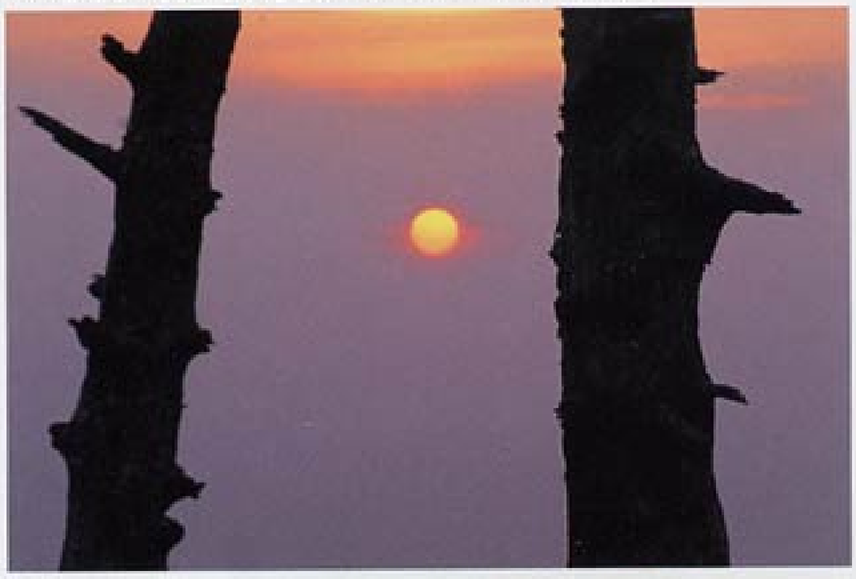
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ４　１／250秒　－２／３補正　RVP　高知県・西土佐村

撮影のポイント

- ●垣間見た被写体をはっきり見せるのが基本。
- ●手前を暗く、垣間見る対象を明るくすると開放感が生まれる。
- ●手前が繁雑な場合はボケをコントロールして省略する。

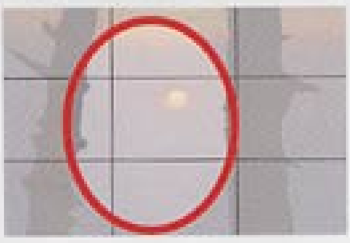
手前をシルエットにして、より印象深くまとめる

単純な夕景に白骨林の影で変化をつける



白骨林風景で知られる瓶ヶ森の夕暮れ。日没まぎわに夕雲のベールから透けた夕日が顔をのぞかせた。その光景だけでは単純なので、白骨林の間から夕日を垣間見る。

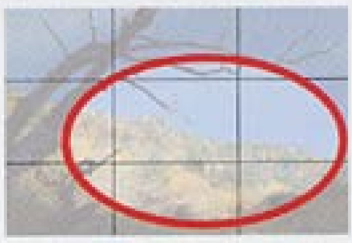
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　愛媛県・石鎚山瓶ヶ森



シルエットを活用して山を引き立てる

現場は深いＶ字形をした南アルプスの三峰川。昼過ぎには手前は陰ってしまう、その明暗のコントラストを活用し、手前から青空に突き出た枯れ木越しに山をのぞき見た。

ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　１／８秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・長谷村三峰川



滝とコメツガの明暗差が距離感を生む

豪雪で水嵩を増し水煙を上げ轟然と落下する三条の滝。展望所付近に林立するコメツガの間から垣間見る構図を取った。滝と暗いコメツガとの明暗差がシルエットを生み、画面に距離とコントラストを生んだ。

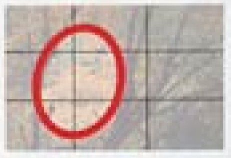
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・三条の滝

輝くヤマモミジとシルエットの幹を対比する

山の端へ日が隠れんとする直前の夕照を受け、ヤマモミジが鮮やかに輝きを増した。その夕照に透けた輝きをいっそう引き立てるため、シルエットの幹を取り込み、垣間見るようにしてコントラストを対比させた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／２秒　＋１／３補正　RVP　福島県・昭和村矢ノ原湿原

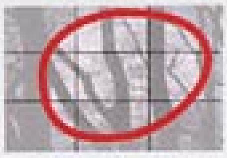
色彩のタペストリーを垣間見て盛り上げる



ヤマモミジの朱色とツガやモミなど常緑の針葉樹の織り成す色彩のタペストリーが美しい。しかし、ファインダー越しに見ると平板に写るので、日陰でシルエットになった枯れ木立越しに垣間見て、画面を締めた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ16　１／４秒　－１／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・長谷村

日の出前の薄明るんだ空間をとらえる



八溝山で日の出撮影に備え待機する。暗かった空がうっすら白みはじめると、どうしたかげんか、日の出とは反対側の暗がりが、紫に黒をまぜたような色合いで薄明るんだ。その空間をシルエット越しにねらった。

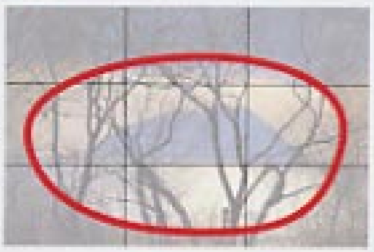
ニコンＦ４ｓ　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ5.6　32秒　＋２／３補正　RVP　茨城県・八溝山

撮影のポイント

- ●シルエットは主題を引き立てるための副素材として画面構成する。
- ●シルエットの配置とスペースは主題との対比をよく考えて決める。
- ●シルエットの締まり具合により、微妙に距離感が違って見える。

光の輝きに注目して作品として完成させる

鈍く輝く湖面に木々のシルエットを重ね、落日を印象づける



関西の落日撮影の名所、奥琵琶湖の尾上浜。11～12月中は湖岸沿いに場所を移動すると、沖合いに浮かぶ竹生島にうまく落日を重ねられる。このときは厚い黒雲に太陽が隠れている間に、常とは異なる印象を与えるため、鈍く輝く湖面にシルエットを重ねた。

ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ４　１／125秒　－２／３補正　RVP　滋賀県・湖北町

撮影のポイント

- 輝きの強弱に合わせ露出をコントロールする。
- ハーフトーンの逆光状態をうまくいかすと情緒のある作画が望める。
- 鈍い逆光線は、画面にものやわらいだ立体感を生む。

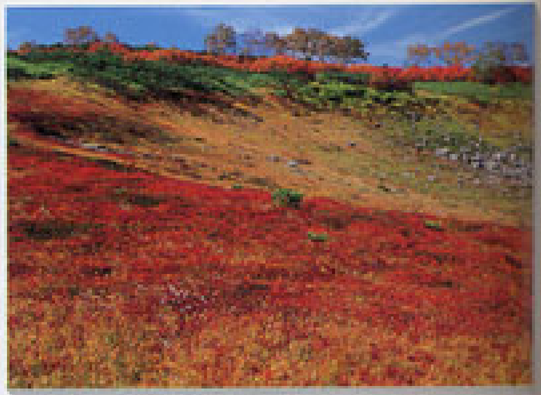
輝く湖面を強調するため、雪の樹木越しに垣間見る

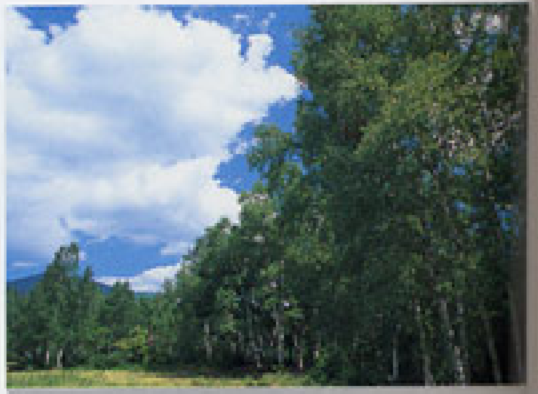
11月半ばの裏磐梯。夕方近くから降り出した初雪は大雪となり、明け方近くに降り止んだ。この時期は降り止むとすぐ解けるから、撮影地の選択に悩む。たっぷり雪を被った木立と湖の日の出をイメージして桧原湖畔へ急ぐ。期待した日の出は望めなかったが、雲間からの光に輝く湖面を雪の樹木越しに垣間見る。

ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ28～70ミリＦ2.8　F11　１／２秒　＋２／３補正　RVP　福島県・裏磐梯桧原湖

被写体をいかす 基本構図の組み合わせ

応用上級篇





「集中講座」で解説した14の基本構図を組み合わせることによって、より完成度の高い作品づくりに挑戦してみましょう。それぞれの基本構図のもち味をいかし、被写体の魅力を引き出すには、どう作画すればよいか。ここでは、その複合構図の決め方を、被写体別に実例写真で詳しく解説します。

被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

山並み

山頂は三角形。なだらかな斜面や明暗差で変化をつける

日本の山は険しいピラミッド形と緩やかな丘状に大きく分かれる。基本は三角形で、斜面、時間帯で変化する陰影、湖などをバラエティ豊かに絡めて複合構図を決め、山の荘厳さ、雄大さを描きたい。

山並み＋シルエットで画面構成する

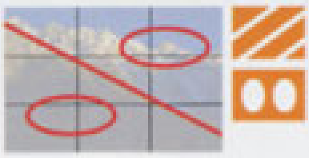
シルエットで斜面に輝く紅葉を強調する

涸沢岳が描く三角形と、紅葉がピークの斜線を描く山肌斜面に視線を集めて、早朝の光に輝く山をとらえた。斜面の斜線構図をいかしつつ、下部の陰の部分と稜線のラインをいかして高度感を盛る。

ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F16　1／4秒　−1／2補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・涸沢

明暗の対比で山のピークの輝きをとらえる

夕方の日差しに浮かび上がる穂高連峰。まず、3分割法の基本にのっとり、稜線の取り込む位置を整え、対角線上に日陰の部分を置き、光の当たっている稜線部分との明暗を対比構図でとらえた。



ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／2秒　−1／2補正　RVP　長野県・上高地穂高連峰

雲や雲海の配置で山並みの魅力を引き出す

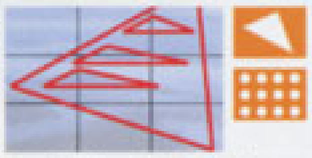
漂う雲海で奥行き感をもたせる

夜明け前、朝日が稜線の向こう側にあって上空が輝く。山並み、雲海、下部のシルエットを3分割でバランスよく配置。明るい天部と下部の陰の明暗の対比で、視線を上に集め、山の高度感を表した。

ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　2秒　−1／2補正　RVP　長野県・霧ヶ峰車山

尾根にかかる雲海の漂い方をうまく観察する

秋の明け方。尾根のラインを隠すように漂う雲海をとらえる。雲海からのぞく三つの三角形の尾根のパターンを、うまく雲海と絡めて配置する。手前と左端に暗い部分を置き、遠近感を出す。



ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　4秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山銀泉台

画面中間の雲の取り入れ方がポイント

夏の雲の動きは速い。パターン構図となった山並みのいい所に雲がかかるタイミングをはかってシャッターを切る。二つの雲の塊が対比構図を取り、右端のシルエットを斜線上に置き奥行きを出す。

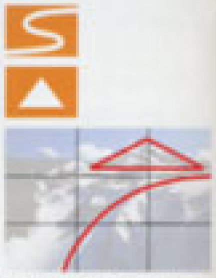
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／2秒　＋2／3補正　RVP　長野県・乗鞍山頂

縦位置で山の高度感をいっそう盛り上げる

鳥海山の雪渓を縦位置で撮った作例。横位置に比べ、雪渓の曲線をよりダイナミックに、画面枠いっぱいに大きく取り入れ、三角形のピークをもった山の高度感を盛り上げた。
ニコンF5　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　オート　マイナス2／3補正　RVP　秋田県・鳥海山祓川

縦位置画面、横位置画面の違いで変化する作画意図

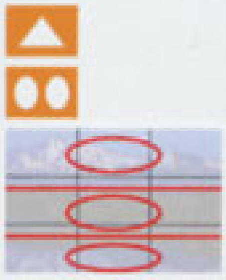
雪渓の描く曲線を使い、山のピークに視線を集める



初夏の鳥海山の雪渓を横位置で撮った作例。画面右の雪渓の描くカーブを使い、奥の三角形の山のピークに視線が集まるようにした。右の曲線の中の暗部は、遠近感を出すための重要なポイント。これがないとのっぺりとした画面になる。
ニコンF5　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　オート　＋1／3補正　RVP　秋田県・鳥海山祓川

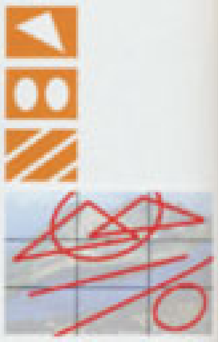
画面天部ぎりぎりに山頂を配する構図

明暗対比のための森の暗い帯の幅が山頂位置を決める



残照を受けた三角形の鳥海山の姿に、静寂感と安定感を求めた。中央に池への映り込みでシンメトリー効果が出た暗い森の帯を入れ、画面上下に明暗の対比効果を出す。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　オート　－2／3補正　RVP　PLフィルター使用　秋田県・仁賀保町大潟濕池

雪渓の斜線構図をいかすための山頂の位置

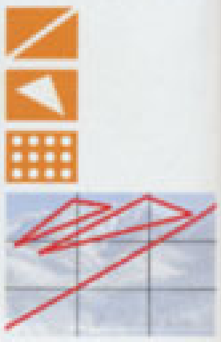


三角形の山容がみごとな夏の剣ヶ峰。手前の日陰スペースで、日なたとの対比を見せつつ、山の高度感を引き出す。斜線の雪渓をいかすため、天部ぎりぎりの山頂とした。
ニコンF4s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　1／4秒　－2／3補正　RVP　PLフィルター使用　石川県・白山剣ヶ峰

早朝の斜光線による尾根の陰をいかして遠近感を出す

手前の白馬岳と奥の小蓮華岳、二つの三角形を組み合わせ、早朝の夏山のすがすがしさを描く。白馬の尾根を対角線上に沿わせ、面積の広い陰を使って遠近感を出した。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／8秒　－1／2補正　KP　PLフィルター使用　長野県・白馬山頂より

遠近感を出す画面右の影ののび具合で山頂位置を決める



全山霧氷に輝く雪山の、空気の張りつめた緊迫感と清浄感が主題。雪山の三角形の繰り返しパターンをいかすため、対角線に沿って山ひだを置き、影ののび方で奥行きを出す。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯剣ヶ峰

被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

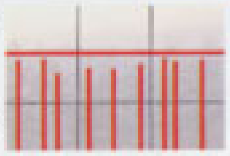
木々

木々のもつ形状をいかして、背景とうまく組み合わせる

群立する木は並ぶ繰り返しの妙をねらうことが多い。風景の中の木であるから、配置が重要ポイントになる。木のおもしろい形状を探し、背景とうまく組み合わせ、風景の情感豊かな表情を引き出そう。

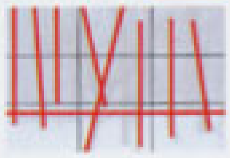
垂直線構図＋水平線構図の組み合わせ

輝く光に向かうカラマツの上昇感を引き出す



カラマツが日の出前の光輝く天に向かう姿を表した。カラマツの上昇するリズム感を生む細い垂直線の間隔と空の面積のバランスが大切だ。
ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F16　1／4秒　－1／2補正　RVP　長野県・上村しらびそ高原

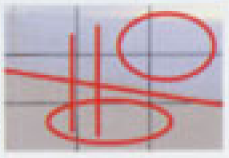
雪面と垂直線の面積配分で印象が変わる



垂直状に群立する木々だけでは整然とするので、中央の右へかしいだ幹で変化をつけた。雪面の広さで垂直線を弱め、ものさびしい冬を描く。
ニコンF4s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　1秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　栃木県・奥日光湯川

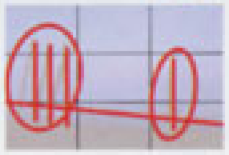
手前の木立をモチーフにして背景をくふうする

日の当たらない下部の陰が重要な役になる



夜が明けていく峠。垂直に立つ白骨林を中心に、朝日が差す明るいなだらかな斜線構図の山並みと下部の陰との明暗差で、高度感を引き出す。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　16秒　－1／3補正　RVP　群馬県・六合村渋峠

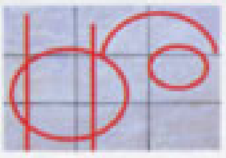
うっすら色づいてきた明け方の静寂感を描く



夏の明け方、石鎚山をポイントに左右の垂直にのびる白骨林を対比させた。下の暗部でバランスを保ち、枯れ木に乗っかるように満月を配した。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　16秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　愛媛県・石鎚山瓶ヶ森

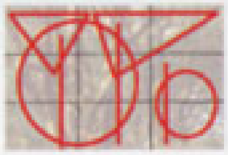
垂直線の幹に対して、枝が描く形を見きわめて構成する

左右のカラマツの塊のバランスが重要



夜明け前の霧氷のほの明るさを出すのがねらい。左手前の２本のカラマツと、右奥のなだらかな曲線のカラマツを対比させて奥行き感を盛った。
ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F11　30秒　＋1／2補正　RVP　長野県・上高地田代湿原

ボリューム感をもたせるクスの配置を考える



クスの幹を照らす早朝の日差しの新鮮さを引き出す。上へ枝を逆三角形に広げるクスの開放感を出すため、手前の幹と奥の幹を対比させた。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴岬

斜線構図で生まれる空を効果的に活用する

空を中心に木々の上昇感をとらえる

対角線に沿うように、カラマツを斜線構図でうまく配置した。絹雲が空に流れる流動感に対応して、カラマツの空に向かう上昇感も含め、秋のさわやかさを盛り込んだ。
ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　1／4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村烏倉林道

空の空間にシラカバを絡ませ、夏のさわやかな開放感を出す

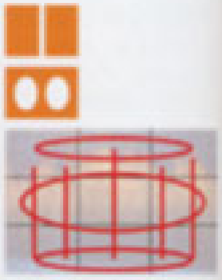
緑鮮やかなシラカバが空へ向かう右の斜線構図と奥の垂直線構図、空に浮かぶ白雲のボリューム感に呼応する右のシラカバ林。夏の高原の開放感を切り取った。
ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1／8秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・乗鞍高原

密集した木立の構図決定方法

朝日に当たって輝かしい霧氷に視線を集める

２月上旬の上高地。垂直に並ぶ霧氷のカラマツ林のもつ斜線と、曲線を描く川の流れが奥行き感をもたせる。ねらいとした朝日に輝く霧氷のカラマツに自然と視線が向かう。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール55ミリF2.8S　F16　1／2秒　−1／2補正　RVP　長野県・上高地

上下に暗部をもってきて主役は中央で浮かび上がらせる

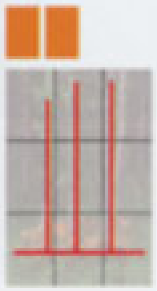


朝の斜光線に照らされ、ハンノキが赤く川辺に浮かび上がる。垂直に並ぶハンノキを中央に３分割法にのっとってもってくる。上下の暗さでハンノキに視線が集まった。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F11　1／2秒　−1／2補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・上高地梓川

垂直の木に色をくふうして変化をつける

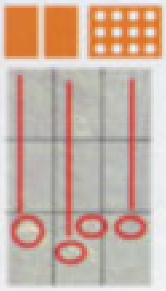
木の垂直線を受け止めるレンゲツツジ

初夏の裏磐梯。垂直にのびるナラの木を逆T字形で受け止めるように、根もとにレンゲツツジを配した。ナラの垂直線の強さを、ツツジがやわらげてくれる。林の緑とツツジの朱色の色合いで初夏を表した。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　オート　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯林細野



緑の中に黄色の花をアクセントにする

ツタ状のヤマアジサイが絡まっているナラの木を、画面左に配置する。ピントを浅くして垂直に並ぶナラの層状を出す。さらに、全体に緑色で色合いが単調になるので、黄色のオグルマソウを下部に入れて変化をつけた。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　オート　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯中瀬沼



被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

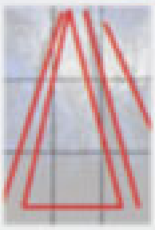
木の幹

堂々とした木のボリューム感と力強さを引き出す構図とは

古木や巨木をとらえるには、画面に占める木の比率を考えなければならない。木のボリューム感が重要になり、背景処理も大切だ。木は種類によって幹や形が違うので、これもうまく引き出したい。

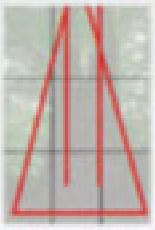
幹を三角形構図に活用する

視線を天に集中させ、上昇感をあおる



今にも雨が降り出しそうな空へ上昇しようとする２本のブナ。垂直線をいかした三角形構図で、頂点はフレーム外。背景の木立との重なり具合がうるさいと２本が目立たなくなる。
ニコンＦ５　AiAFズームニッコール18～35ミリＦ3.5～4.5　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　神奈川県・箱根湿原

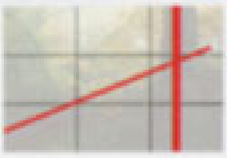
根もとの広がりをいかして風格を出す



霧に煙るトチの古木の堂々とした力強さを引き出すのがねらい。根もとの広がりをいかした三角形構図をつくる。下部の暗がりと上部の新緑の明暗対比で古木の重量感が出た。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20～40ミリＦ2.7～3.5　Ｆ16　４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・八甲田蔦沼

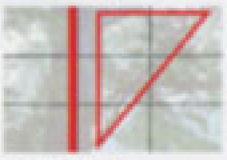
木の幹を画面の左右に配置する

背景との距離感を引き出し画面を引き締める幹



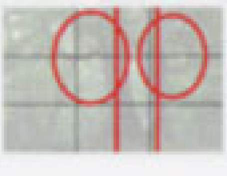
強い木の幹は画面を引き締める。背景は霧でボケ、斜線構図を描く縁取られた緑に対して、画面右のブナの幹が遠近感をもたせるポイントとなった。晩秋の雨模様の紅葉に彩られた曖昧模糊とした雰囲気がねらい。
ニコンＦ４s　Aiニッコール35ミリＦ2S　Ｆ11　２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　東京都・奥多摩雲取山

上方に向く枝を支えるために幹の太さと位置が重要



梅雨特有の霧に煙るブナの原生林の雰囲気を出すのがねらい。太い幹の垂直線をいかしながら、右に突き出た逆三角形を形づくる枝の上にのびる様を描く。この枝を支える幹の太さが作画の重要ポイントだ。
ニコンＦ４s　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8D　Ｆ11　４秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村

木の形状のおもしろさをうまく引き出すカメラ位置

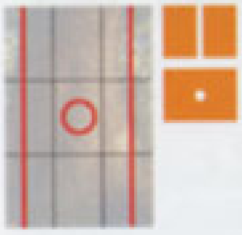


十和田の発荷峠のブナの原生林の中で見つけた２本の古木。２本の木を縦に真ん中で分けると、左右に腕のようにのびる枝が一種のシンメトリー効果を発揮して、２本の木が双子のように見える。
ニコンＦ３　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8S　Ｆ16　１秒　RVP　PLフィルター使用　青森県・十和田発荷峠

画面いっぱいに幹をクローズアップした場合

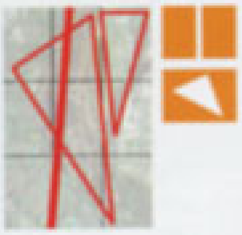
幹を中央１点構図でとらえ、原生林の力強さを表す

クスノキの根もとをクローズアップし、垂直線の基本構図で切り取る。木肌を朝日が右のほうから照らして赤みが残り、左のほうが陰になっている。画面いっぱいに幹の主要部分を中央1点構図でとらえ、朝日の差す原生林の力強さを表した。
ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1／2秒　マイナス1／3補正　RVP　PLフィルター使用
神奈川県・真鶴岬



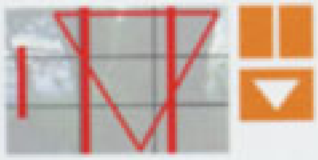
雑草の崖が生む距離感を使い、幹の上昇感を出す

樹皮がなく、つるつるした赤肌のビランジュの迫力を引き出すのがねらい。左下手前に雑草の生える崖を斜線構図で配し、中央に大きく幹をあしらう。右上にのびる枝がつくる三角形と中央の太い幹の三角形のバランスをとって、上にのびる幹の力強さを表現した。
ニコンF3　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1／2秒　＋1／2補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・小田原市石垣山



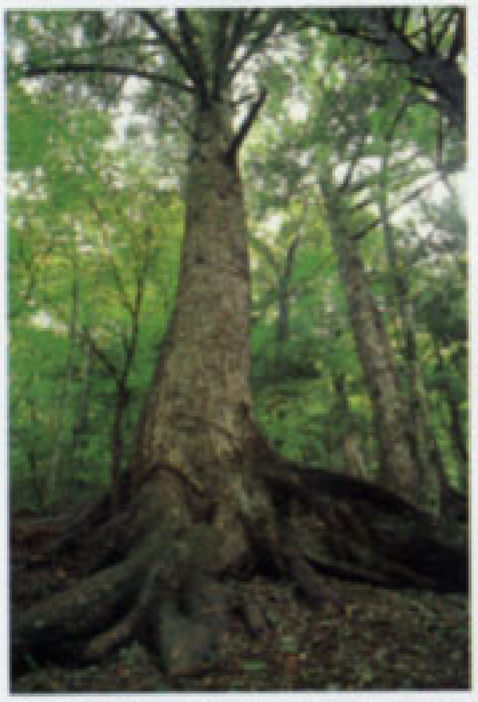
厚い緑の苔むす古木の重厚感をうまく引き出す

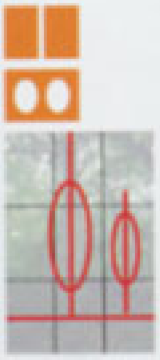
北八ヶ岳の白駒池付近の原生林で、根もとが苔におおわれた古木を見つけた。二股に分かれた幹がつくる逆三角形構図を組み合わせて、厚い緑の苔むす古木の重厚感をうまく引き出した。
ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・北八ヶ岳白駒池



広角で下から仰ぎ見て撮影する場合

幹の上昇感を出すため下部を広げる





ツガの木の上昇感をローアングルで振り仰いだ。木を逆T字形に受け止める根もとの広がりと力強さを描くとともに、正面のツガを右奥のツガと対比させ強調した。
ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村

傾く幹を対角線状に配し、高さを出す

梅雨時の霧におおわれた蔦沼の原生林で、ブナの木の存在感を描写するのがねらい。少し右にかしいでいる幹を対角線状に意識して配置し、高さが出る構図にした。
ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・八甲田蔦沼

幹の三角形の広がりで力強さを出す

太いクスノキの幹に接近して真上に振り仰ぐ。上部の分かれた枝がつくり出す逆三角形と呼応する、幹の広がりの中にある三角形で、幹のボリューム感を描いた。
ニコンF4s　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴岬

被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

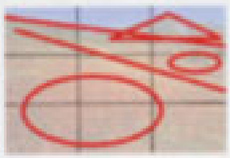
紅葉

紅葉の大きさや色彩などを周囲から引き立たせる

地形や環境によって主役となる紅葉の選び方も違ってくる。画面に占める大きさや位置、周囲との組み合わせで決めていく。また、主役を引き立たせるため、暗い色や反対色を画面に入れたい。

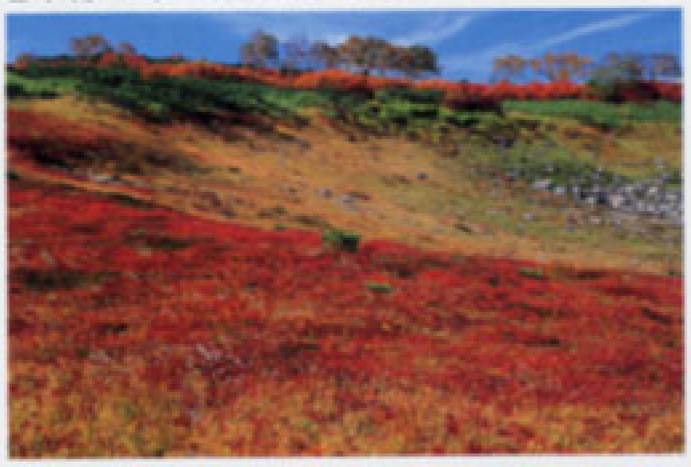
遠景の配置で距離感を出し、紅葉の広がりを強調する

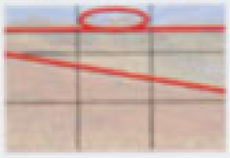
紅葉の色の層の変化と稜線で距離感を出す



なだらかな斜面に広がるチングルマの紅葉を、色合いから斜線構図でパターンとして分けた。対角線延長の右上に稜線を配して距離感を出す。
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山緑岳

地平線の木で遠近感を出し、紅葉を引き立てる

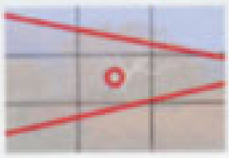




秋の紅葉風景を描く。上部に地平線をもってきてダケカンバへ視線を集中させて距離感を出し、斜線構図で手前に主役のチングルマを配した。
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山緑岳

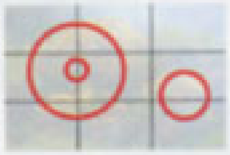
主役とわき役の対比をコントロールする

主役のダケカンバを浮かび上がらせる



風で曲がったダケカンバの形状を中央1点で引き出した。背後の斜線状の山並みと手前の赤いナナカマドをジグザグに配して距離感を出す。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山緑岳

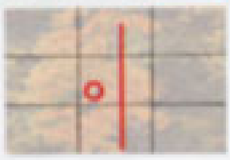
ダケカンバを中央1点構図でとらえて対比する



晩秋の山霧にむせぶ高山の情感を盛り込む。左正面のダケカンバを中央1点構図でとらえ、左右に小さなダケカンバを配して集中力をはかる。
ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F11　1秒　＋1／2補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・栂池自然園

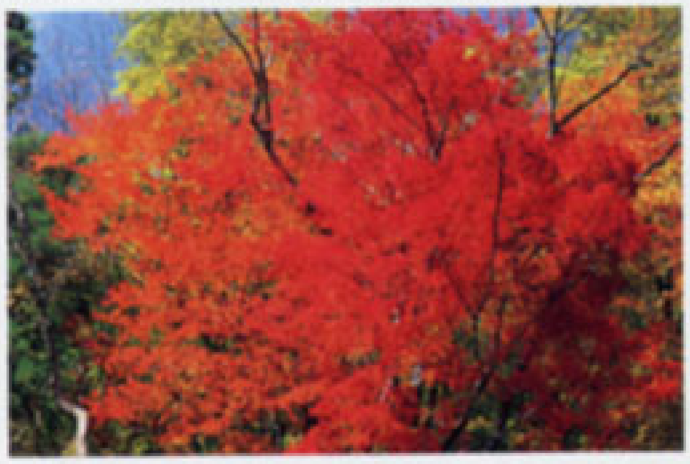
メインの被写体が画面全体を占める場合

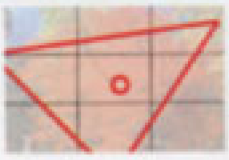
奥のヤマモミジも重ねてボリューム感を出す



秋たけなわの色彩の美しさを描く、垂直線をいかした中央1点構図。紅葉の1本ではなく、奥のヤマモミジも重ねてボリューム感をもたせた。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／2秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・長谷村三峰川

ゆったりと扇状に広がる真紅のヤマモミジ

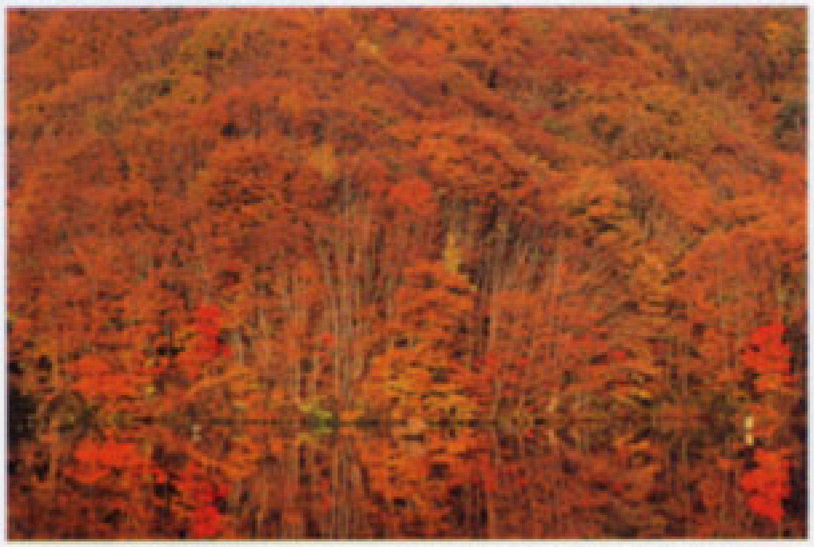
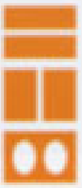




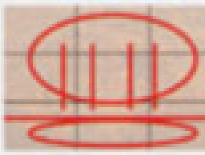
中央1点で、逆三角形の扇状に広がるヤマモミジを画面いっぱいにとらえた。広がりが大きい位置を探し、ヤマモミジの真紅をあふれさせる。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／4秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・大鹿村黒川林道

同じ大きさの形の対比で画面構成する

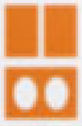
同じ色合いの映り込みがシンメトリー効果を生む

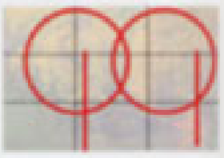
主題は、夕暮れまぎわの夕照に照らされた赤く紅葉した林の美しさ。曲沢沼への映り込みがシンメトリー効果を生み、画面に安定感をもたせた。上部を広く取り、ボリューム感を保つ。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯曲沢沼



強風にかしぐシラカバに視線を集める対比構図

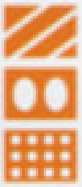


強風に左斜めにかしいでざわめくシラカバの動感を盛り込む。左の主役のシラカバに視線が集まるように、同じ大きさのシラカバを右に配して対比させた。
ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F16　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・吾妻山浄土平

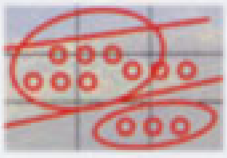


点在する紅葉をパターン構図に応用する

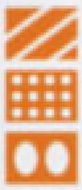
奥行き感を出すために大切な下部の陰の広さ



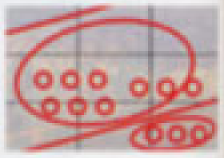
晩秋の尾根からのなだらかな斜面に点在するナナカマドの紅葉。雲間からの光が正面の核心部に当たった瞬間をねらう。奥行き感を出すための下部の陰の広さが大切だ。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F16　1／2秒　−2／3補正　RVP　PLフィルター使用　新潟県・火打山



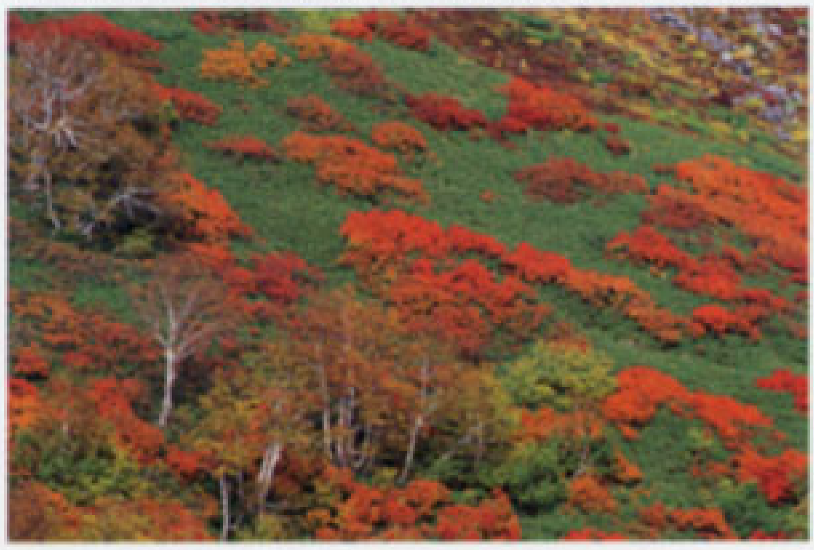
夕照に照らし出された紅葉の美しさを引き出す



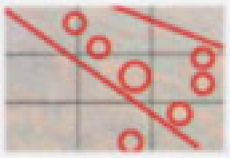
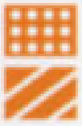
緑岳の山腹斜面には紅葉したダケカンバがパターンで点在していた。雲間からの夕照がダケカンバをドラマチックに照らすタイミングをはかる。上下に暗部をもってきた。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　−2／3補正　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山緑岳



左隅のダケカンバで単調な画面に変化をつける



秋も深まる大雪山の銀泉台の紅葉風景。左から右になだらかな山腹斜面に、こんもりと点在するナナカマドの紅葉の繰り返しを、モザイク状に引き出す。左隅のダケカンバで、単調になりがちな画面に変化をつけた。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　北海道・大雪山銀泉台

被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

海と岩

海の広がりは岩をアクセントに、海岸風景は岩をメインに

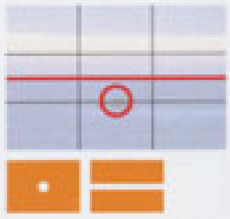
海と岩のどちらをメインにするかで、印象は大きく変わる。海を描く場合はスケール感を出すため、副素材として岩や島を配置する。海岸風景は、岩や断崖をメインに海と組み合わせると表現しやすい。

ワンポイントとなる要素を画面内に取り入れる

黒い岩礁に白く泡立つ波をポイントに構図する

中央１点構図で白波立つ岩礁をポイントとした。水平線の位置は、夕焼けの雲の層のボリュームとの絡みで上下のバランスのよい所にもってくる。また、白波が目立つようにスローシャッターを使用して変化をつけた。

ニコンF3　AiAFニッコールED180ミリF2.8D　F16　16秒　＋1／2補正　RVP　新潟県・佐渡島外海府



沖に浮かぶ小島に色合いなどで視線を集める

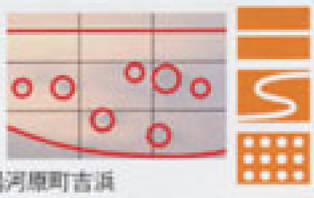
西伊豆の田子の夕景。水平線にシルエットで浮かぶ小島に中央１点で視線を集めた。水平線の位置は、赤く染まる空と海面のスペースや色の濃さによって決まる。

ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　30秒　＋1／3補正　RVP　静岡県・西伊豆町田子

海面に広がりを出し、点在する岩を強調する

日の出前、海面に点在する岩をパターンで描く。構図的には、下の砂地の曲線の描くカーブで海面の広がりを引き出すため、水平線は上にもってきた。

ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1分　＋2／3補正　RVP　神奈川県・湯河原町吉浜

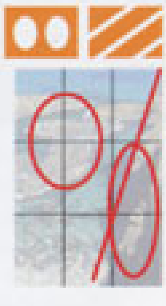


縦位置画面・横位置画面で変化する構図の印象

縦位置で断崖の高さを強調する

夏の海を背景に、斜線構図になった断崖の高さを引き出す。と同時に、断崖と海の平らな岩面との対比で、画面に奥行き感が生まれた。

ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／8秒　RVP　PLフィルター使用　京都府・丹後町



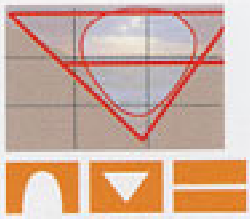
横位置で夏の日本海の穏やかさを引き出す

コバルトブルーに輝く日本海の魅力を引き出すのがねらい。右の陰になった断崖と海に浮かぶ平べったい岩を対比させつつ、夏の穏やかさを描き出した。

ニコンF4s　トキナーAFプロ28〜80ミリF2.8　F11　1／15秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　京都府・丹後町

シルエットの岩を利用する

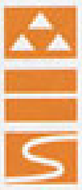
雲間から光が差し込んだ夕焼け空の印象を強める

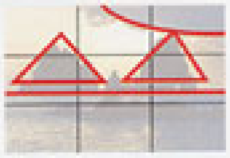


逆三角形のシルエットの岩礁を手前に置き、V字形に垣間見るように開かれた視線の先に、雲間から光が差し込んだ夕焼け空が見える。空と海面を印象強くさせる囲み構図だ。

ニコンF5　トキナーAFプロ28〜70ミリ　F2.8　F11　オート　−1／3補正　RVP　島根県・大社町日御碕

三角形をした岩のシルエットと雲で太陽を隠す

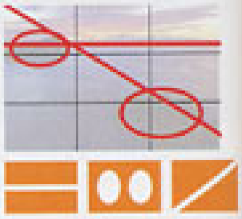




中央に水平線を置き、沖合いの岩を左右に配置する。岩のシルエットで画面に奥行きとドラマ性が引き出せた。また、日の出の太陽が雲で隠れるように、黒い雲がくるタイミングをはかる。

ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　1／4秒　−2／3補正　RVP　静岡県・南伊豆町蓑掛岩

岬と岩のシルエットの位置で距離感を出す

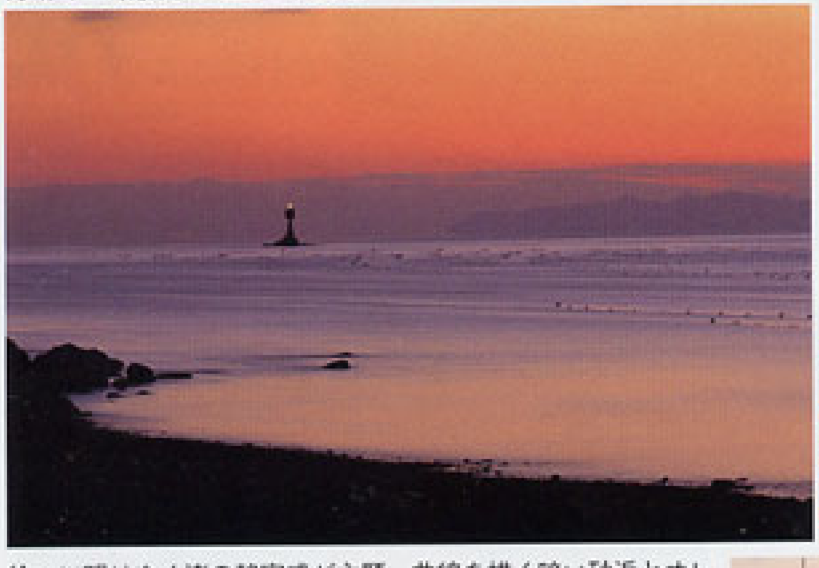


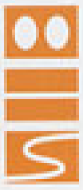
朝焼けを迎える海の静寂感を描く。対角線上に、左上に突き出した岬、右下に岩のシルエットを配し、中間の滑らかな海の広がりと距離感を引き出す構図を取った。上部の朝焼けの細長い雲の形によって水平線の位置は決めるが、下部に暗部をもってきて視線を水平線の彼方にもっていくようにしたい。

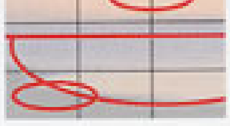
ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　−1／3補正　RVP　東京都・小笠原父島

曲線構図と水平線構図を組み合わせる

砂浜と朝焼け空の対比バランスで水平線の位置を決定







徐々に明けゆく渚の静寂感が主題。曲線を描く暗い砂浜とオレンジに染まる朝焼け空を対比させ、水平線の位置も中央やや上に決める。暗い砂浜で安定感が出て、画面に高度感も生まれた。

ニコンF3　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F11　16秒　+1／2補正　RVP　長崎県・島原湾

白浜が描くC字曲線で視線を画面奥に導く

明け方の薄明の穏やかな磯の風情を引き出すのがねらい。残月が見えるよい位置にするため、水平線を真ん中にもってきて上下のスペースのバランスを保つ構図とした。

ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F11　8秒　+1／3補正　RVP　茨城県・北茨城市五浦海岸

被写体をいかす基本構図の組み合わせ

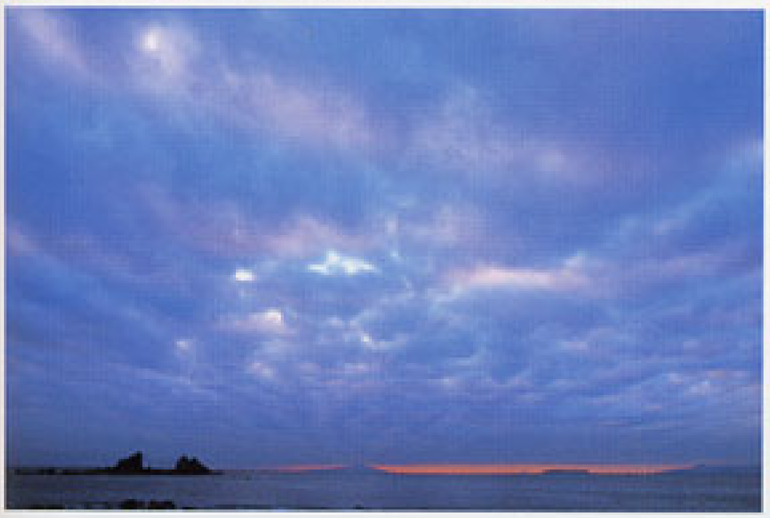
空と太陽

太陽、空、雲の組み合わせが風景をドラマチックにする

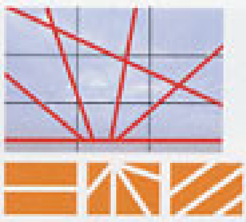
太陽の大きさや位置は重要なポイントだ。しかし、人目を引くには、朝焼けならば当然空の色合いを引き出さねばならず、雲も空を広く見せたり、抑圧感を出したりするので、雲の形もよく観察したい。

雲の形を構図形成に利用する

雲をいかして朝焼け空の広がりを強調する

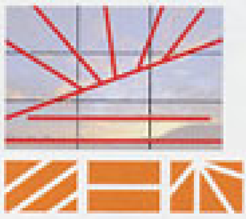


真鶴海岸の冬の朝。朝焼け空にほんのりと色のついた雲が、中央の水平線の彼方から放射線状に浮かぶ。水平線の位置を下部に置くことで、雲をいかして空の広がりを強調することができた。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ16　２秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴海岸



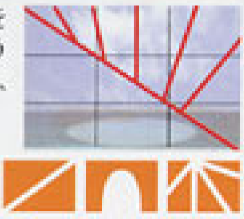
放射状に広がる朝焼け雲で空のスケール感を出す

秋山郷での朝焼け風景。日が昇る前、上空の雲に赤みが差してくる。画面左下から右上にのびる雲の層によってつくられた斜線上から、左上に朝焼け雲が放射線状に広がっていく。画面下部のフレーム枠ぎりぎりに、稜線のシルエットとなった水平線をもってきて、空のスケール感と開放感を出した。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　新潟県・秋山郷



夏雲の青空へ広がる上昇感をうまくとらえる

夏の開放感を表すように、夏雲が青空に放射線を描き、左上から右下にのびる対角線にのっかるように広がっている。うまく雲の上昇感が出るように、タイミングを見はからってシャッターを切った。
ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　東京都・小笠原父島



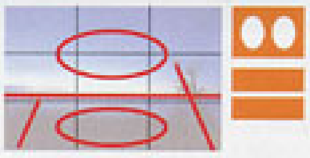
空のグラデーションとシルエットの形状に注目する

画面の比重は上空にもたせて明暗対比をはかる

海面のなだらかな曲線と水平線の組み合わせ構図。夜明け前の海面と空の明暗差を対比させた。画面上下の明るさの層の割合によって水平線の位置を決める。
ニコンＦ４ｓ　Aiニッコール24ミリＦ２Ｓ　Ｆ11　１分　＋１／３補正　RVP　和歌山県・串本町橋杭岩

白骨林で挟み込み、空への広がりを引き出す

画面中央に水平線を置く。明け方のハーフトーンの空を画面左右の白骨林で挟み込み、上空への広がりを引き出した。下部の陰と上部の明るさの対比も効果的だ。
ニコンＦ４ｓ　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　16秒　＋１／３補正　RVP　群馬県・六合村渋峠



雲を巧みに活用する

太陽にかかる雲をタイミングを見はからって利用する

太陽の上昇感を出すため、雲で太陽の上弦が欠けるタイミングを見て、中央１点で作画。流れる雲の動感を引き出し、輝く雲の位置によって太陽を中央にもってくる。
ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED500ミリＦ４Ｐ　Ｆ16　１／15秒　＋1･1／３補正　RVP　神奈川県・国府津海岸

太陽をいかすため、静かな中にも雲のリズム感が大切

視線を集めるアクセントとして中央１点構図で太陽をとらえた。太陽の位置と大きさ、水平線の位置が重要で、下部の黒い陰、中層に漂う雲を中心に画面バランスをはかる。
ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　オート　＋２／３補正　RVP　静岡県・伊豆土肥海岸

前景のシルエットで構図形成する

岩のシルエットと太陽が引き合う運動性を盛り込む

日の出の三ツ石の神々しさを出す。三ツ石のシルエット上に太陽を置き、シルエットと太陽が引き合う動きをもたせた。また雲をかけて太陽の上昇感も表す。
ニコンＦ４ｓ　AiニッコールED500ミリＦ４Ｐ　Ｆ16　１／２秒　＋２／３補正　RVP　神奈川県・真鶴岬三ツ石

太陽がシルエットを転がり落ちていくイメージ

対角線上に真鶴岬のシルエットを配置し、太陽が右上から斜線を転がるイメージで作画。太陽が昇りきらないうちに、木立のシルエットに重ねた。
ニコンＦ４ｓ　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ16　１／２秒　－２／３補正　RVP　神奈川県・真鶴岬

太陽の配置を大胆に動かしてみる

太陽の垂直にのびる水面反射をいかす水平線の位置

太陽の水面反射が長い垂直線を描く。これに対比呼応するように島を入れ、水平線を決定。太陽に向かう船にも似た島の位置が決まると太陽の位置も決まる。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／４秒　＋１／３補正　RVP　滋賀県・マキノ町琵琶湖

太陽の上弦を少し雲からのぞかせて不気味さを強調する

朝焼けの太陽を中央１点構図で撮る。ただし、ドラマチックさを出すため、黒雲に太陽がかかったところをとらえ、マイナス補正をかけて怪しげな不気味さを表現した。
ニコンＦ４ｓ　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ11　１／２秒　－２／３補正　RVP　静岡県・富士宮市田貫湖

被写体をいかす基本構図の組み合わせ

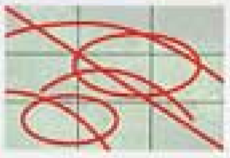
花

花から受けたイメージを作画することがいちばん重要

花や植物は、大きさ、色、形のどこを引き出すかで、印象は大きく違ってくる。色や形だけを整えすぎると、単調になってしまうので、花から受けた感情をいかに引き出すか、雰囲気づくりが必要だ。

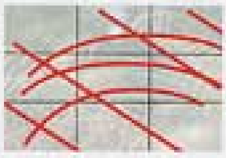
ボケの利用で、構図の軸となる曲線をいかす

新芽の情感を出すため、やわらかくボカす



カラマツの新芽を対角線に配置する。手前の塊を大きくボカし、中央右の塊と大小の対比で見せる。雨滴をためたカラマツの芽吹きを描いた。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／30秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・笠取山

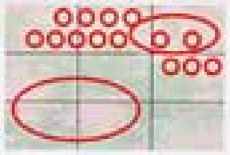
ボケた背景に明るい空間を入れ、視線を抜かす



雨にしっとりぬれた初秋のススキの穂の情感を出す。水滴の重みを増してしなやかにのびるススキのカーブを、斜線構図でゆったりと見せる。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F2.8　1／15秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯

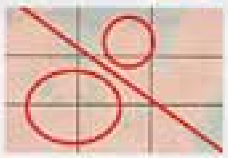
前ボケを使った構図決定法

ボケを大きくしてソフト効果をねらう



花咲くレンゲの繰り返しパターン。単調な画面になるのを避けるため、前ボケをいかしたレンゲの層と奥の層を対比させ、変化をつけた。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／60秒　RVP　PLフィルター使用　茨城県・旭村

ボケた紅葉とピントの合った紅葉を対比させる

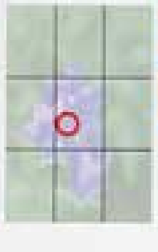
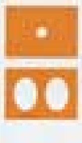


対角線を境に、左の大きくボケた紅葉の塊と、右のピントの合った紅葉の塊を、対比させた。バックの緑でヤマモミジの鮮やかさを強調する。
ニコンF4s　タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ　F2.8　1／30秒　RVP　福島県・昭和村矢ノ原湿原

背景のボケをいかした構図決定法

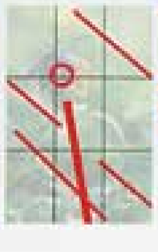
中心の花のまわりのボケでボリューム感を出す

白山山頂に咲くイワギキョウ。小さな花なので、中央1点で塊としてとらえた。背景の緑との対比した配色を考え、ピントを浅くし花を浮き立たせる。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／125秒　＋1／3補正　RVP　石川県・白山山頂

半逆光の明るい背景でユリのけなげさを出す

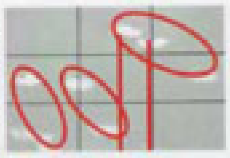
丈15センチほどのクロユリのけなげさがねらい。茎を少し左へかしがせて垂直線に一種斜線の効果をもたせている。ピントの合った花と向こう側の花を対比させ、半逆光線で背景を明るく見せた。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／250秒　＋1／3補正　RVP　石川県・白山山頂



アングルを変えて撮影した同一被写体の構図の違い

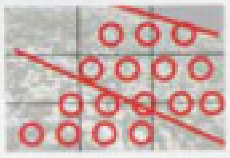
ローアングルで見上げ、茎ののびやかさを強調する

垂直線を基調としたパターン構図。花をマスとしてとらえた3列の対比の繰り返しが、パターンのリズムを生む。茎ののびやかさを強調するため、ローアングルで見上げた。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　オート　RVP　PLフィルター使用　福島県・裏磐梯桧細野



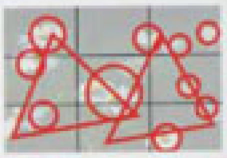
見下ろすようにして広がってくる花の密生感を引き出す

手前に広がってくる花をとらえた。カメラアングルの高い所から見下ろして、花の密生感を引き出す。画面の外への花の進出性も出し、斜線構図をいかして花の繰り返しパターンとした。
ニコンF4s　Aiニッコール24ミリF2S　F16　1／8秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　静岡県・賀茂村黄金崎



花びらを見せることで、花ののびやかさとリズム感が出た

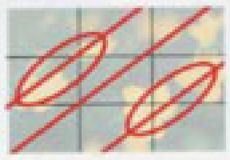
点在する花のパターン構図を取りながら、中心の花の塊にピントを合わせて中央1点構図とした。また、点在する花がつくる三角形が全体のバランスを保っている。花びらを見せることで、上に向かう花ののびやかさと四方に散らばる花のリズム感が出た。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／250秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・箱根仙石原



対比を強調させるための構図

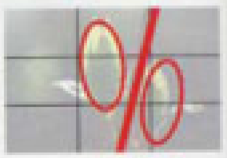
斜線でつながる花のリズムの繰り返しで対比を強調する

黄色いヤマブキの花を、右上から左下への対角線の左右に対比させて配置した。2本の斜線でつながる花が繰り返しのリズムを生む。後ろにボケのリズムも入れ、変化をつけた。
ニコンF4s　タムロンSPAF90ミリF2.8マクロ　F2.8　1／125秒　＋1／3補正　RVP　長野県・堀金村



斜線をいかし、透過光で透けた葉陰を対比する

アジサイの新芽。少し右に傾く茎の斜線をいかし、透過光で透けた葉陰がくっきり対比できるようなカメラ位置を慎重に選ぶ。画面に変化を出すため、背景に緑の葉のボケを入れた。
ニコンF4s　Aiマイクロニッコール105ミリF2.8S　F2.8　1／250秒　＋1／3補正　RVP　神奈川県・箱根乙女峠



被写体をいかす基本構図の組み合わせ

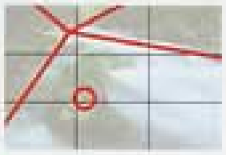
川と滝

遠近法を基本に、奥行き感をいかに引き出すかがポイント

大切なのは、滝や川のどこを盛り上げて描写するかということ。明暗の対比で見せたり、スローシャッターで流れの流動性を引き出す。縦位置では高さなどを、横位置では広がりや奥行きを強調できる。

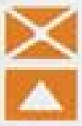
スローシャッターで撮影するときの構図形成

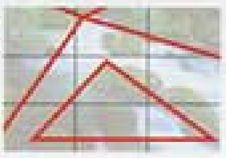
スローによる流れの流麗感が集中力を高める



梅雨の奥入瀬渓流。中央の岩にピントを合わせ、上流への視線の集中力を引き出す。岩の配置を遠近法の中心点に近づけると集中力も強まる。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　4秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・奥入瀬渓流

スローによる白濁した流れで遠近感を強調

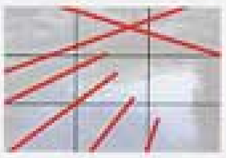




中央右の三つの岩がつくる三角形の上流に向かう方向性で、奥行きを出している。カメラアングルは遠近感を出すために高くした。
ニコンF4s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　4秒　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・奥入瀬渓流

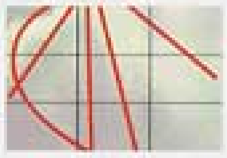
映り込みの絵柄と水の模様で遠近感を出す

空の乱反射のてかりで川面の流動感を出す



画面左のぬめっとした流れのラインの斜線が、視線を遠近法の中心点に集める効果を出している。また、右の岩陰は奥行きを出すために重要。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　1／8秒　＋2／3補正　RVP　新潟県・秋山郷中津川

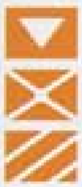
映り込みの色合いと反射で奥行き感を出す



放射線状の倒影像と左のシルエットの曲線で奥行きを出す。映り込みの影が濃く見える幅が大切で、ローアングルでは影の伸張感がなくなる。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F4　1／30秒　RVP　PLフィルター使用　大分県・由布川渓谷

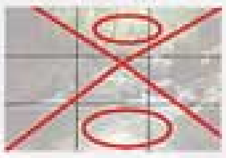
下部との対比で上部奥に開放感を出す

上部の広がりを、横たわる岩で引き締める



逆三角形で天部に開く新緑の明るさがメイン。奥まるほどに色合いが薄く視界が開けていく。手前に強い岩肌を斜めに配置して画面を引き締めた。
ニコンF5　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F16　オート　RVP　PLフィルター使用　静岡県・天城清沢渓谷

上の新緑の明るい部分で奥行き感を出す



夏の渓流の明るさや清涼感を描くのがねらい。遠近法のX形に画面を区切ると、上と下が明るく対称的。上の新緑の明るい部分で奥行きを出す。
ニコンF4s　タムロンSPAF20～40ミリF2.7～3.5　F11　1／4秒　＋1／3補正　RVP　山梨県・丹波山村泉水谷

横位置画面で撮影するときの構図

背景の緑の岩苔と下部の白いにじみが作画ポイント

岩清水の流れ落ちる垂直パターン構図。４本の白糸状の流れのリズム感を出すには、滝の幅が大切でカメラ位置が重要。後ろの三角形に広がる岩苔で滝の落差を強調した。
ニコンＦ４s　Aiマイクロニッコール105ミリＦ2.8Ｓ　Ｆ11　１秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　山梨県・丹波山村泉水谷

幅広い滝の左右の広がりを描く

三角形構図の滝の広がりを描くには、カメラ位置が重要だ。スローシャッターで放物線をゆったりさせ視線を上に向けた。右端の岩陰の斜線を強調して滝の流麗さを出す。
ニコンＦ４s　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　４秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　青森県・奥入瀬渓流銚子大滝

日本の渓流のもつこまやかさを引き出す

崖に密生した苔の中を小滝が流れ落ちる、日本の渓流のもつこまやかさを描く。流れは曲線が基調で、横位置で左右の広がりを出し、苔むす岩の凹凸で遠近効果を生んだ。
ニコンＦ４s　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　２秒　RVP　PLフィルター使用
山梨県・丹波山村泉水谷

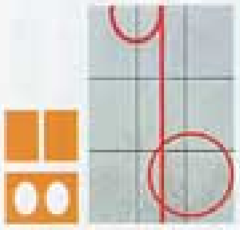
ジグザグ地形と白濁した斜線の流れが奥行きを生む

幅広の台形を落ちる流れに清涼感を求める。台形のジグザグ地形と左の白濁した斜線の流れが奥行きをもたせた。正面に回るとのっぺりとした滝描写に終わってしまう。
ニコンＦ４s　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ11　１秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用　熊本県・菊池渓谷

縦位置画面で撮影するときの構図

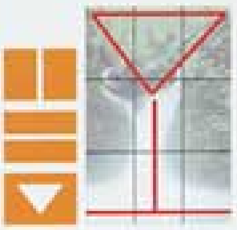
新緑の木立を滝の上下に置き、高さを表現

ヒスイ峡の小滝。作画のポイントは滝の左上と右下に丸い新緑の木立の塊を対比配置させた点。滝の高さが表れ、下の新緑をフレームぎりぎりで切ることで滝の流れを受け止めた。また滝と新緑を重ねて落差を助長した。
ニコンＦ４s　Ａｉ ＡＦズームニッコールＥＤ80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　１／２秒　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用
新潟県・糸魚川市ヒスイ峡



逆Ｔ字形の滝の上下の伸張感を画面全体に出す

滝の中央にある岩を境にして、上部に広がる逆三角形の木立と対称的に、滝の両側から丸く張り出す線のおもしろさをいかして逆Ｔ字形の滝の落差を強調。フレームいっぱいに下部に白濁部分を置いて上昇感を引き出した。
ニコンＦ４s　トキナーＡＦプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　４秒　プラス２／３補正　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用
山梨県・丹波山村三条沢



被写体をいかす
基本構図の
組み合わせ

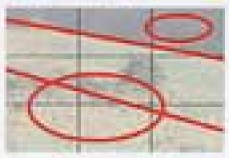
草原

アクセントになるものを配置してスケール感を引き出す

草原描写は広がりが重要だ。ただ、だだっ広く撮っても無表情な草原になるので、木立、光がつくる陰影、色合いの違いで奥行き感を出したい。水平線の位置は上部がよいが、手前にアクセントが必要だ。

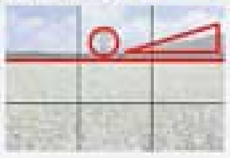
ポイントとなる木１本で写真の味つけをする

コナシの木で、キスゲのボリューム感を出す



夏の高原の開放感がねらい。手前の黄色のニッコウキスゲの丘の明るさを、奥の暗いスペースと対比させて強調。コナシの木はアクセント。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　１／８秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・霧ヶ峰

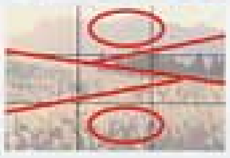
中央１点で木に視線を集め、スケール感を出す



水平線を上３分の１にとどめて、ソバ畑の広がりと雲の上昇感や開放感を出した。上部で雲を切って広がりを強調し山影で視線を右に向ける。
ニコンF４s　Aiニッコール24ミリF２S　F11　１／15秒　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用　長野県・開田高原

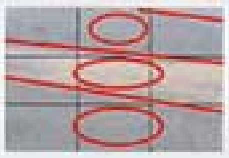
光線をコントロールして構図に取り入れる

斜線状に並ぶススキの輝きを木立の陰で強調



夕照に輝く曽爾高原のススキ。スギの木立の黒い陰を入れたり、稜線を天部ぎりぎりにすることで、いっそうススキの輝きがきわだった。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　１／８秒　＋１／３補正　RVP　奈良県・曽爾高原

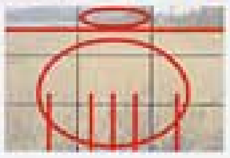
日陰との配分を考え、輝くススキをとらえる



ススキの原に朝の斜光線がつくった帯に引かれた。上下の日陰の部分を多くして光の帯をいかし、光の帯の右下がりの傾きで動きが出た。
ニコンF４s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　１／２秒　−２／３補正　RVP　PLフィルター使用　奈良県・曽爾高原

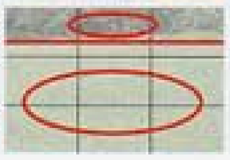
画面全体に草原をフレーミングする場合

水平線をより遠くにして草原の広がりを出す



色づくクサモミジの広がりを出すため、カメラ位置を下にし、水平線をより遠くに置く。トーンの違う手前の茎で奥行き感を助長した。
ニコンF３　Aiニッコール24ミリF２S　F16　１秒　RVP　PLフィルター使用　群馬県・尾瀬沼

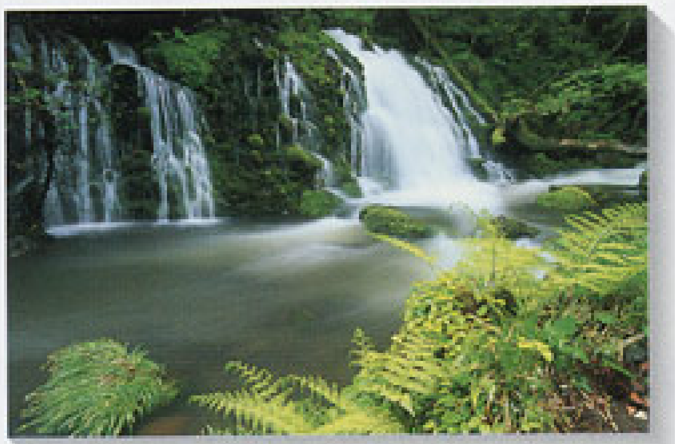
濃緑の奥との色の対比で明るい草原を強調する



奥の左右に広がる倒木に視線を集め、高原の明るい黄緑と奥の濃緑を対比させ、草原のさわやかさを出す。黄色のキンポウゲで変化をつけた。
ニコンF４s　トキナーAFプロ28〜70ミリF2.8　F11　１／15秒　RVP　PLフィルター使用　青森県・八甲田田代平

フレーミングから構図の決定まで

フィールド実践篇



構図の決まったよりよい写真を仕上げるには、まず被写体の魅力を引き出すため、風景のどこを切り取って作画するかが、大切になってきます。ここでは、いくつかの実例をあげて、そのフレーミングから画面を整える構図の決め方までを展開しています。ぜひ、あなたの撮影のヒントにしてください。

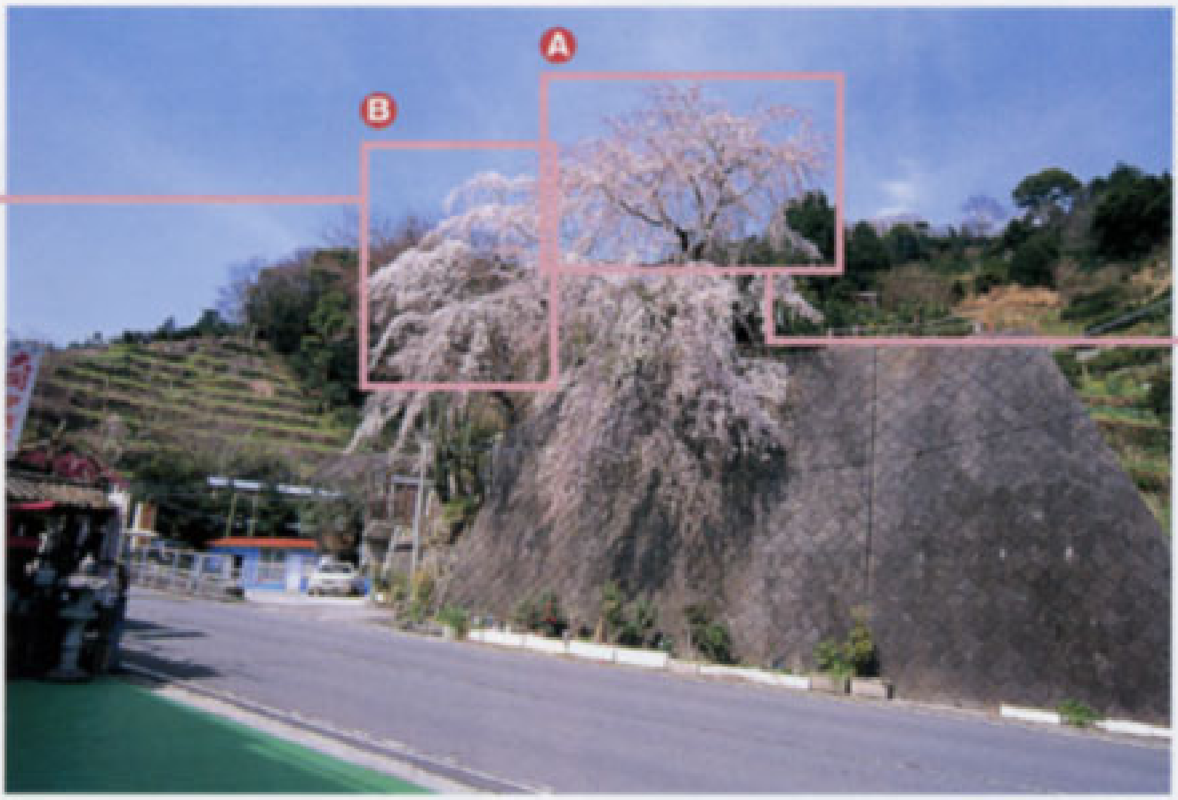
春

［サクラ］

枝のしだれ方を華麗にとらえる

（撮影地／神奈川県・足柄下郡湯河原町）

●撮影現場状況



サクラを探して車を走らせていると、車道の崖上に七〜八分咲きになっているシダレザクラが目に入った。よく見れば、それぞれ木の形や枝の張り出しとしだれ方、色合いも少し異なる2本である。その枝ぶりの違いやしだれ具合の異なりを撮り分けてみた。

A バランスと華やかさを盛り込んだ構図

左右への張り出しを正面から

A-1

上段部のしだれ感に注目する

A-2

上段と下段のバランスをとる

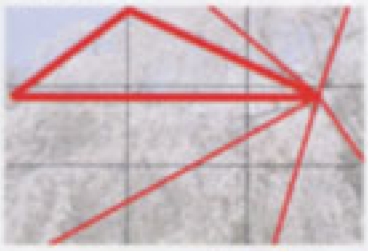
A-3

手前の、しだれの豊かさに奥の形のよさを加え、豪華に描く

A-完成

まずは手前に見える上下2段に分かれたシダレザクラに注目した。初めに**A-1**では、上段の左右への形のよい広がりを中心に、崖の真下から振り仰ぐ。次に**A-2**では、上段のすっとした幹の上昇感と枝の広がりを引き出した。**A-3**では、下段のボリュームが上段のしだれ感を受けて左右へ広がる様子を強調。そして**完成作**では、下段の張り出しの豊かさをメインに、奥の丸みのあるシダレザクラの形のよさを加え、3分割法でバランスと華やかさを盛り込んだ。

ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用

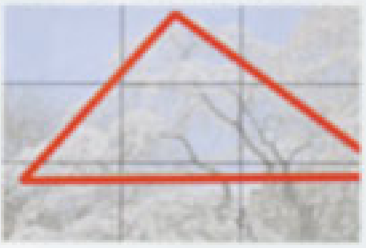


B 形の整った中心部を三角形構図でまとめる

画面の中の無駄な要素を除き、シダレザクラの形と枝ぶりをすっきり見せる

B-完成

ニコンF5　AiAFズームニッコールED80~200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用



奥の丸みが豊かなシダレザクラの美しさに注目した。まず**B-1**では、ファインダーいっぱいに降り注ぐ様子を切り取る。次に**B-2**では、松茸を思わせる丸く枝ぶりのよい主幹を中心に、シダレザクラの上昇感を引き出すフレーミングを取る。そして**B-3**では、まろやかな放物線を描くシダレザクラの美しさを横位置で表し、さらに、そのもっとも形の整った中心部を三角形構図にまとめて**完成作**とした。

真下から仰いで、しだれ落ちる圧迫感を強調する

B-1

丸みを帯びた形のよいシダレザクラの上昇感を表す

B-2

松茸のような特徴のある美しさを引き出す

B-3

［滝］

岩盤の造形をいかして渓流美を描く

（撮影地／秋田県・象潟町元滝渓谷）

●撮影現場状況

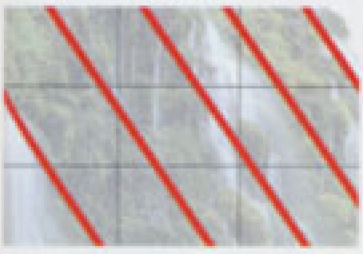
鳥海山に降った雨が地中にしみ、伏流水となって現れたのが元滝渓谷。岩盤の随所から吹き出すさまざまな形態をした清水の姿。それと、苔むす岩盤のバラエティに富んだ表情の豊かさを、繊細な清水とうまく融合させ、渓流美を表現する。

A 岩の形状を利用した緩やかな斜線構図

A-完成

苔むした岩盤のみずみずしさと伏流をバランスよくまとめる

ニコンF5　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11
オート　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用



川辺のシダの緑と絡める

A-1

伏流の全景をバランスよくする

A-2

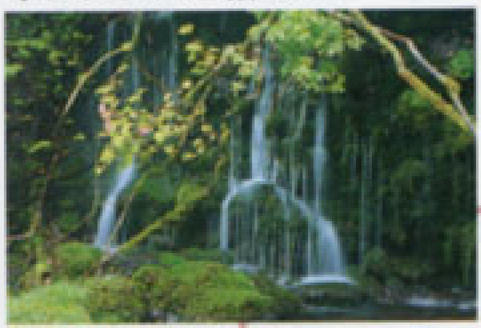
勢いのある白滝を主題にまとめる

A-3

元滝全体を見渡し、**A-1**では川縁に見えるシダの新緑の鮮やかさをメインに元滝のあらましを伝える。次に**A-2**では画面右手の白滝をメインに、しっとりした元滝を情緒的に表現。**A-3**ではメインの白滝の水勢の激しさを核に、流水の美しさと勢いある姿をとらえる。そして**完成作**で、苔の緑の美しさを丸みのある岩の形状を利用して増幅させ、伏流水を画面のアクセントとして、緩やかな斜線構図にまとめた。

B 中央１点構図を取って集中力を加える

キシツツジと絡める



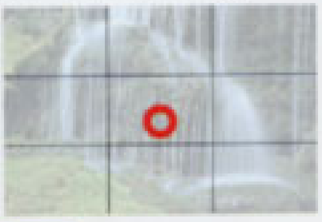
B-1

清水をメインにツツジを添える

B-2

白糸状の清水と苔むす岩肌の美しさを引き出す

ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　オート　＋１／３補正　RVP　PLフィルター使用

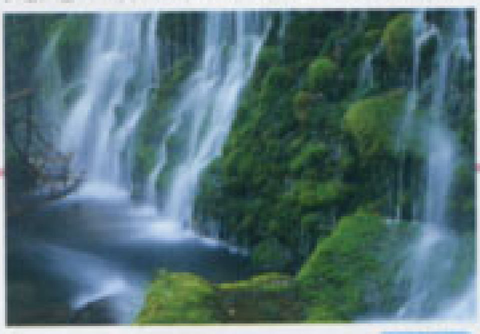


B-完成

まず**B-1**で、現場カット左隅にのぞくキシツツジと白糸状の流れを絡め、季節感を表した。**B-2**ではややズームアップして、白糸状の流れをメインにツツジをアクセント的にあしらって変化をつける。**完成作**では、清水を浴びる岩苔のみずみずしさを主題として中央１点構図を取り、集中力を増した。

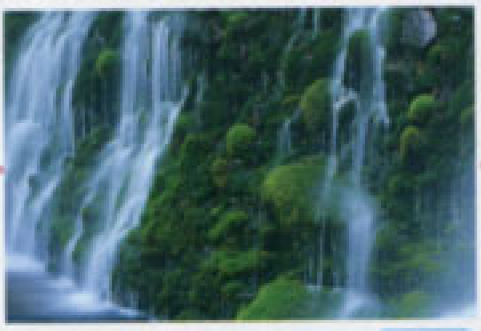
C 変化のある垂直線構図で滝の流麗感を出す

元滝の縁から下流全景をねらう



C-1

ズームアップで立体感を出す



C-2

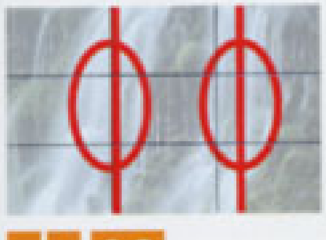
白糸状の流れのリズムを主題に描く

C-3

岩苔の形のおもしろさと清水の美しさで流麗さを引き出す

C-完成

ニコンＦ５　AiAFズームニッコールED80～200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ16　オート　＋１／２補正　RVP　PLフィルター使用



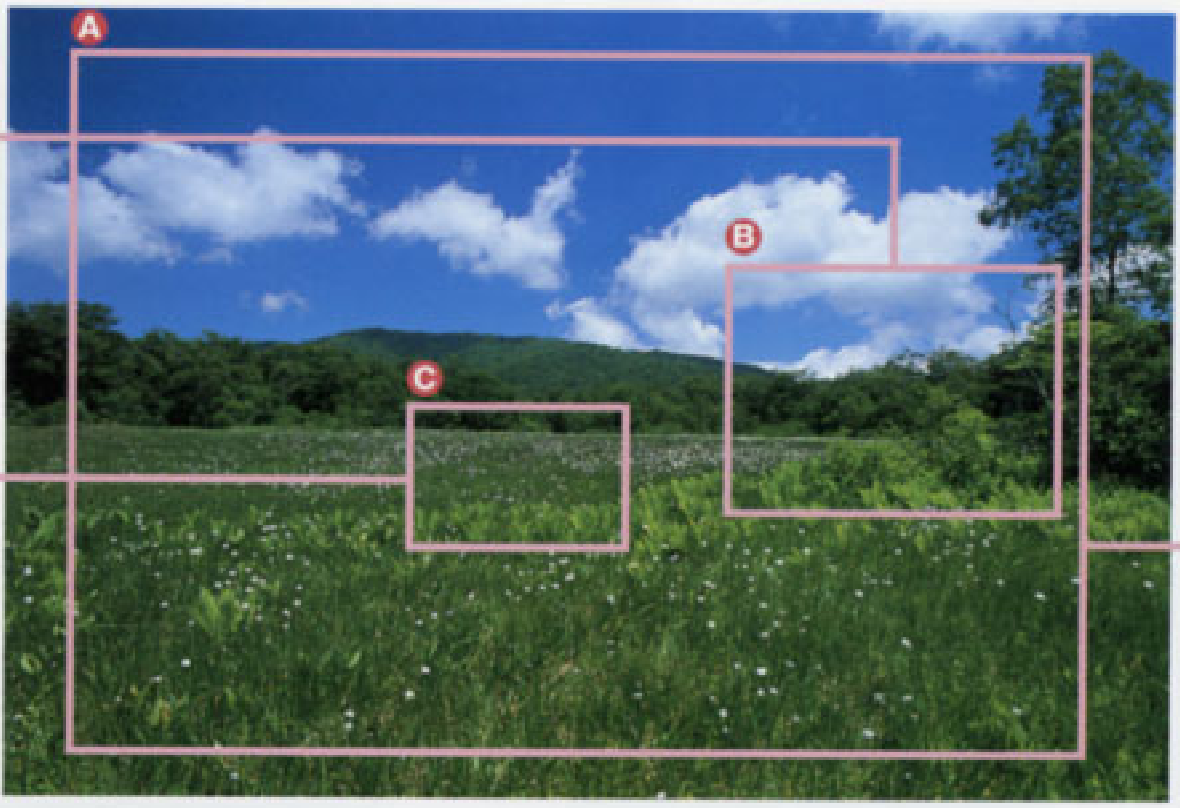
ここでは、まず**C-1**で元滝の上端へ移動して滝の縁から下流へ向かい苔むす岩肌をなめるようにとらえた。次に**C-2**で、やや左前方へせり出した岩肌の部分をズームアップして立体感をもたせた。さらに**C-3**では、岩肌を滑る白糸状の流れを左右に配置して画面をリズミカルに見せる。そして、丸々と苔むした形のおもしろい突起を画面のアクセントにとらえ、そこを支点に左右に分かれて滑る伏流水の流麗感を最大限に引き出す、変化のある垂直線構図でまとめたのが**完成作**である。

［湿原］

花の群生や浮かぶ雲で季節感を出す

（撮影地／群馬県・水上町武尊山）

●撮影現場状況



武尊山の山中に広がる湿原では、７月中旬ごろワタスゲをはじめ夏の草花が群落をつくる。そのワタスゲの群落と、湿原の緑をいっそう明るく鮮やかにするシダの新緑、それに青空に浮かぶ形のよい綿雲を組み合わせ、季節感をうたってみた。

A 綿雲の勢いにワタスゲがこたえる対比構図で動感を盛る

梅雨末期。しばらく続いた雨が上がり、夏の到来を思わせるカラッと抜けた青空が広がった。**A-1**で、上空に現れた綿雲をすかさずとらえ、湿原上にリズミカルに配す。そして**A-2**では、次々と姿を変える綿雲をタイムリーに追った。さらに**A-3**で、湿原を鮮やかに見せるシダをリズミカルに配置して、青空を走る綿雲と対比的に組み合わせる。**完成作**では、綿雲のボリューム豊かな勢いに、湿原のワタスゲがこたえるように対比構図を取り、動感を盛った。

湿原の上空を渡る綿雲の形とリズムを引き出す

A-1

上空の綿雲をメインにする

A-2

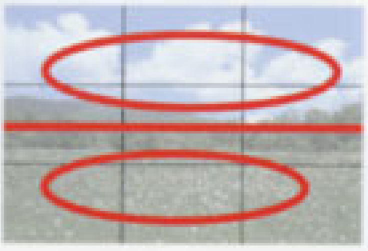
綿雲と湿原のシダをバランスよく置く

A-3

A-完成

勢いのよい綿雲とワタスゲをバランスよく組む

ニコンＦ５　タムロンSPAF20〜40ミリＦ2.7〜3.5　Ｆ16
オート　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用



B 湿原を対角線で等分に割って安定感を高めた構図

明暗のコントラストを利用し、綿雲をきわだたせる

B-1

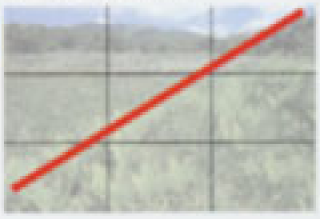
シダをメインにして雲で動感を盛る

B-2

B-完成

湿原を縁取る新緑のシダのラインを対角線上に配置する

ニコンF5　タムロンSPAF20〜40ミリF2.7〜3.5　F16　オート　−1／3補正　RVP　PLフィルター使用



ここでは、雲の影響が及ぼす光線の変化を作画に取り入れた。まず**B-1**では、日陰となった湿原のスペースを広く取り込み、その明暗のコントラストを利用して雲の存在を引き立てる。次に**B-2**で、シダのスペースに対して、アクセントである雲の強度バランスをはかり画面構成をした。そして、**完成作**ではシダの緑のラインののびやかさで視線を対角線上に集め、湿原を等分に割って安定感を高めた構図とした。

C 群生するワタスゲの美しさを引き出すためのパターン構図

広角で群生全体をとらえる

C-1

奥の湿原縁で距離感を出す

C-2

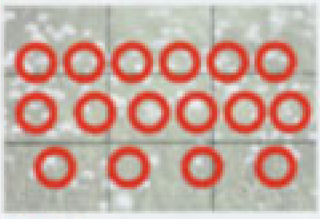
望遠でズームアップし、ワタスゲの密度を高める

C-3

望遠でワタスゲのリズム感をパターン的にとらえる

C-完成

ニコンF5　トキナーAFプロ300ミリF2.8　F2.8　オート　+2／3補正　RVP



ここでは、湿原に群生するワタスゲをメイン被写体としてさまざまな撮り分けを楽しむ。まず**C-1**は、広角レンズで湿原に群生するワタスゲの環境を表した。次に**C-2**で、ややズームアップしてワタスゲの密度を少し高め、奥のボケた湿原の縁で距離感を盛り込む。そして**C-3**では、望遠レンズの圧縮効果でワタスゲの密度を高めた。さらに**完成作**では、ボケたワタスゲの描くリズム感に注目し、その美しさを引き出すためパターン構図を取った。

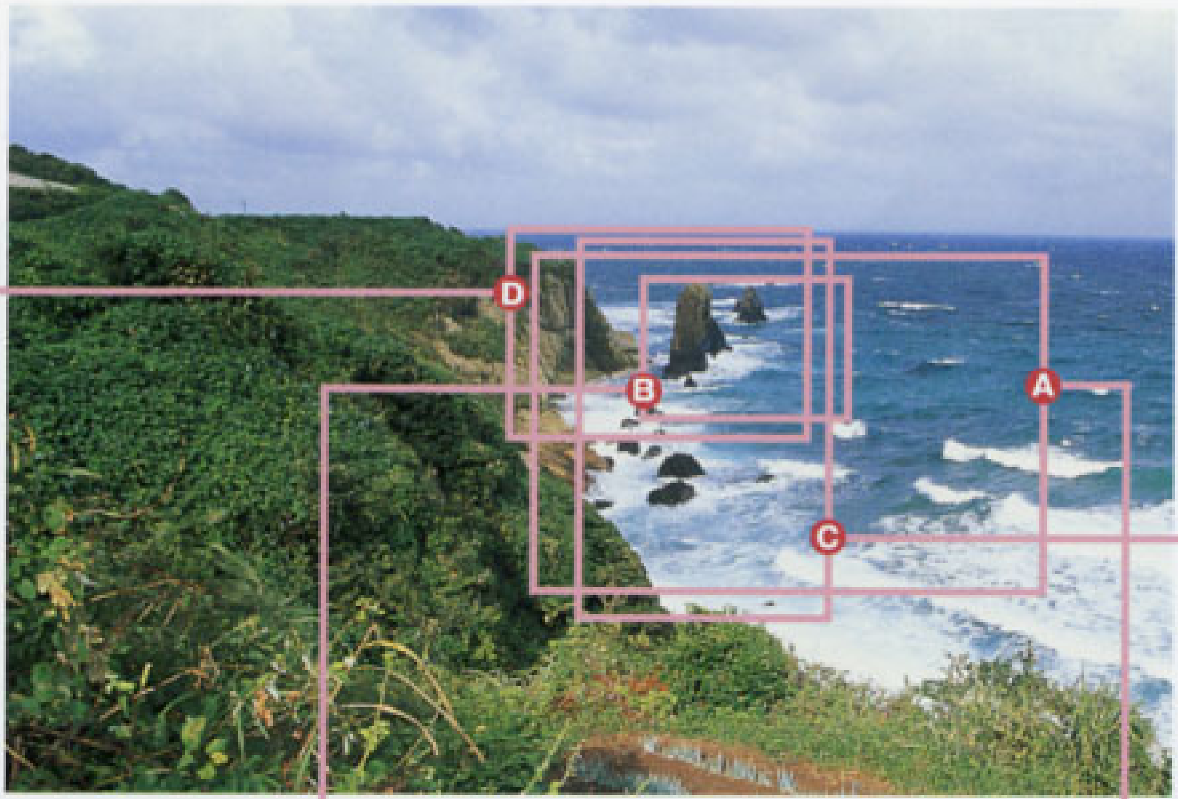
フレーミングから
構図の決定まで

夏

［ 海 ］

荒れた海面と岩を組み合わせる

（撮影地／京都府・丹後町）



●撮影現場状況

日本海の丹後半島にある屛風岩。台風接近の影響で海上、海岸ともにシケている。その荒れた海面と断崖に隣接する屛風岩を組み合わせると、幾通りかに撮り分けられる。メインの屛風岩の扱いに注目してほしい。

B 屛風岩に打ち寄せる波をメインにする

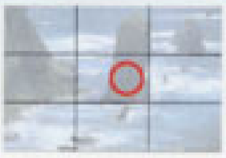
屛風岩をメインに、打ち寄せる荒波のタイミングをはかる。そのマス（塊）と右上のやや小さめな岩とを対比構図でまとめた。
ニコンＦ４s　トキナーAFプロ300ミリＦ2.8　Ｆ2.8　１／250秒　＋２／３補正　RVP

A 断崖と海面を組み合わせ広がりを出す

荒れる海を縁取るように手前の断崖を取り込んだ。その緩やかな海岸線で曲線構図を取り、視線を屛風岩へ導いた。
ニコンＦ４s　トキナーAFプロ28〜70ミリＦ2.8　Ｆ11　１／８秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用

D 屛風岩をメインに安定感と迫力を出す

屛風岩を中央に配し、左の断崖と右の小岩で画面の安定とバランスをとった中央１点構図。
ニコンＦ４s　AiAFズームニッコールED80〜200ミリＦ2.8D　Ｆ2.8　１／250秒　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用



C 縦位置で断崖を絡め奥行きを出す

左下方に断崖の縁を取り込み、そこへ向かって屛風岩と荒波が打ち寄せてくるような効果を対角線構図で生み出した。
ニコンＦ４s　Ａｉ ＡＦズームニッコールＥＤ80〜200ミリＦ2.8Ｄ　Ｆ11　１／８秒　プラス２／３補正　ＲＶＰ　ＰＬフィルター使用

フレーミングから
構図の決定まで

秋

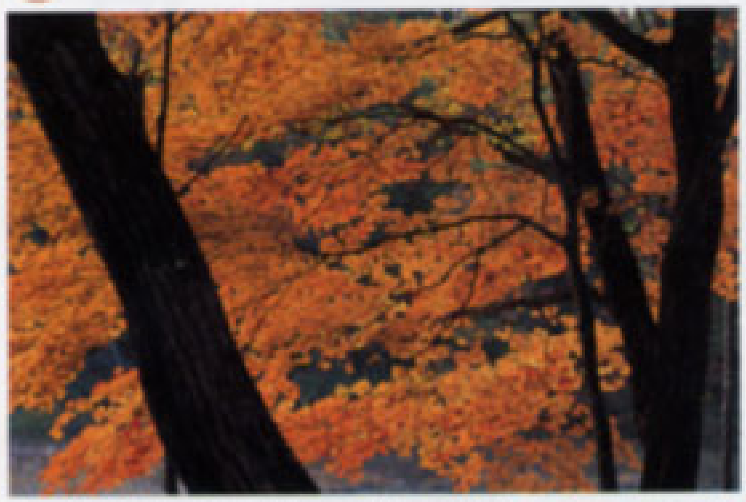
［紅葉］

夕照に輝く赤いモミジの核心に迫る

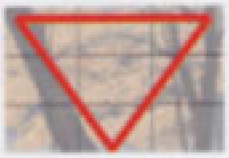
（撮影地／福島県・昭和村矢ノ原湿原）

湿原の池畔にヤマモミジの林があり、夕照に透けた木々の葉が鮮やかに輝いている。幹のシルエットを絡ませてフレーミングする。日が陰り、しっとりと情感を高めたヤマモミジの核心へ徐々に迫る過程を追った。

B モミジの核心を逆三角形構図で強調する

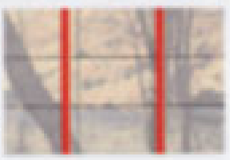


ズームアップして、左右の幹の陰でモミジの核心を逆三角形構図で挟み集中力を高めた。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　1／2秒　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用



A 垣間見てヤマモミジをきわだたせる

夕暮れまぎわの日差しを浴び、鮮やかさを増したヤマモミジをきわだたせるため、シルエットを３分割法で配しバランスをとった。
ニコンF4s　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F11　1／8秒　＋1／3補正　RVP

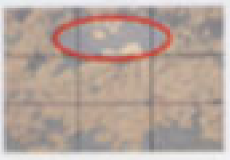


D 望遠で、やわらいだ空間を垣間見る

Cのほんのり照った葉の部分を、望遠で引き寄せた。絞りを開放に設定し、ボケた背景との間のやわらいだ空間を垣間見る。
ニコンF4s　トキナーAFプロ300ミリF2.8　F2.8　1／60秒　－1／3補正　RVP

C モミジの葉で暗部を囲い込む構図

残照でほんのり明るい枝を中心に、天部のモミジの葉で暗部を囲い込み、余韻をもたせた。
ニコンF4s　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F11　1／4秒　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用



［田園］

西日を浴びた稲架で秋の風情を描く

（撮影地／奈良県・明日香村上居）

稲刈りもとうに終わった晩秋の小春日和。午後遅くの西日に照らされた稲架がものさびしく輝き、秋の深まりを感じる。西日を浴びた稲架の描く直線ラインのパターン的な美しさに、植えられたキクをあしらい季節感を盛ってみた。

A 秋の深まりをキクと稲架の対比構図で描く

キクの色合いで野に花やぎを

A-1

稲架と畦の曲線を絡める構図

A-2

稲架の直線ラインをメインにする

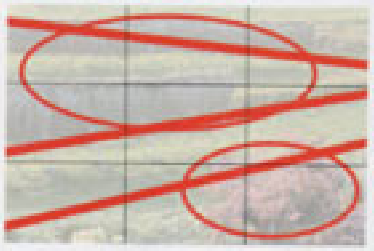
A-3

A-完成

稲架のラインとキクの赤を対比させ、稲架の進出感を出す

畦の隅のひとむらのキクと、長くのびた稲架の姿が印象的な場所を見つけた。まず、**A-1**でものさびしい田面にキクを絡め花やぎを表す。次に**A-2**で、画面左からのびる稲架のラインと背後の畦の曲線を絡め、右方向へののびやかさを引き出し、そのバリエーションの**A-3**で稲架の直線に視線を集めた。そして、キクの色彩と稲架の進出感を対比させ、稲架の動きを引き出し、**完成作**とした。

ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　ー1／3補正　RVP　PLフィルター使用



B 対角線に沿った稲架ののびやかさを引き出す斜線構図

稲架のラインライトを印象的に表す

B-2

稲架のボリュームと田面のコントラストの対比

B-1

フレーミングで奥の稲架に視線を集める

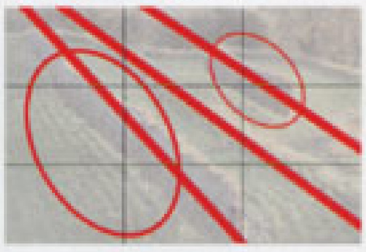
B-3

この作例では、現場カットの右奥へカメラ位置を移動して、稲架を斜め正面でとらえるように構えた。そうすると、稲架のラインの切り取り方により、視線の向かう方向が前後に異なって、画面に正反対の動きを生じる。初めに**B-1**で、右から対角線方向へのびた稲架を大胆に切り取り、稲架のボリュームと田面のコントラストを対比させた。次に**B-2**では、対角線に沿った稲架ののびやかさで、背のラインライトを美しく見せ、前方への進出感を表した。**B-3**では、手前に少し余裕をもたせ、左下隅の稲架のラインとの相乗でカメラ側への前進感を引き出す。さらに、**完成作**では左の稲架の前面いっぱいでカットして、稲架の伸張感を強調しカメラ側へののびを表した。

2本の稲架のラインでカメラ側へ向かう進出感を引き出す

B-完成

ニコンF5　トキナーAFプロ28～70ミリF2.8　F16　オート　－1／3補正　RVP　PLフィルター使用

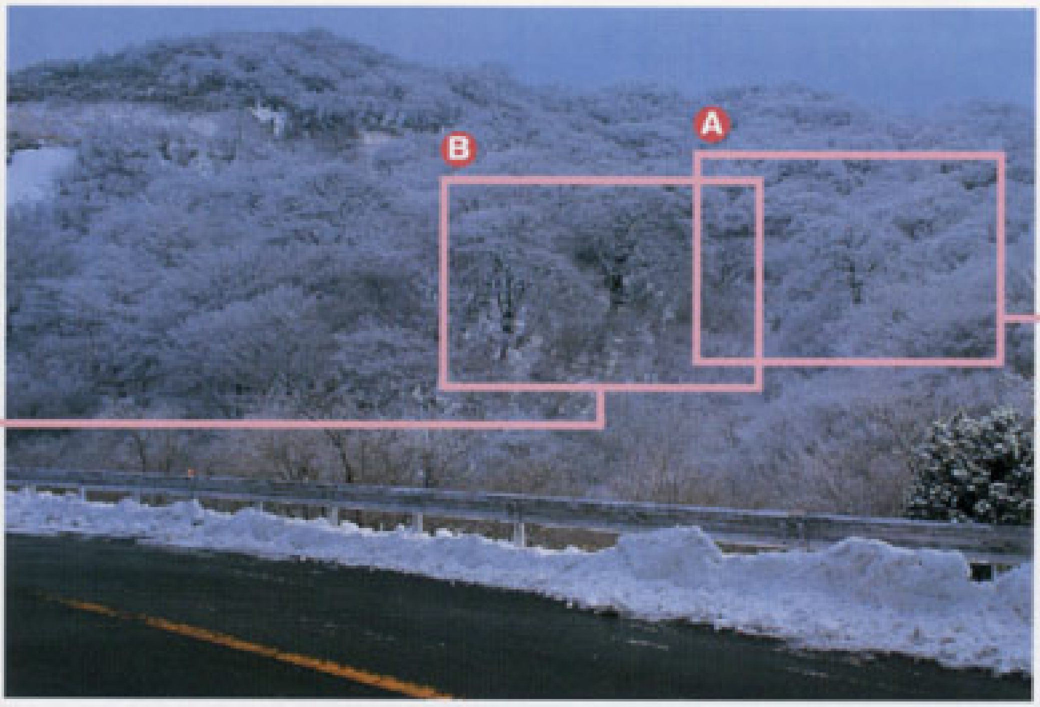


［樹氷］

幹と枝ぶりのよい樹氷の特徴を出す

（撮影地／神奈川県・箱根町元箱根）

箱根山の大観山から、芦ノ湖畔の元箱根へ向かう下り坂の谷側斜面は、ブナをはじめとする自然林が豊かに茂り、特に雪の降りやんだ直後はどこもすばらしい撮影対象となる。斜面の中から幹と枝ぶりのよいブナの古木を選び、撮影位置の違いでさまざまに異なるブナの装いを追った。



●撮影現場状況

安定感とバランスをはかる

A-1

A 対角線に沿って視線が左上方へのびる構図

中央１点構図で求心力を強める

A-2

3分割法に基づき、左右のバランスをとる

A-3

縦位置で伸張感と奥行きを出す

A-完成

現場カットの右側に見えるブナの古木に注目した。初めに**A-1**で、ブナの姿が引き立つように、周辺の樹木に積もった雪とのバランスをとり、オーソドックスにフレーミングする。次に**A-2**で、その美しさを強調するためブナを中央１点構図で画面の中心に配置。視線をブナの幹に集めて求心力と安定感を引き出した。そして**A-3**で、わずかに左へ傾いた幹の線と枝の張り出しをもとに、ブナをやや右へ寄せ、雪景を２：１の比率で振り分けてバランス感をもたせる。**完成作**では、縦位置にしてメインのブナを画面右下隅に配し、対角線に沿って視線が左上方へのびる構図とした。

ニコンF5　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16オート　＋２／３補正　RVP　PLフィルター使用

縦位置で上への伸張感と開いた枝の形で開放感をもたせる

B パターン、対比、中央１点などの構図でブナの魅力を描く

丸みのある樹冠に積もった雪のリズム感を出す

B-1

3分割法を基に樹間のバランスをはかる

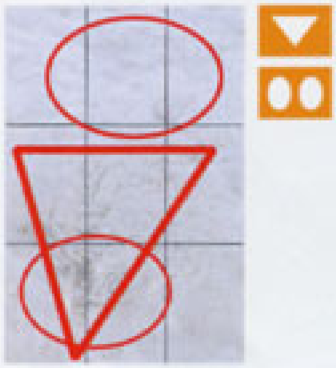
B-2

横位置で、左右への広がりとアクセントとしての強さを求める

B-3

B-完成

ニコンF5　AiAFズームニッコールED80～200ミリF2.8D　F16　オート　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用

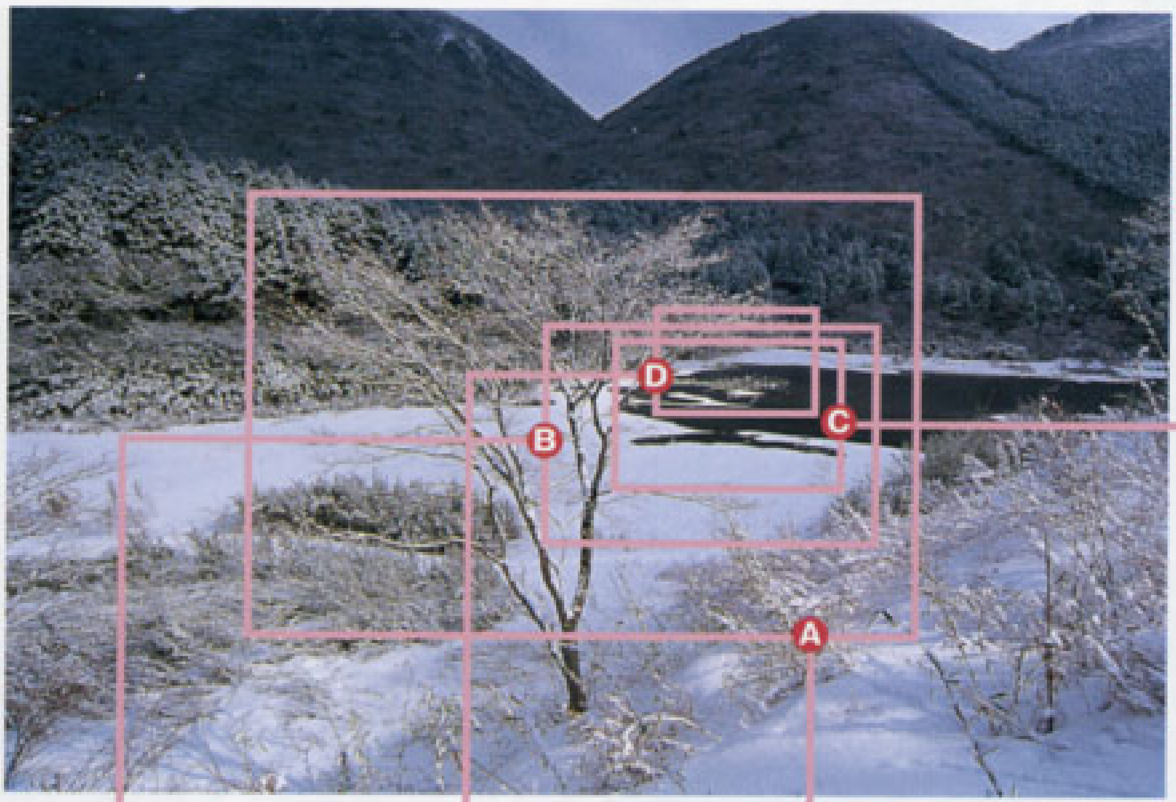


この作例では、現場カットのほぼ中央に見えるブナをメイン被写体にいくつかに撮り分けた。まず**B-1**で、樹木に積もった雪の描くこんもりしたパターンの美しさを切り取る。次に**B-2**では左右２本のブナの形のよさから、その間隔をはかり対比的に配置した。そして**B-3**で、右側のブナをズームアップして視線を集めたうえで、左右へ開ける広がりをもたせる。さらに**完成作**では、ブナの形がいきるように縦位置を取り、上昇感を生むとともに、上部の雪景色で天部が軽やかになるように構成した。

［ 雪 ］

雪のつくる造形のおもしろさを探す

（撮影地／神奈川県・箱根山精進池）

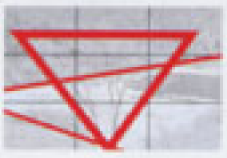


●撮影現場状況

箱根山の精進池の雪景色。沼に積もった雪のつくる造形のおもしろさに注目した。その雪形と現場カットの中央に見えるヤマモミジを絡ませて、遠近感をもたせたり造形の妙を引き出すくふうをする。

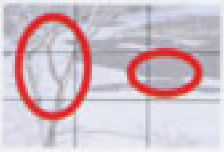
A ヤマモミジをメインに環境を伝える構図

ヤマモミジを中心に据え、ズームアップする。天部をカットしヤマモミジへの集中度を高める。
ニコンF5　トキナーAFプロ28〜70ミリF2.8　F11　オート　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用



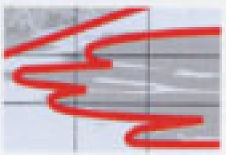
B ヤマモミジと雪形を垣間見て対比させる

ヤマモミジの幹をズームアップ。絞りを開けて、枝の間から垣間見えるボケた雪形を対比させた。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F2.8　オート　＋2／3補正　RVP　PLフィルター使用



C 雪形の核心部の曲線の妙をとらえる

沼の複雑な曲線がおもしろく、形の整った位置に移動し、曲線がせめぐ動感を切り取る。
ニコンF5　AiAFズームニッコールED80〜200ミリF2.8D　F16　オート　＋1／3補正　RVP　PLフィルター使用



D 曲線を描く雪形のおもしろさを切り取る

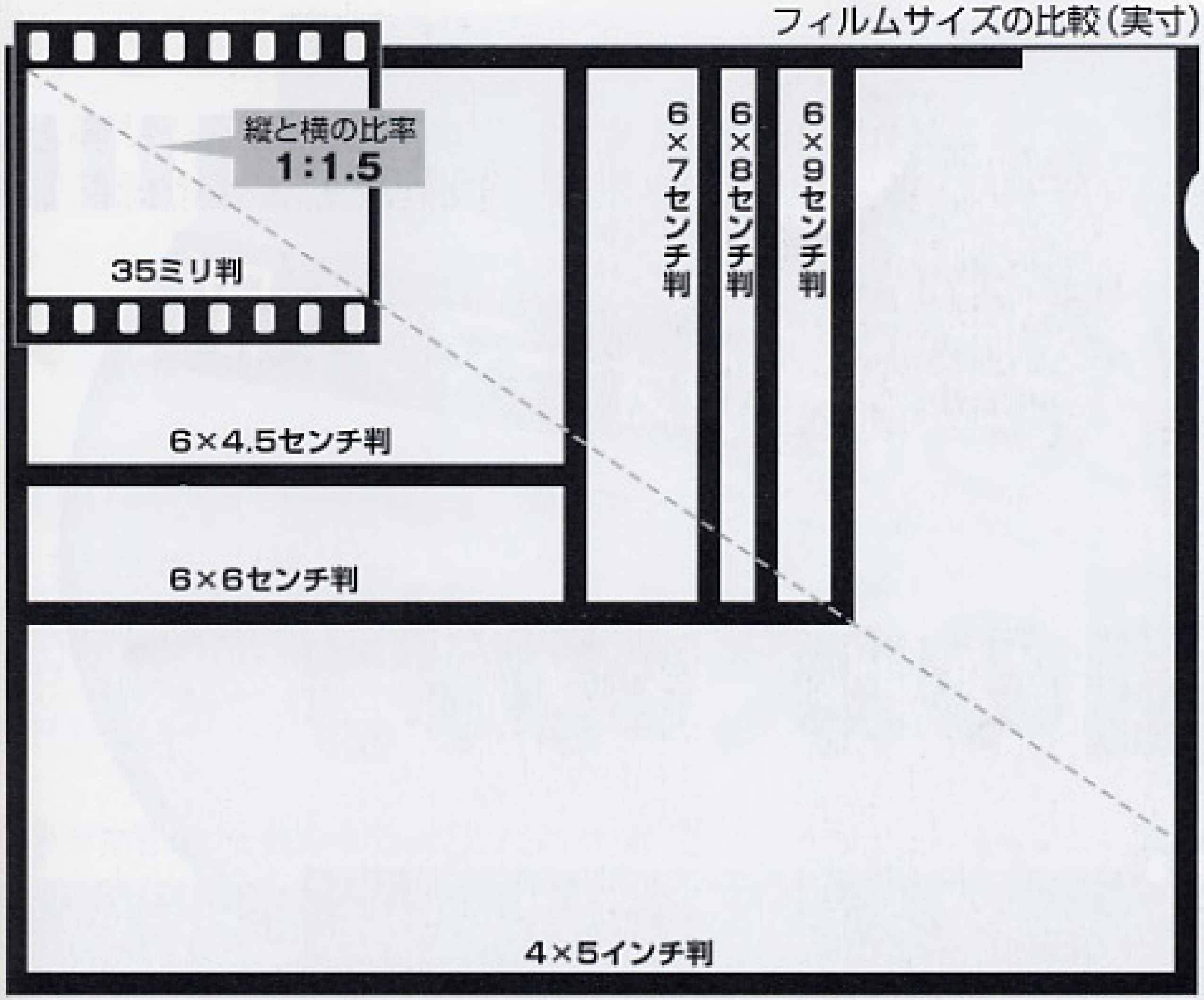
Cの位置から右へ数十メートル移動し、中央部分の曲線ラインを望遠で引き寄せ、そのラインをいかして形を整えた。
ニコンF5　トキナーAFプロ300ミリF2.8　F16　オート　＋1／3補正　RVP

中判カメラ&大判カメラの フォーマット別 構図の決め方

これまで本書で解説してきた構図の決め方は、35ミリ判カメラについてです。しかし、中判カメラや大判カメラではフォーマットがそれぞれ違い、構図の決め方も微妙に変わってきます。ここでは、その違いとそれをいかした構図作法について、フォーマット別に解説します。

中判カメラ＆大判カメラの**構図の決め方**

画面比率が違うと、構図の決定法も変わる



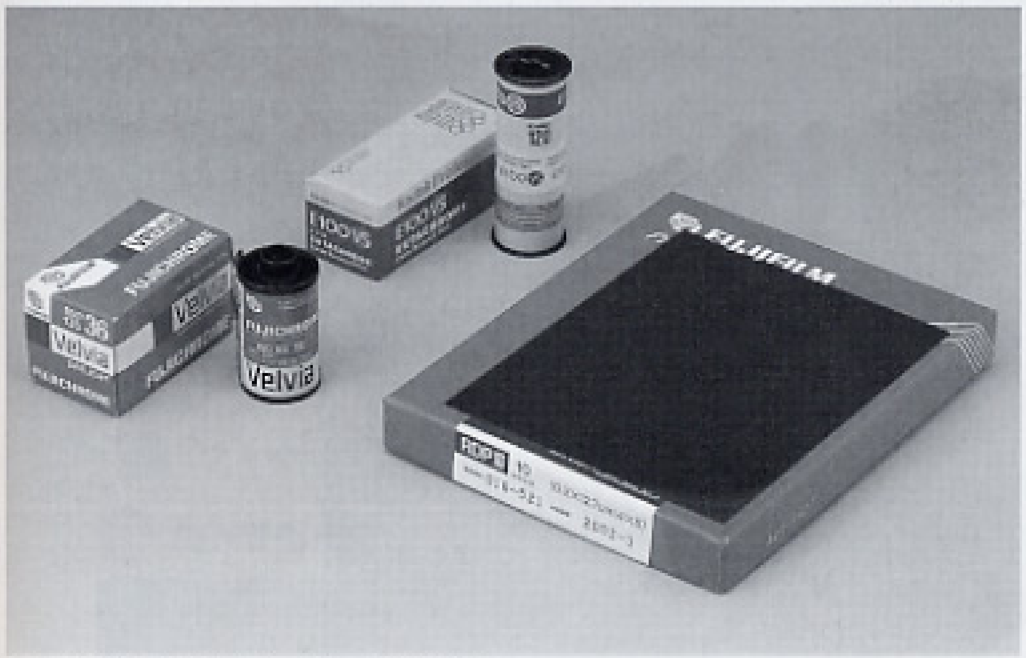
左図は35ミリ判を基準にして、各フィルムの実寸値と、縦横の比率の違いを比較したもの。図中の対角線に注目すると、35ミリ判と6×9センチ判の縦横比はほぼ同じだが、ほかは皆、正方形に近い画面比率をもつことがわかる。

中判、大判は、安定感のあるイメージを伝えやすい

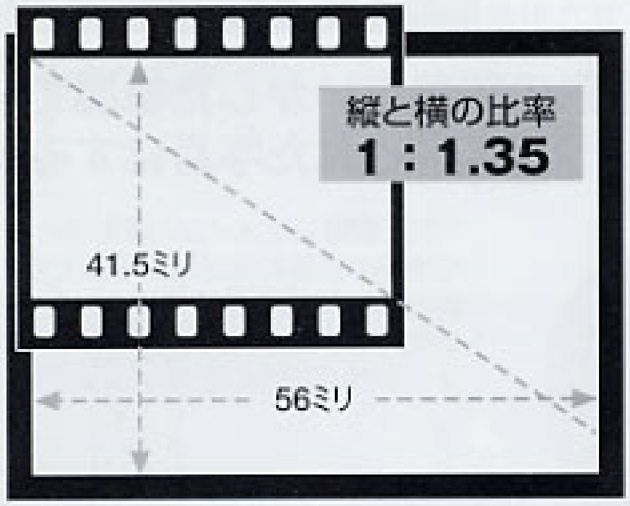
画面比率が縦横比1対1.5と、横長画面のフィルムフォーマットが特徴といえる35ミリ判カメラの構図については、今までカラーページで解説したとおりである。ここでは、35ミリ判とは異なった画面比率をもつ、中判、大判カメラについての構図決定方法のヒントを記述したい。

そこで、理想的な構図の決定をするさいに重要な要素となるのが、各カメラの画面比率の違いだ。もちろんそのほかにも、カメラごとのレンズラインナップの違いや、カメラ自体の重量、大きさによる機動力の違いで構図決定に差が出るものの、これらは画面比率の違いほど大きな問題ではない。

中判といってもその画面サイズはさまざまで、特殊なパノラマタイプを除けば、6種類のフォーマットが存在する。シートフィルムでマニュアル撮影が前提となる大判の場合は、4種類ほど。いずれも、35ミリ判に比べ横長の度合いが短くなり、基本的にはどっしりとしたフォーマットで、安定したイメージを伝えることができる。よって、中判カメラや大判カメラで、写真の構図を決めるさいには、35ミリ判とは違ったアプローチが必要になってくる。



右上が中判カメラ用のフィルム。左の35ミリフィルムと同様にフィルムをロール状に巻いたもの。いっぽう、右下の箱の上に置いてあるのが４×５インチ判のフィルム。35ミリ判や中判とは異なり、１枚１枚が平らで、シートフィルムと呼ばれており、通常は暗箱に収納されている。



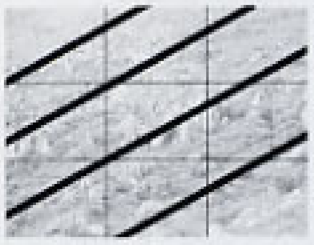
35ミリ判に近い機動性をもつ一眼レフタイプが主流。（写真はペンタックス645N）

6×4.5センチ判

35ミリ判と構図決定法はほぼ同じ

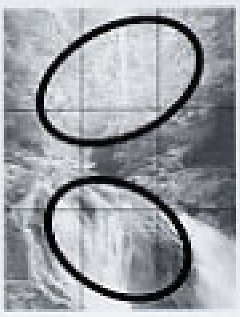
比較的35ミリ判に近い画面比率なので、構図決定のコツはさほど違わない。あらゆる構図のパターンを試すことができるフォーマットだ。

斜線構図で画面全体にリズム感を出す



画面サイズの特性をいかし、安定した斜線構図にまとめた。四国カルストの五段高原に広がる石灰岩。遠くから望むと、羊の群れのように見える
ブロニカETR si　100〜200ミリズーム5　F16　オート　+1/3補正　RVP　PLフィルター使用　高知県・檮原町五段高原

画面全体に安定感があり、かつ上下方向の広がりも出る



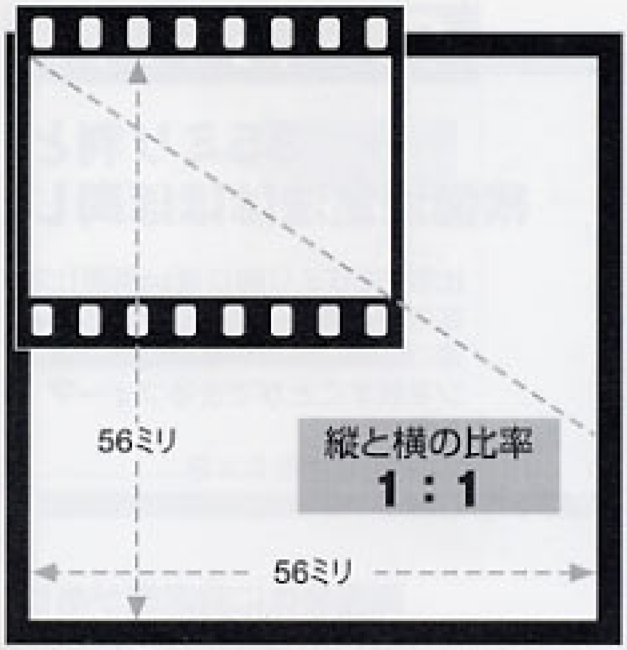
カメラは縦位置で、やや横広のフォーマットをいかし、左右に流れ落ちる滝の下段部をメインに構成した。
ブロニカETR si　50ミリ　F16　オート　+1/3補正　RVP　PLフィルター使用　大分県・安心院町

まず、カメラに慣れることが大切な中判カメラの入門機

645センチ中判カメラは、主にレンジファインダータイプと一眼レフタイプの2種類に分けられるが、特に一眼レフタイプのカメラは、35ミリ判一眼レフカメラに次ぐ豊富なレンズ群を有し、ボディの形や重量においてもコンパクト化が進んでいる。また、AE、AF、多分割測光モードやオートブラケティング、さらにフィルムの自動給送などの機能を搭載し、35ミリ判一眼レフカメラとの差がどんどんなくなってきている。そういう意味でも、風景撮影においては、この一眼レフタイプ645センチ判カメラが主流となってきており、中判カメラの入門機的な位置づけとなっている。

だからといって、今まで35ミリ判カメラで撮影してきた人が、いきなり645センチ判カメラで写真を撮ろうとしても、そんなに簡単に使いこなせるというわけではない。それは、35ミリ判の比較的横長のフォーマットを見慣れた目が、645センチ判の画面の左右方向の広がり（横位置撮影の場合）に、もの足りなさを感じさせてしまうからだ。したがって、構図を決めるさいにも直接不つごうが生じてくる。

しかし、645センチ判の画面比率は、35ミリ判と比較しても、6×6センチ判や4×5インチ判ほどの違和感はないため、基本的には、前述した35ミリ判の構図決定の方法にあてはめて考えても、問題はないだろう。その、比較的35ミリ判と同様の構図決定法をいかすためにも、645センチ判のフォーマットに十分に慣れること、つまりたくさんシャッターを切ることがとても大切だ。



カメラの上部からのぞき込むタイプの一眼レフが主流。（写真はハッセルブラッド503C）

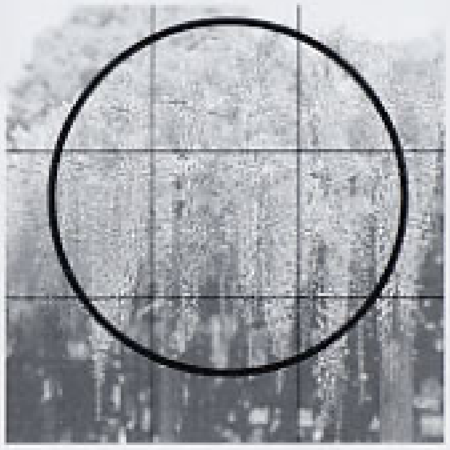
6×6センチ判

正方形の四隅をいかした構図でバランスのとれた写真にする

中央に配置したメインの被写体と、対角線の効果的な活用、そして無駄のない空間の処理で、6×6センチ判ならではの個性的なフォーマットがいきてくる。

画面中央部に主要被写体を配置する

主要被写体となるフジ棚を、思い切って中央に配置した。フジ棚の垂直線は上下に広がりを感じさせてくれる。背景の空間を適度につくることで、窮屈な感じがなくなる。
ブロニカSQ-A　150ミリF4　マニュアル　F16　1／15秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・小田原城



対角線を効果的に利用し、インパクトのある写真に

本来6×6センチ判は、商業写真の世界において活躍してきたフォーマットである。縦位置、横位置という概念はなく、あらゆる状況に対応できるよう、トリミングを前提として、初めから左右のスペースを大きく開けて撮影するなどされてきた。しかし、風景写真の分野では、せっかくだからトリミングなしで作品に仕上げていきたいものだ。

テレビ、映画、雑誌など、ふだんの生活においても、なかなか見ることができない正方形のフォーマットは、写真の世界においてもめずらしい存在だ。それゆえ、6×6センチ判ならとても独特で個性的な表現が可能だといえる。ただし、完璧な構図の決定はとても難しい。

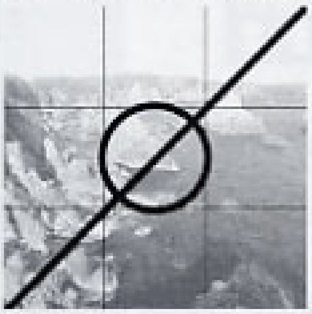
基本的に35ミリ判から中判、4×5インチなどの大判までの、あらゆるフィルムフォーマットは、画面中心部に視線を集中させる傾向がある。なかでも6×6センチ判の場合はそれが特に顕著なため、とてもインパクトのある印象的な写真になりやすい。基本的に、主要な被写体を思い切って中心部に配置する中央1点構図でまとめ上げ、そのほかのわき役となる被写体を、バランスよく空いたスペースに配置してやるのがいちばんいい。

ポイントは正方形の四隅をいかした構図に組み立てること。それには対角線を効果的に、目いっぱい使うことがおすすめだ。その対角線上に副素材を置いてやれば、結果としてバランスのとれた写真が完成する。

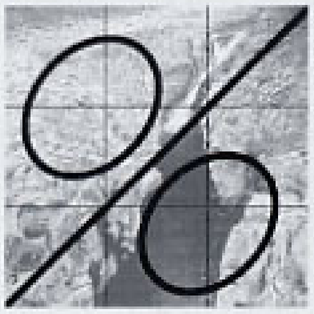
ただし、1対1というその特異な形状が、左右方向や上下方向への広がり

対角線構図を利用して、視線を集中させる

右上から左下への対角線上に、被写体を点在させた。特に目立つ三角形の岩は、画面ほぼ中心に配置。対角線上に置かれた三角形の岩に、自然と視線が集中していくのがわかる。
ブロニカSQ-A　80ミリF2.8　F16　1/4秒　RVP　PLフィルター使用　和歌山県・串本町大島



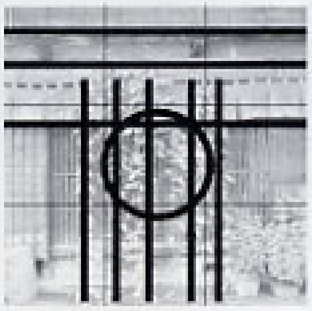
苦手な奥行き感表現は対角線構図で解消する



右上から左下の対角線状に川の流れを配置。本来、奥行き感が出にくい正方形のスペースに目いっぱい対角線を効果的に利用することで、その欠点を解消した。
ブロニカSQ-A　50ミリF2.8　F16　1秒　RVP　PLフィルター使用　和歌山県・古座川町

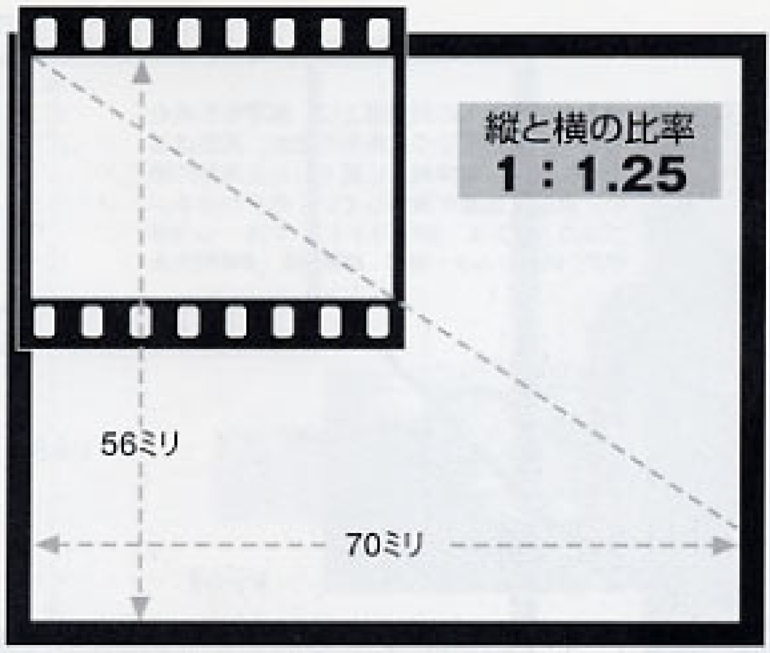
安定感を出すために中央1点構図でまとめる

民家の軒下に掛かっているアサガオを主要被写体として、安定感のある落ち着いた表現にまとめた。中央1点構図ではあるものの、背景の格子模様がスパイスとなって、画面を引き締めている。
ブロニカSQ-A　80ミリF2.8　F16　1/2秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・馬籠



を表現しにくいという問題が出てくる。それを解決するには、やはり被写体のもつ自然の形状を利用するほかない。天地方向へののびを表現したければ、垂直方向にのびる木の幹や植物の茎などを、水平方向ならば水平線など、活用できそうなものはどんどん試してみることが成功へのカギだ。

正方形の6×6センチ判のフォーマットにおいて、バランスのとれている構図になっていながら、さらに自分の個性を表現していくのは非常に難しいことである。だが、挑戦する価値が大きいフィルムフォーマットであることは間違いない。



6×7センチ判

縦位置撮影でも横位置撮影でもどっしりとした安定感を生む

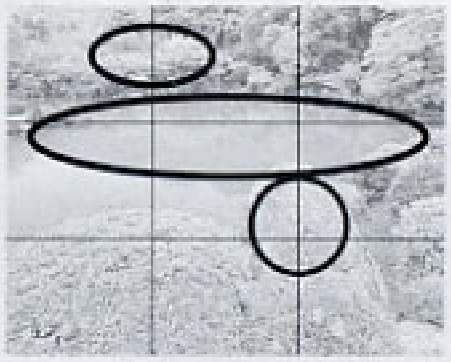
主役となる被写体を中心からずらしながら、空いたスペースにわき役を巧みに配置して、安定感のある構図にまとめられる。

一眼レフタイプ、レンジファインダータイプ、フィールドタイプなど種類は豊富。（写真はマミヤ７Ⅱ）

上下のおたがいに引き合う関係を重視して、安定感を追求する

６×７センチ判は正方形に近く、安定感の出やすいフォーマットなので、この場合あえて広がりを求めなかった。庭園の池を囲むような構図で、岩の配置や対岸の木立が、おたがいに引き合うように上下の関係を重視した。

マミヤRB67SD Pro 90ミリ F16 1/2秒 RVP PLフィルター使用 京都府・天竜寺



空いた空間の処理方法が6×7センチ判攻略のカギ

35ミリ判と比較して、６×７センチ判は横方向が寸づまりのような印象ではあるが、本来、縦横のバランスはとてもいい。雑誌などの判型の比率に近いことがいい例だ。さらに横位置撮影でも縦位置撮影でも、どっしりとした安定感を生むことができる。

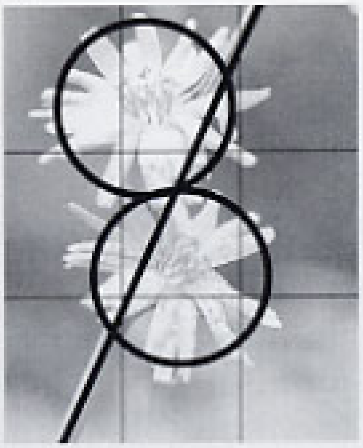
しかし、どっしり感はいいとしても、例えば横方向に広がるカラマツ林を横位置で撮影する場合、上下方向の空間の処理も考慮する必要が生じてくる。もし空間が空きすぎる場合は、足もとにある、ちょっとした被写体を取り入れたり、空に浮かぶ特徴的な雲を配置するなどのくふうが必要だ。朝焼けや夕焼けのグラデーションなど、色彩の変化を取り入れてもいい。

また、６×７センチ判より大きなサイズのカメラになってくると、35ミリ判と同様の被写界深度を得るには、大きく絞り込む必要がある。そのぶんシャッタースピードも遅くなるので、ブレ対策に注意を払わなければならない。６×７センチ判を使う理由のひとつとして、より繊細な画質を求める場合が多いが、少しでもカメラブレを起こしてしまうと、35ミリ判よりも画質が悪化してしまう恐さもある。

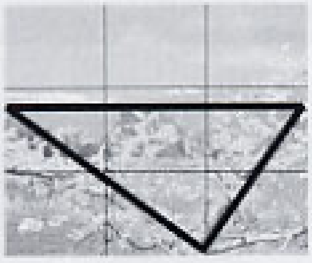
カメラやレンズが大きく重い６×７センチ判の場合、カメラポジションの移動つまりフットワークが、35ミリ判ほど期待できない。できれば、ファインダーをのぞく前に、バッチリと構図を決定できるように、より慎重に周囲の様子を観察する必要がある。欲をいえば、カメラをもっていないときでも、構図決定のイメージトレーニングをしておきたい。

茎で二分割した画面をいかし、二つの花を対比させる

ノコンギクの茎で画面を斜めに二分割して、花どうしが対話しているような対比構図にまとめた。6×7センチ判の安定した、まとまりのある自然なバランスを重視したことがポイント。6×7センチ判でも、望遠レンズに中間リングをつければ、クローズアップ撮影が手軽にできる。
マミヤＲＢ67ＳＤ　Ｐｒｏ　180ミリ＋中間リング　F4.5　1／30秒　ＲＶＰ　新潟県・山北町

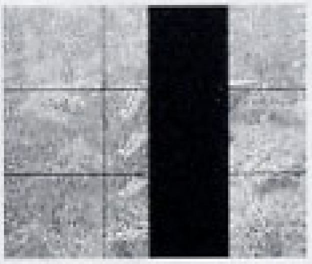


逆三角形＋広めの空で、ゆったり感を演出する

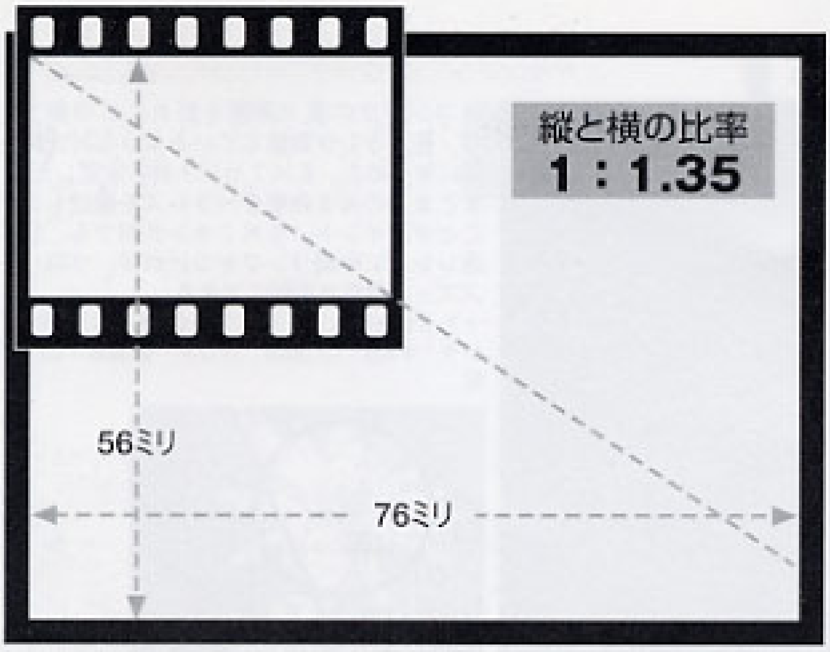


逆三角形をかた取るスモモの枝の向こうに、アルプスの山並みをのぞかせた。上下方向に余裕があるので、空を広めに取り入れた結果、ゆったりとしたイメージになった。
マミヤRB67SD　Pro　250ミリ　F16　1／15秒　RVP　PLフィルター使用　長野県・松川村

画面右にずらして、五重の塔を配置する



画面の中央から右にずらして、五重の塔を配置した垂直線構図。35ミリ判で同様のフレーミングをした場合、間のびした感じになってしまうが、6×7センチ判だとおさまりがいい。
マミヤRB67SD　Pro　180ミリ　F4.5　1／30秒　RVP　奈良県・室生寺



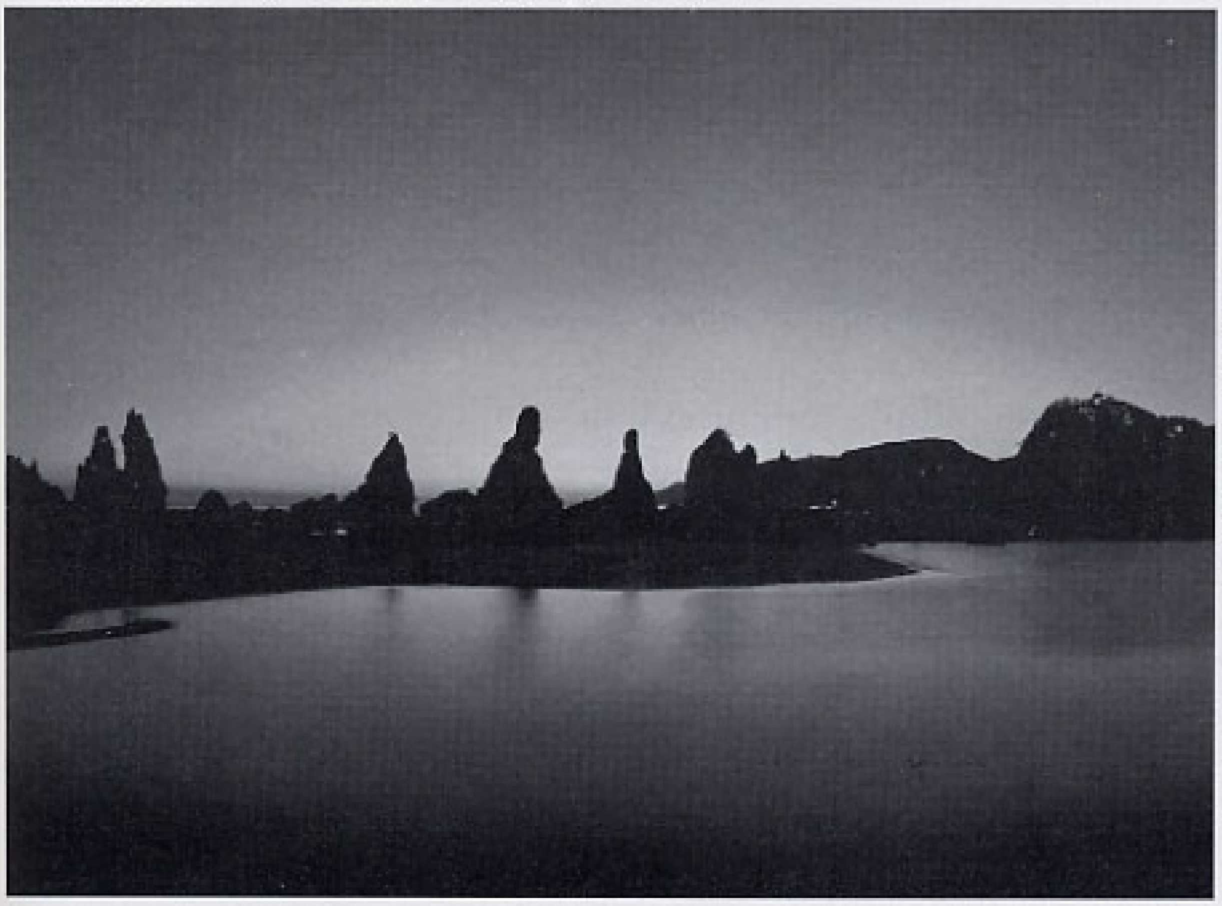
6×8センチ判

上下左右方向に バランスのとれたフォーマット

水平線や斜線のある被写体を取り入れることで、バランスのいい画面に広がりのある要素をつけ加えられる。

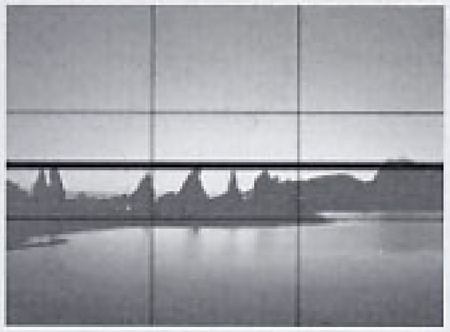
フジフイルムから２機種のカメラが発売されている。（写真はフジフイルムＧＷ680Ⅲプロフェッショナル）

水平線構図で上下の安定感と左右の広がりを出す



明け方、橋杭岩を画面中心に置き、水平線構図としてまとめた。上下の安定感と、左右の広がりが感じられる。画面では上下に２等分になっているが、ドーム形に広がる空のグラデーションによって、一体感が出た。

フジフイルムGX680Ⅲプロフェッショナル　135ミリ　F22　約60秒　RVP　和歌山県・串本町橋杭岩



対角線方向にのびる斜線をいかし、広がりを出す

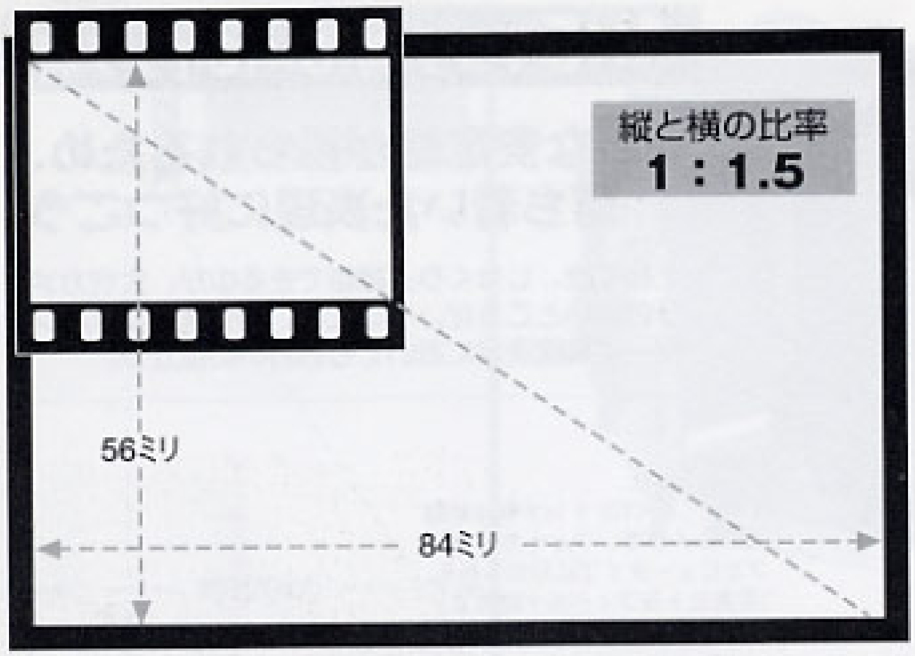
複数の斜線を利用して、対角線方向への画面の広がりを追求した。紅葉のカラフルな色も重要な要素となっているが、画面を引き締めているのはやはり、斜線の枝ぶりだ。背景にはスギ木立を配し、垣間見る構図にもなっている。

フジフイルムGX680Ⅲプロフェッショナル 250ミリ　F16　1/2秒　RVP　PLフィルター使用　奈良県・香落渓

35ミリ判では空間が空きすぎるときに有利

35ミリ判と6×7センチ判の中間的な位置づけにあるのが6×8センチ判。とてもめずらしいフォーマットだが、画面比率は645センチ判と同様。上下方向にも左右方向にも適度な広がりがあるため、バランスはいい。

35ミリ判では、左右に空きが目立つ場合などがあるが、そんな場合でもほどよい構図決定ができるのが6×8センチ判の有利な点である。



6×9センチ判

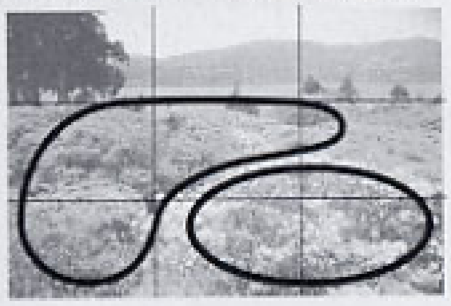
緊張感と空間の広がりを表現できる、スーパー35ミリ判

35ミリ判同等の画面比率のため、基本的に構図決定は35ミリ判をベースにして、組み立てていくのがベスト。

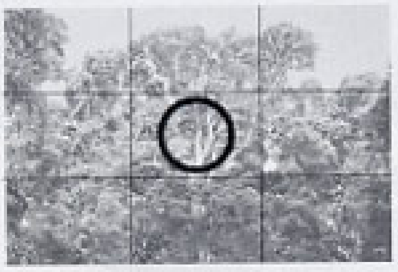
蛇腹式のフィールドカメラに多い6×9センチ判。（写真はフジGSW690Ⅲプロフェッショナル）

左右のツツジを対比させてボリューム感を出す

この場合、ツツジのボリューム感を出すために、左右のツツジを対比させる構図を取った。あくまでも主役はツツジなので、カメラの高さ位置を微妙に調整して、画面に占める背景（湖の面積など）の量を調整している。
リンホフテヒニカV　6×9センチ判フィルムバック　90ミリ　F22　1/8秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・箱根芦ノ湖



左右に広がるクスノキを中央1点構図でとらえる

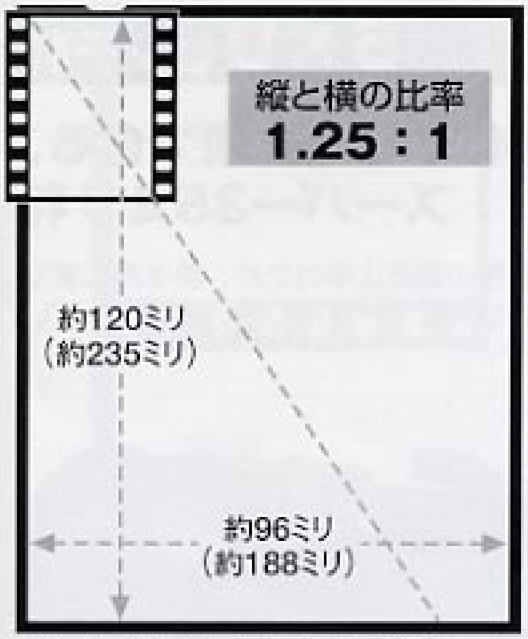


クスノキを画面中央に配置して、左右に広がる樹冠の広がりを表現した。6×9センチ判のフォーマットは35ミリ判とほぼ同等の画面比率であり、繊細な木々の様子をとらえるのに適している。
リンホフテヒニカV　6×9センチ判フィルムバック　250ミリ　F22　1/2秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・真鶴岬

35ミリ判と同様の構図決定法が基本になる

6×9センチ判は、35ミリ判とほぼ同等の画面比率なので、空間の広がりと緊張感を表現するのに向いている。よって、構図決定のさいにも35ミリ判の構図決定法を参考にするとよい。

ただ、35ミリ判感覚でいう広角レンズが、6×9センチ判では望遠レンズの領域になるため、幅広いピントが必要な場合は、大きく絞り込む必要がある。



※（　）内は8×10インチ判の値

4×5（8×10）インチ判は蛇腹式のカメラで、フィールドタイプとビュータイプに分けられる。（写真はトヨフィールド45AⅡ）

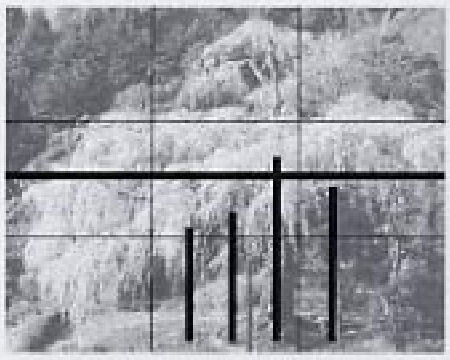
4×5インチ判（8×10インチ判）

自然な安定感が得られるため、落ち着いた表現に好つごう

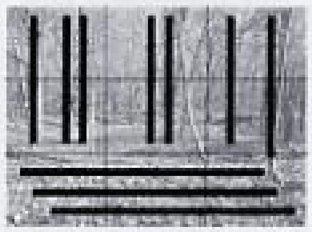
1枚1枚、じっくりと撮影できるのが、大判カメラのいいところだ。そのため、格子状のファインダーは構図決定においてもおおいに役立つ。

ボリュームのあるサクラを、水平線と垂直線でまとめる

シダレザクラは、35ミリ判では空間が目立ってしまう被写体なので、4×5インチ判の安定したフォーマットで撮影した。花の水平線と、幹の垂直線との複合構図になっている。左にボリュームがあるので、木の幹は中央から右にずらしてフレーミングした。
リンホフテヒニカV　250ミリ　F22　1/4秒　RVP　PLフィルター使用　神奈川県・入生田長興山



傾いた幹でリズム感をプラスして、安定感に変化をつける

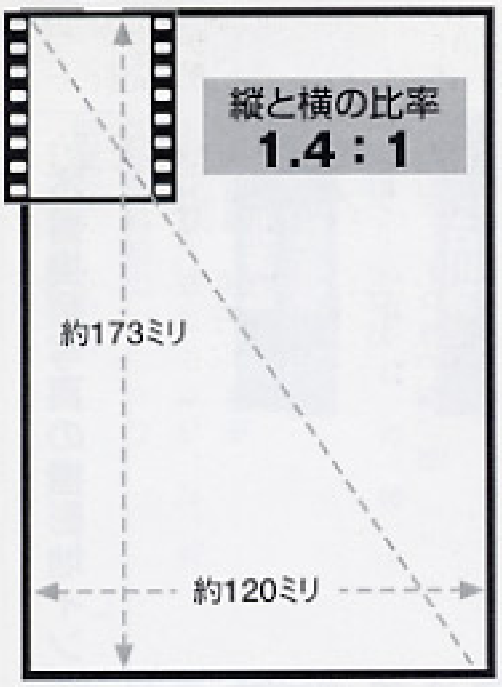


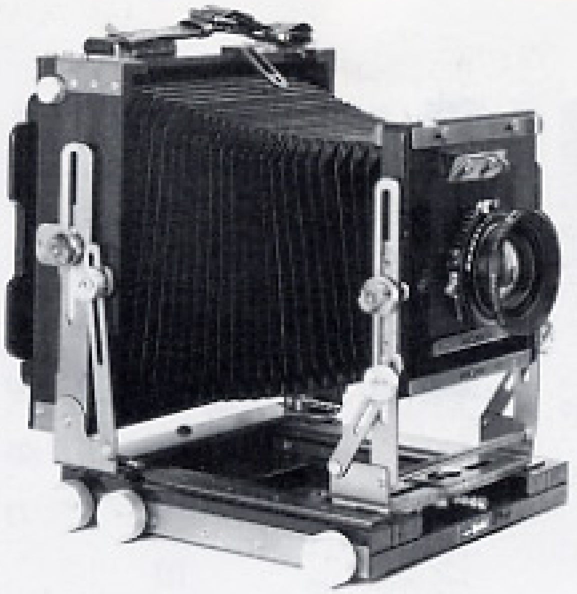
木立の垂直線と、手前に広がる落ち葉上の影の水平線を組み合わせた安定感のある構図。純粋な垂直線のみだと、単純な画面になってしまうので、所々に傾いた幹を配置してリズム感を出している。
リンホフテヒニカV　250ミリ　F22　1/4秒　RVP　PLフィルター使用　北海道・千歳市

ファインダーが上下左右逆像になる

画面比率は、その名のとおり4対5で、自然な安定感が出せるのが特徴だ。8×10インチ判は比率はそのままで、4×5インチ判の4倍のフィルム面積をもつ。

基本的に、垂直線や水平線を上手に組み合わせて撮影するといい結果となるが、カメラ自体が単純な構造なので、操作はすべてマニュアル。よって、初心者には扱いにくいカメラとなる。また、ファインダーが上下左右逆像となるので、構図決定は慣れるまで難しい。





5×7インチ判専用のカメラは少なく、大判カメラとして各フォーマットを兼用するタイプが多い。
（写真はエボニーSV57）

5×7インチ判

キャビネ判のフィルムサイズで広がりのある風景が撮れる

やや横長のフォーマットは、安定感プラス広がりを求めた撮影対象に向き、完成された作品の繊細さは群を抜く。

手前の凹凸のシルエットがリズム感を生む

ヨシのシルエットをいかし、広がりと情緒感を漂わせる水平線構図にまとめた。ポイントは3分割法に基づき、太陽の位置と水平線はともに左、上から約3分の1の所に配置したこと。また、ヨシのシルエットの凸凹が、リズム感を出している。
エボニーSV57　210ミリ　F32　1/2秒　RVP　茨城県・旭村涸沼

プリントしたときの鮮鋭度は桁違いにすばらしい

4×5インチ判に比べ、いくぶん横長の5×7インチ判フォーマットは、左右に広がる広い風景を撮影するのに向いている。カメラのファインダースクリーンには、4×5インチ判同様、格子状の線がある場合が多いので、フレーミングを決めるときには便利。

ただ、35ミリ判のようにどんどんシャッターを切ることができないので、より慎重に最適な構図を組み立てていく必要がある。また、カメラ自体が大きく、風の影響を受けやすいので、カメラブレ対策は必須だ。ただ、フィルムサイズが非常に大きいので、作品を引き伸ばしてプリントしたときの鮮鋭度は桁違いにすばらしい。

本書掲載写真の撮影地インデックス

北海道
支笏湖……P12
斜里町……P35
大雪山……P98、104、105
千歳市……P138
豊富町サロベツ……P35、82
礼文島……P7、17、25、73

青森県
奥入瀬渓流……P59、79、112、113
十和田発荷峠……P102
八甲田……P23、114
八甲田蔦七沼……P12、37、78、102、103

秋田県
角館町……P55
象潟町中島台……P49、93
象潟町元滝……P21、118、119
鳥海山……P28、99
仁賀保町大潟池……P33、99
八幡平……P45、48、50、75、78、92

宮城県
栗駒山……P42、85

山形県
朝日村……P18、22、71、94
月山……P24、40、43
米沢市鍋平……P73

福島県
吾妻山浄土平……P105
裏磐梯（小野川湖、大沢沼、剣ヶ峰、五色沼、白布峠、曽原、中瀬沼、磐梯高原、桧原湖畔、細野、曲沢沼）……P5、8、12、14、17、21、29、34、37、43、69、75、76、78、85、92、93、96、99、101、105、110、111
尾瀬三条の滝……P95
男沼……P29
北塩原村……P65
昭和村矢ノ原湿原……P95、110、123

茨城県
旭村……P110、139
北茨城市五浦海岸……P107
里美村……P36
大子町久慈川……P46
大子町八溝山……P95
筑波山……P51、76
日立市……P88
水府村……P54

栃木県
奥日光（戦場ヶ原、中禅寺湖、湯の湖）……P20、35、51、58、100
国分寺町……P89
那須岳沼原湿原……P62

群馬県
太田市……P45
尾瀬沼……P114
六合村渋峠……P100、108
嬬恋村湯の丸高原……P79
沼田市玉原湿原……P57、73
水上町照葉峡……P28、55
水上町武尊山……P120、121

埼玉県
日高市巾着田……P17、55
皆野町……P85

東京都
五日市町秋川渓谷……P47
奥多摩町雲取山……P39、46、102
新宿御苑……P86
父島……P53、54、107、108
調布市……P63

神奈川県
小田原市……P33、103、132
国府津海岸……P109
箱根（芦ノ湖、乙女峠、湖尻、小涌谷、精進池、仙石原、箱根山、元箱根）……P24、55、67、79、102、111、126、127、128、137
真鶴町……P4、30、34、49、53、77、83、89、100、103、108、109、137
湯河原町……P15、63、65、106、116、117

山梨県
明野村……P72、88
忍野村……P24、60
笠取山……P110
雁峠より富士山……P61
櫛形林道より富士山……P60、68
精進湖より富士山……P16
丹波山村（三条沢、泉水谷、大常木谷、滑瀞谷）……P22、41、46、80、82、90、91、102、103、112、113
増穂町より富士山……P61

長野県
安曇村安房峠……P45
安曇村沢渡……P76、98
大鹿村黒川林道……P38、104
大鹿村鳥倉林道……P43、84、91、101
開田高原……P114
上高地……P14、25、72、100、101
上村しらびそ高原……P100
木曽街道馬籠……P133
北八ヶ岳白駒池……P103
霧ヶ峰……P34、35、42、50、65、71、72、73、74、85、98、114
小蓮華岳より白馬三山……P67
蓼科高原……P39、79
志賀高原……P20、42、58
栂池自然園……P104
戸隠……P13
南アルプス……P19
野沢温泉村……P52
乗鞍……P34、98、101
白馬岳……P68、99

白馬村親海湿原……P71
長谷村三峰川……P95、104
北竜湖……P19
穂高連峰……P98
堀金村……P111
松川村……P135
八千穂村……P38

新潟県

秋山郷……P13、18、38、93、108、112
糸魚川市高浪池……P23、79
糸魚川市ヒスイ峡……P46、113
菅名岳……P39
五泉市……P88
佐渡……P33、89、106
津南町……P63、69、92
長岡市……P22、88
松之山町……P41、55
火打山……P105
安塚町菱ヶ岳……P39
山北町……P58、67、135

富山県

北アルプス……P14、18
立山弥陀ヶ原……P77

石川県

白山……P42、47、92、99、110

岐阜県

池田町霞ヶ渓……P67
上宝村双六谷……P67、76、89
久々野町船山……P72
南濃町……P56

静岡県

伊豆天城……P38、51、63、87、112
伊豆賀茂村黄金崎……P29、111
伊豆河津町河津七滝……P46
伊豆下田市……P33、57、59
伊豆修善寺町達磨山より富士山……P60
伊豆土肥海岸……P109
中伊豆町……P70、94
西伊豆町……P87、106
南伊豆町……P58、107
岡部町……P49、89
函南町……P15
静岡市光岳前衛岩見平……P39
爪木崎……P23
中川根町……P25、45
沼津市大瀬崎……P77
春野町……P16、45、64
富士宮市田貫湖……P61、109
弓ヶ浜……P13、23

愛知県

鳳来町……P15

滋賀県

朽木村三国岳……P37
湖北町琵琶湖尾上浜……P73、96
マキノ町琵琶湖……P109

京都府

京都市嵐山桂川……P94
京都市大沢池……P21
京都市嵯峨野……P20
京都市高雄……P41
丹後町……P32、34、63、64、106、122
天竜寺……P134
細野町塩江……P83
宮津市……P19、68

兵庫県

大屋町……P15、41、85、94
山崎町……P87

奈良県

明日香村……P124、125
大台ヶ原……P24、28、57、77
香落渓……P136
桜井市談山神社……P9
曽爾高原……P41、114
平群町……P51
室生寺……P135
吉野山上千本……P59

和歌山県

北山村北山峡……P93
串本町……P108、133、136
古座川町……P133
瀞峡……P54

鳥取県

岩美町浦富海岸……P66

島根県

鬼ノ舌震……P25
大社町日御碕……P10、107

岡山県

倉敷市三百山より瀬戸内海……P44

山口県

東和町……P51、69、94
三隅町……P35

愛媛県

石鎚山瓶ヶ森……P95、100
美川村面河川……P81、82
柳谷村……P59

高知県

大月町……P13、30
五段高原……P131
土佐清水市大岐海岸……P33、50、77
西土佐村……P6、17、30、72、94
仁淀村……P16、38、82

長崎県

島原湾……P76、107

熊本県

阿蘇……P19、64、84、92
産山村……P42
菊池渓谷……P53、82、83、113

大分県

安心院町……P131
久住町……P49
由布川渓谷……P37、59、81、91、112

宮崎県

高千穂峡……P91

鹿児島県

霧島大浪池……P21、93

沖縄県

久米島……P87

風景のフレーミング 竹内敏信

風景のどこをどう切り取るか？写真の完成度はフレーミングによってガラリと変わる。風景写真の第一人者による待望の解説書。
【主な内容】●フレーミング／縦・横位置、撮影ポジション、季節、モノクロ、気象、シャッタースピード、撮影時間、色彩バランス●被写体別フレーミング術●実践フレーミング術 他
AB判／144ページ 定価1500円（本体）

マクロレンズ入門 日比野克

花のクロースアップの接写撮影など小さな世界を魅力的に撮影できるマクロレンズの有効な活用法と撮影法をわかりやすく解説した入門書。
【主な内容】●基礎知識編：標準マクロ、中望遠マクロ、望遠マクロ、ズームマクロ●撮影テクニック編：ボケ／露出／光／フレーミング／室内撮影●フィールド実践編 他
AB判／144ページ 定価1800円（本体）

35ミリ一眼レフ 写真の撮り方塾 森村進

「35ミリ一眼レフカメラ塾」第2弾。「1日1テーマの30日間集中講座」で、撮影の腕が上達するコツを解説する、初心者のための最新撮影テクニック集。
【主な内容】●ピント／露出補正／シャッター優先オート／長時間露光／絞り優先オート／開放絞り＆最小絞り／測光モード／レンズ／フィルター／日中シンクロ など
AB判／144ページ 定価1500円（本体）

図解★露出がわかる 豊田芳州

カメラをもったひとならかならず悩む露出について、思いどおりに撮れる露出調節、失敗しない露出の決め方・測り方などをわかりやすく解説。
【主な内容】●カメラの露出計、被写体、フィルム、写真の階調、適正露出、オート露出、マニュアル露出、露出調節のおもしろさ●被写体を発見する楽しみ ほか
AB判／128ページ 定価1500円（本体）

身近な風景撮影 田ノ岡哲哉

休日をうまく利用して風景撮影ができる術を、被写体の発見からその効果的な撮り方までくわしく紹介。効率よく撮影をこなす撮影テクニック読本。
【主な内容】●被写体ダイアリーと撮影法：サクラ、新緑、雨、水風景、紅葉、木、河岸、氷、雪●コラム／撮影前の心がけ、情報収集、半径10メートル撮影法●写真を楽しむ ほか
AB判／144ページ 定価1500円（本体）

写真撮影とらの巻 露出の決定 井村淳／福田健太郎

撮りおろしの実例写真で被写体356の露出の決定値を具体的にこまかく解説した本邦初の早わかり撮影マニュアル集。
【本書に登場する主な被写体】サクラ、ポピー、ナノハナ、ヒマワリ、新緑、紅葉、日の出・入り、雪、花火、夜景、青空、石段、海、雲海、木、都市風景、船 他
A5判／192ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

写真撮影とらの巻 シャッター速度・絞りの決定 井村淳／福田健太郎

撮りおろしの実例写真で被写体313のシャッター速度と絞りの決定方法を具体的に詳しく解説した早わかり撮影マニュアル集。
【本書に登場する主な被写体】滝、川、波、雪、花、星、花火、電車、レース、飛行機、噴水、夜景、トンボ、ロウソク、都市、朝日、木、水面、月、神社 他
A5判／192ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

超入門 35ミリ一眼レフカメラ 山岡麻子

気楽に一眼レフが扱えるための、使い方やしくみから撮り方までを解説したわかりやすい新しくカメラを始めるひとのための入門書。
【主な内容】●上手な写真●ブレとピント●絞り●シャッター速度●露出●測光モード●撮影モード●レンズ●フィルム●フレーミングと構図●ストロボ ほか
A5判／240ページ 定価1500円（本体）

イラストでよくわかる！写真撮影入門 五條伴好／五條瑠美子

身近な被写体を取り上げ、ちょっとしたコツをプラスすることによって見違えるような写真が撮れるテクニックをイラストでやさしく解説。
【主な内容】赤ちゃん／子ども／パーティー／遊園地／動物園／プール／海辺／スキー／花火／運動会／学芸会／結婚式／熱帯魚／トンボ／花／海／朝日・夕日／滝 ほか
A5判／256ページ 定価1500円（本体）

35ミリ一眼レフ カメラアクセサリーの選び方&使い方ガイド 馬場信幸

写真に関するアクセサリーについて、数多く発売されている中からどれを選べばよいか、またその効率的な使い方をユーザーの立場に立って紹介。
【主な内容】●カメラバッグ●三脚と雲台●照明用品（ストロボ、ライト）●露出計●レンズまわり用品●写真整理・鑑賞用品 ほか
AB判／144ページ 定価1500円（本体）

花風景 撮影地ガイド

プロカメラマンがすすめる花風景の全国100ベスト撮影地を、花の種類、開花時期、撮影地の特徴、撮影ポイント、地図などで詳しく解説。
【主な内容】●大雪山・美瑛・礼文島・岩木山麓・八幡平・鳥海山・箱根・佐渡・霧ヶ峰・上高地・若狭湾・大山・霧島・屋久島など全国100箇所 他
AB判／128ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

渓谷・渓流 撮影地ガイド

プロカメラマンがすすめる渓谷・渓流の全国100ベスト撮影地を、特徴、おすすめ撮影時期、撮影アドバイス、地図などとともに詳しく解説した1冊。
【主な内容】●層雲峡・奥入瀬・背戸峨廊・昇仙峡・ヒスイ峡・黒部峡谷・大杉峡谷・瀞峡・三段峡・四万十川・菊池渓谷・高千穂峡など全国100箇所 他
AB判／128ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

山の風景 撮影地ガイド

プロカメラマンがすすめる山の風景の全国100ベスト撮影地を、特徴、おすすめ撮影時期、撮影アドバイス、地図などとともに詳しく解説した1冊。
【主な内容】●旭岳・十勝岳・八甲田・月山・駒ヶ岳・鳥海山・谷川岳・妙義山・八方尾根・富士山・乗鞍・立山・剣山・石鎚山・阿蘇など全国100箇所 他
AB判／128ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

紅葉・新緑 撮影地ガイド

プロカメラマンがすすめる紅葉と新緑の全国100ベスト撮影地を、特徴、撮影ポイント、撮影アドバイス、旅の情報、詳細な地図で解説。
【主な内容】●オンネトー・洞爺湖・奥入瀬・最上峡・裏磐梯・野反湖・黒部・双六谷・周山街道・大山・長門峡・石槌山・菊池渓谷など全国100箇所 他
AB判／128ページ（オールカラー） 定価1500円（本体）

日本の滝1000【全3巻】

竹内敏信＋日本滝写真家協会

遊楽の滝 気楽に訪れ、自然を満喫してみたい滝350
和みの滝 疲れた心を優しくいやしてくれる滝350
幽遠の滝 自然の奥深くに人知れず流れ落ちる滝300

写真家の目が選んだ日本の名瀑1000！滝の写真とともに、その特徴や撮影アドバイス、交通アクセス、地図を掲載した空前絶後の滝ガイド。

■各A4変形判／176ページ 各定価2800円（本体）

ブック1冊&ビデオ2本で撮影テクニックを完全理解！

VIDEO版 風景写真術 竹内敏信

【セット内容】●VIDEO：「乗鞍・緑風春光」&「乗鞍・彩光絶佳」（各VHS・カラー30分）●BOOK：VIDEO版「風景写真術」（144ページ／本書はCAPAカメラシリーズ「風景写真術1」を一部改訂したものです）
■定価6200円（本体）

VIDEO版 野の花の撮影 八木祥光

【セット内容】●VIDEO：「上高地・花のよそおい」&「上高地・花のいろどり」（各VHS・カラー30分）●BOOK：VIDEO版「野の花の撮影」（144ページ／本書はCAPAカメラシリーズ「野の花の撮影」を一部改訂したものです）
■定価6200円（本体）

価格は本体価格です。税は別に加算されます。

中判写真の基本　三輪 薫

自然風景のダイナミックさと繊細さを表現する描写性と速写性を兼ね備えた中判カメラの魅力と撮影法をわかりやすく解説した入門書。
【主な内容】●中判カメラで撮る風景写真●中判の基礎知識●作画と表現●機材とアクセサリー、単体露出計の選び方・使い方●機材カタログ　他
AB判／144ページ　定価1800円(本体)

花の撮影基本

花はだれでも撮れる身近な被写体。レンズや光を選択した表現、機材やアクセサリーの効果的使い方など、初心者向けに基本を解説。
【主な内容】●レンズの選択と花の撮影テクニック●花の露出補正術●花のフィルターワーク●フィルムの選択とプリントの作成　他
AB判／144ページ　定価1408円(本体)

花の写真表現術　田中達也

自分が感じたように花の美しさを写真に表現してみたい。そんな人のための撮影テクニックを、10のポイントでわかりやすく解説。
【主な内容】光の選択／レンズの選択／ピント位置／絞りの選択／露出の選択／フレーミング／シャッタースピード／アングル　他
AB判／144ページ　定価1408円(本体)

風景写真の上達　山口高志

風景の美しさを引き出す撮影テクニックとは？　良い例と悪い例を並べた○×式比較写真で、プロのテクニックが見えてくる！
【主な内容】レンズの選択／光の選択／露出の選択／絞りの選択／シャッター速度の選択／フレーミングの選択／ピント位置の選択　他
AB判／144ページ　定価1408円(本体)

露出補正の攻略

露出の決定は難しくやっかいなテクニックのひとつ。写真表現と的確な露出の選択を、基礎知識とともに作例を通して詳しく解説。
【主な内容】●露出の基礎と補正法●写真表現と露出決定＝ポートレート・風景・夜景・花●露出のメカニズムと露出計　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

四季の花撮影　いがりまさし

四季折々の野の花を追い続ける著者が、撮影法や被写体の見つけ方など、独自のアイデアを豊富に紹介。野の花撮影法の決定版！
【主な内容】●野の花撮影歳時記●ズームアップ撮影術●花の撮影アイデア●イラストで見る野の花発見術　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

図解★レンズ選択BOOK

豊富なイラストと作例を駆使して、メカニズムから描写の特徴までレンズを徹底解剖。レンズ選択のヒントが満載。
【主な内容】レンズの違いと描写の特徴(広角、標準、望遠、マクロ)●レンズの種類とメカニズム●特殊レンズの描写●撮影テーマ別レンズの選択　他
AB判／128ページ　定価1500円(本体)

写真達人塾　サンダー平山

「CAPA」でおなじみの写真の伝道師サンダー平山が、最新カメラによる写真テクニック攻略の奥義をわかりやすく伝授！
【主な内容】●シャッター速度を自在にあやつれ！●撮影モードを使いこなそう●レンズが変わればオンナも変わる　他
AB判／144ページ　定価1408円(本体)

撮影モードの攻略

なかなか理解しにくい撮影モードのすべてを、7段階比較作例で解説。目で確認できるわかりやすい編集の画期的な実例集！
【主な内容】●測光方式の知識と撮影モードの理解●〈実例〉露出・絞り・シャッター速度の変化と表現●カメラ別モード設定　他
AB判／144ページ　定価1408円(本体)

図解★フィルムとプリント

写真には難解な理論がつきもの。本書ではフィルムとプリントについての基礎から応用までをイラストを中心にわかりやすく解説。
【主な内容】●露出のしくみとフィルム●フィルムカタログ●カラーフィルムとプリントの体積●プリントの修整注文の方法　他
AB判／128ページ　定価1456円(本体)

35ミリ一眼レフカメラ塾　森村 進

カメラの選び方から作品づくりのポイントまで、一眼レフカメラの基礎を一日1テーマずつ30日間でマスターする、カメラ入門に最適の1冊。
【主な内容】●基本モードの設定●フィルムの基礎●三脚の選び方・使い方●簡単な接写●望遠レンズの選び方・使い方●多重露光　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

Q&A 写真の学校　田中達也

風景写真の撮り方のポイントとコツを具体的な作例写真とQ&Aで解説した待望の体験的テクニック解説書。
【主な内容】●基礎科目編／機材・アクセサリーQ&A：作画の基礎Q&A：撮影モードの対策Q&A●現場実践編／具体的被写体撮影ノウハウ　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

プロ写真家の仕事

専門分野の写真家の仕事現場を訪ね、作品づくりの高度なテクニックをイラストと写真で詳細に紹介した1冊。
【主な内容】●ポートレート／山岸 伸●建築／三輪晃士●自然／細川 剛●野鳥／平野伸明●鉄道／諸河 久●舞台／瀬戸秀美●航空／芥川善行　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

35ミリ一眼レフ 風景の完成　山口高志

四季折々の風景を、いかにうまく写真におさめるか。季節ごとの被写体の撮り方を全国23箇所を取材し○×式で解説した注目の1冊。
【主な内容】●春：千本桜／吉野山、茶畑／中川根町●夏：渓谷と滝／由布川渓谷●秋：湖と山／巣駒山●冬：雪の富士山／富士五湖周辺、冬の絶景／裏磐梯　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

図解★光の選び方　久門 易・田中達也

光のとらえ方で写真の成否が決まる。自然の光からストロボ光まで、写真に関する光の種類や性質、光の選択による表現の違いを解説した1冊。
【主な内容】●光の種類と性質：自然の光の性質／人工光の種類と性質●光の見え方と表現：スタジオでつくるライティング●ライティングカタログ　他
AB判／128ページ　定価1500円(本体)

風景撮影STEP UP　北中康文

光や動感など風景が見せる一瞬の輝きを逃さず捉えるための撮影のヒントとノウハウを紹介した待望の風景写真最新撮影テクニック集。
【主な内容】●季節のねらい方●空間のねらい方●光のねらい方●動きのねらい方●気象のねらい方●撮影同行記●四季の魅力　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

確実な露出決定　馬場信幸

35ミリ一眼レフ・露出のすべてがわかる！ 具体的に露出補正のノウハウを分かりやすく伝授したファン必読の露出本。
【主な内容】●基礎知識●一眼レフのTTL露出計の測光方式と自動露出の問題点●露出計の適正露出●インジケーター活用法●被写体別露出決定法　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

35ミリ一眼レフ カメラ100%操作法　馬場信幸・内藤建光

現在の35ミリ一眼レフカメラについているさまざまな機能は、どんなときに使えばよいのか。より有効な撮影を楽しむためのマニュアル本。
【主な内容】●各カメラの操作部●フィルム給送・電源システム●ファインダー●フォーカス●被写体別AF活用法●測光●露出●ストロボ●アクセサリー　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

実例・写真のつくり方

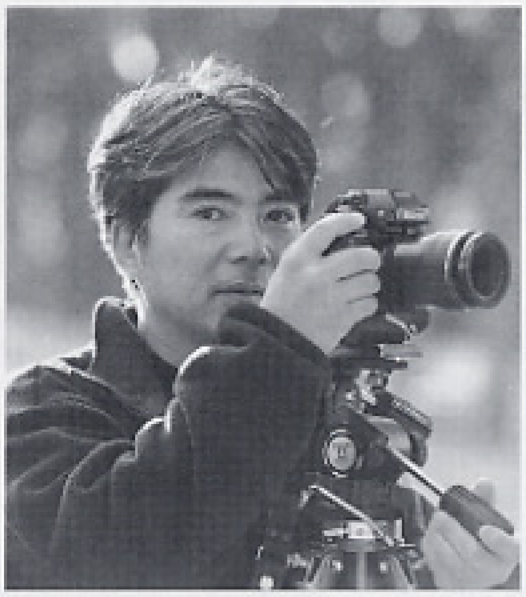
レンズ、絞り、シャッター、露出、フレーミングなどの選択過程から写真完成までを作例で解説したプロ写真家の撮影テクニックがわかる1冊。
【主な内容】●撮影の意図と表現の違い●写真のつくり方／岩と小滝の流れ、空、富士山、朝日、波、氷の造形、サクラ、キク、寺院のいらかと紅葉、都市、花火　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

35ミリ一眼レフ完全理解　久門 易

カメラと写真が基礎からわかる入門書の決定版。露出からレンズ、アクセサリーまで、その効果と使い方を紹介し、写真ライフがいっそう楽しめる1冊。
【主な内容】●カメラの使い方●ピント、シャッター●フィルム、現像●測光方式、適正露出、多重露出●ストロボ、フィルター、ステレオ写真●写真集をつくる、コンテストに応募　他
AB判／144ページ　定価1500円(本体)

★万一、書店でご希望の本が品切れの時は、書店の方に追加注文をお出しください

発行＝学研　〒145　東京都大田区上池台 4-40-5　Gakken　TEL 03-5434-2631(編集部)



山口高志／Takashi Yamaguchi

1951年、東京都目黒区生まれ。1970年から故・入江泰吉氏の撮影助手を務めた後、1974年からフリーカメラマンとなる。当初はその影響を受け、古社寺や名所旧跡などを中心に大判カメラで撮影していた。その後、しだいにその背景となる自然そのものに興味を抱き、あわせて35ミリカメラの機能の高さにひかれ、1980年ごろより、35ミリカメラで国内各地の自然風景を対象に取材、現在にいたる。主な著作物に「風景の完成」「風景写真の上達」(ともに、学研)、「山よ、海よ…」(そしえて)、「四季彩」(アドミックス)、「Somewhere―どこか―」(グラフィック社)、「瞬映」(窓社)、「世界紀行シリーズ／不思議の国のアリス」「同／モネの風景紀行」(ともに、求龍堂)、「オープンカントリー」(ピエブックス)などがある。

CAPAカメラシリーズ㊴

2週間でマスターする風景写真の基本構図

完璧な構図決定

山口 高志

発行日／2001年 8月30日

総括編集長／瀬川征彦
編集長／中 正之
編集／平山 健
校正／村井みちよ

発行人／太田雅男
編集人／須藤茂樹
発行所／(株)学習研究社
〒145-8502 東京都大田区上池台4-40-5

印刷所／共同印刷(株)

この本に関する各種のお問い合わせは、次のところにご連絡ください。
● 編集内容については、TEL03-5434-2631(編集部直通)
● 在庫、不良品(落丁、乱丁)については、
TEL03-5496-0637(雑誌営業室)
● それ以外のこの本に対するお問い合わせは、
学研お客様相談センター「完璧な構図決定」係へ
文書は〒146-8502 東京都大田区仲池上1-17-15
TELは03-3726-8124

定価はカバーに印刷してあります。
落丁、乱丁はお取りかえいたします。

©TAKASHI YAMAGUCHI
2001 Printed in Japan
G117-17360